

令和 6 年 度

授 業 概 要

理 学 療 法 学 科

学校法人 山口コア学園
山口 コ・メディカル学院

Yamaguchi Allied Health College

令和 6 年 度

- ◇ 学校行事日程
- ◇ 年次別開講科目一覧
- ◇ 実務経験のある教員等による
授業科目一覧

令和6年度 学校行事日程

	日	月	火	水	木	金	土		
		1	2	3	4	5	6	4日	入学式
4月	7	8	9	10	11	12	13	5日	対面式・前期オリ
	14	15	16	17	18	19	20	8日	前期授業開始
	21	22	23	24	25	26	27	11日	内科検診・レントゲン
	28	29	30						

	日	月	火	水	木	金	土		
				1	2	3	4	2日	自治会総会・春レク
5月	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土
							1
6月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

	日	月	火	水	木	金	土		
		1	2	3	4	5	6	7/22~8/2	前期定期試験
7月	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土		
					1	2	3	5~9日	前期定期試験予備日(再試)
8月	4	5	6	7	8	9	10	8/13~9/13	夏季休業
	11	12	13	14	15	16	17	24日	臨床実習指導者会議
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		

	日	月	火	水	木	金	土		
	1	2	3	4	5	6	7	17日	後期オリ・後期授業開始
9月	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30							

	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
10月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

18日 自治会総会・秋レク

	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
11月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

2日 学園祭

	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
12月	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

12/23～1/6 冬季休業

	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
1月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

7日 授業再開
1/20～1/31 後期定期試験

	日	月	火	水	木	金	土
							1
2月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	

2/3～2/7 後期定期試験予備日(再試)

	日	月	火	水	木	金	土
							1
3月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

8日 卒業式
春季休業(～3/31)

理学療法学科

1. 基礎科目

科目			単位		開講時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則		
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数	
英語Ⅰ（文献Ⅰ）	1		15	15									3単位必修	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解			
英語Ⅱ（医学英語）	1		15			15											
英語Ⅲ（英会話）	1		15	15													
体育理論	1		30		30								2単位必修				
体育実技	1		30	30													
哲学Ⅰ	1		15	15									6単位以上				
哲学Ⅱ	1		15		15												
心理学Ⅰ	1		15	15													
心理学Ⅱ		1	15		15												
法学Ⅰ	1		15		15												
教育学Ⅰ	1		15		15												
教育学Ⅱ		1	15		15												
社会福祉学Ⅰ	2		30		30								9単位必修				
統計学Ⅰ	1		15		15												
物理学Ⅰ	2		30	30													
物理学Ⅱ	2		30	30													
情報科学Ⅰ	1		15		15												
情報科学Ⅱ	1		15			15											
			19	2	345	150	165	30	0	0	0	0	0			14単位	
						315		30		0		0					

2. 専門基礎科目

科 目		単 位		開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則	
		必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数
解 剖 生 理 学 I	1		30	30								13単位必修	人体の構造と機能 及び心身の発達		
解 剖 生 理 学 II	1		30		30										
解 剖 生 理 学 III	1		30	30											
解 剖 生 理 学 IV	1		30		30										
解 剖 学 I 実 習	1		30	30											
解 剖 学 II 実 習	1		30		30										
運 動 生 理 学 I	1		30				30								
生 理 学 実 習	1		45			45									
運 動 学 I	1		30	30											
運 動 学 II	1		30		30										
運 動 学 実 習	1		30			30									
臨 床 心 理 学	1		30	30											
人 間 発 達 学	1		30				30								
病 理 学	1		30		30										
14単位必修	内 科 学 I	1	30			30									
	内 科 学 II	1	30				30								
	小 児 保 健 学	1	30			30									
	神 経 内 科 学	1	30			30									
	精 神 医 学	1	30			30									
	整 形 外 科 学 I	1	30			30									
	整 形 外 科 学 II	1	30				30								
	医 学 概 論	1	15	15											
	リハビリテーション医学	1	15			15									
	救 急 医 学	1	15					15							
脳 神 経 外 科 学	1	15					15								
薬 理 学	1	15					15								
栄 養 学	1	15					15								
3単位必修	リハビリテーション概論	1	30	30											
	地域リハビリテーション学	1	30				30								
	リハビリテーション工学	1	30					30							
	作 業 療 法 概 論		1	15				15							
	言 語 聴 覚 療 法 概 論		1	15				15							
	看護学概論(在宅看護学)		1	15				15							
	ポ ラ ン テ ィ ア 論	1		15		15									
		31	3	885	195	165	240	150	135	0	0	0			
					360		390		135		0				

3. 専門科目

科 目			単 位		開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則			
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数		
理 学 療 法 概 論 I	1		30	30									16単位必修	基礎理学療法学	6単位			
理 学 療 法 概 論 II	1		30		30													
理 学 療 法 概 論 III	1		30			30												
基 礎 理 学 療 法 学 I	1		30		30													
基 礎 理 学 療 法 学 II	1		30				30											
臨 床 運 動 学	1		30					30										
理 学 療 法 研 究 法	1		30									30						
リハビリテーションセミナー	1		45	45														
理 学 療 法 セ ミ ナ ー I	1		30	30														
理 学 療 法 セ ミ ナ ー II	1		30				30											
理 学 療 法 セ ミ ナ ー III	1		30						30									
理 学 療 法 セ ミ ナ ー IV	1		30							30								
理 学 療 法 セ ミ ナ ー V	1		30								30							
理 学 療 法 セ ミ ナ ー VI	3		90									90						
理 学 療 法 管 理 学	2		30									30	2単位必修	理学療法管理学	2単位			
理 学 療 法 評 価 学 I	1		30		30								6単位必修	理学療法評価学	6単位			
理 学 療 法 評 価 学 II	1		30			30												
理 学 療 法 評 価 学 III	1		30				30											
理 学 療 法 評 価 学 演 習 I	1		30					30										
理 学 療 法 評 価 学 演 習 II	1		30						30									
ケ ア マ ネ ジ メ ン ト 論	1		30							30								
理 学 療 法 治 療 学 I	2		60			60							22単位必修	理学療法治療学	20単位			
理 学 療 法 治 療 学 II	2		60			60												
理 学 療 法 治 療 学 III	2		60				60											
理 学 療 法 治 療 学 IV	2		60					60										
理 学 療 法 治 療 学 V	2		60		60													
理 学 療 法 治 療 演 習 I	2		60				60											
理 学 療 法 治 療 演 習 II	2		60					60										
理 学 療 法 治 療 演 習 III	2		60						60									
義 肢 装 具 学 総 論	1		30				30											
義 肢 装 具 学 各 論	1		30					30										
理 学 療 法 特 論 I	2		30						30									
理 学 療 法 特 論 II	2		30							30								
生 活 環 境 論	1		30				30									4単位必修	地域理学療法学	3単位
地 域 理 学 療 法 学	1		30					30										
地 域 理 学 療 法 学 演 習	1		30						30									
地域理学療法学実習(福祉施設)	1		45								45							
臨 床 基 礎 実 習	1		40			40							21単位必修	臨床実習	20単位			
臨 床 実 習 I	5		200						200									
臨 床 実 習 II	7		280							280								
臨 床 実 習 III	7		280								280							
臨床実習Ⅳ(訪問・通所リハ)	1		40								40							
			71		2280	105	150	250	240	300	380	705	150					
						255		490		680		855						

開 講 科 目 数	単 位		開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次	
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	121	5	3510	450	480	520	390	435	380	705	150
				930		910		815		855	

4. 卒業要件単位数

4. 卒業要件単位数			卒業要件単位数		
		科目数	配当単位	必修	選択
基礎	科学的思考の基盤、人間と生活	18	21	19	1
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	13	13	13	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	14	14	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	7	7	4	2
	基礎理学療法学	14	16	16	
専門	理学療法管理学	1	2	2	
	理学療法評価学	6	6	6	
	理学療法治療学	12	22	22	
	地域理学療法学	4	4	4	
	臨床実習	5	21	21	
		94	126	121	3
					124

実務経験のある教員等による授業科目一覧 理学療法学科

科目名	単位数	時 間 数			
		1年次	2年次	3年次	4年次
解剖学Ⅰ実習	1	30			
解剖学Ⅱ実習	1	30			
生理学実習	1		45		
運動学Ⅰ	1	30			
運動学Ⅱ	1	30			
運動学実習	1		30		
リハビリテーション概論	1	30			
地域リハビリテーション学	1		30		
作業療法概論	1			15	
言語聴覚療法概論	1			15	
看護学概論	1			15	
理学療法概論Ⅰ	1	30			
理学療法概論Ⅱ	1	30			
理学療法概論Ⅲ	1		30		
基礎理学療法Ⅱ	1		30		
臨床運動学	1			30	
理学療法研究法	1				30
リハビリテーションセミナー	1	45			
理学療法セミナーⅠ	1	30			
理学療法セミナーⅡ	1		30		
理学療法セミナーⅢ	1			30	
理学療法セミナーⅣ	1			30	
理学療法セミナーⅤ	1				30
理学療法セミナーⅥ	3				90
理学療法管理学	2				30
理学療法評価学Ⅰ	1	30			
理学療法評価学Ⅱ	1		30		
理学療法評価学Ⅲ	1		30		
理学療法評価学演習Ⅰ	1			30	
理学療法評価学演習Ⅱ	1			30	
ケアマネジメント論	1			30	
理学療法治療学Ⅰ	2		60		
理学療法治療学Ⅱ	2		60		
理学療法治療学Ⅲ	2		60		
理学療法治療学Ⅳ	2			60	
理学療法治療学Ⅴ	2	60			
理学療法治療学演習Ⅰ	2		60		
理学療法治療学演習Ⅱ	2			60	
理学療法治療学演習Ⅲ	2			60	
義肢装具学総論	1		30		
義肢装具学各論	1			30	
理学療法特論Ⅰ	2			30	
理学療法特論Ⅱ	2				30
生活環境論	1		30		
地域理学療法学	1			30	
地域理学療法学実習	1			30	
地域理学療法学実習(福祉施設)	1				45
臨床基礎実習	1		40		
臨床実習Ⅰ	5			200	
臨床実習Ⅱ	7				280
臨床実習Ⅲ	7				280
臨床実習Ⅳ(訪問・通所リハ)	1				40

基 礎 科 目

理学療法学科

1 年 次

基 礎 科 目

- ◇ 英語Ⅰ（文献Ⅰ）
- ◇ 英語Ⅲ（英会話）
- ◇ 体育理論
- ◇ 体育実技
- ◇ 哲学Ⅰ
- ◇ 哲学Ⅱ
- ◇ 心理学Ⅰ
- ◆ 心理学Ⅱ

- ◇ 法学
- ◇ 教育学Ⅰ
- ◆ 教育学Ⅱ
- ◇ 社会福祉学
- ◇ 統計学
- ◇ 物理学
- ◇ 生物学
- ◇ 情報科学Ⅰ

（◆選択科目）

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	英語 I (文献 I)					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	池園 宏						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 英国文化の諸相について解説した英文テキストを読み、英語の読解力を身につけるとともに、異文化に対する関心を深める。					【到達目標】 ・まとまった分量の英文を読み、英語の読解力を身につける。 ・英文読解に必要な英文法力を身につける。 ・テキストの様々な課題に取り組むことで、英語の内容を多角的に理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	イントロダクション					授業の全体的な方針や内容について理解する				
2	気候					英国の気候について、英文読解を通して理解する				
3	スポーツ					英国のスポーツについて、英文読解を通して理解する				
4	住居					英国の住居について、英文読解を通して理解する				
5	国民性					英国の国民性について、英文読解を通して理解する				
6	交通					英国の交通について、英文読解を通して理解する				
7	プライバシー					英国のプライバシーについて、英文読解を通して理解する				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	プリント配布									
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 授業内活動(30%) 2. 期末試験(70%)					履修上の 注意	・毎回必ず予習を行って授業に臨むこと。 ・毎回必ず英和辞書を持参すること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	英語Ⅲ(英会話)					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	尊田 望 (Sonda,Nozomu)						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 初級上から中級の下程度の学習者(英検準2級前後、TOEIC400点前後)を対象とし、中級の下から中程度のレベルを目標とする(英検2級程度、TOEIC 500点程度)。中学校程度の英語を復習しながら、様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。					【到達目標】 基本的な自己紹介ができる。日常的なトピックについて簡単な会話ができる。社会的な事柄や問題について自分の意見を簡単な英語で述べることができる。					
授業の主な要素 * Warm-up * Conversation * Vocaburary exercise * Grammar and drill exercise * Graded Readers * Communication game / exercise on a given topic * Summary										
回数	項目			内容				宿題		
1	Getting acquainted & Family 自己紹介・家族			会話演習・語彙ゲーム・Mind game or 家系図				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Travel)		
2	Travel Abroad 海外旅行			会話演習・語彙ゲーム・国名クロスワード・国旗				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Food)		
3	Food & Eating 食べ物と食べること			会話演習・語彙ゲーム・Restaurant game & placing orders				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Movies,TV & Music)		
4	Movies & Music 映画と音楽			会話演習・語彙ゲーム・movie viewing & listening exercise				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Numbers)		
5	Love & marriage 恋愛と結婚			会話演習・語彙ゲーム・Romance score game				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Love & Romance)		
6	Culture & places in Japan 日本の文化と地理			会話演習・語彙ゲーム・Japanese story game				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Japan)		
7	Global Community 国際社会			会話演習・語彙ゲーム・"Where is Matt san?" & global community building				語彙リスト・Graded Reader 感想・英文エッセイ(Word)・試験の準備		
8	Final Exam 期末試験			英語会話						
教科書	書籍名			著者				出版社		
	Daily Conversations & Deep Topics 4th edition			Nozomu Sonda & John Spiri						
参考 図書等										
成績評価 方法	●授業内演習=20% ●宿題=20% ●プレゼンテーション=20% ●期末試験=40%			履修上の 注意	欠席の場合は教官に相談して下さい。 辞書を持参すること。					
				実務経験 紹介						

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	体育理論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	杉浦 崇夫						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 本講義では、健康の保持増進のための身体運動の意義を理解するとともに、健康の保持増進のために運動を実践する際に必要な基本的考え方ならびに具体的方法について理解修得することを目的とする。					【到達目標】 1.身体運動時のからだの変化を説明できる。 2.健康の保持増進を目的とした身体運動の効果について説明できる。 3.健康の保持増進を目的とした身体運動を実践するための具体的方策を立案できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	ガイダンス					運動の功罪について、トレーニングがからだに及ぼす変化についてプラス/マイナス両方の影響について理解する。				
2	身体運動時のエネルギー産生					ATPの再合成経路である ATP-CP系、乳酸系、有酸素系の特性について理解し、運動との関連について説明することが				
3	呼吸器系と運動					運動時の呼吸器系の変化とトレーニングによる変化について理解する。				
4	循環器系と運動					運動時の循環器系の変化とトレーニングによる変化について理解する。				
5	骨格筋の基本的構造 筋線維タイプの特性と運動					骨格筋の基本的構造ならびに筋線維タイプの特性を理解し、トレーニングによってどのように変化するかを説明するこ				
6	発揮張力に及ぼす要因ならびに収縮様式と筋力					筋の収縮力に及ぼす生理学的メカニズムや筋の収縮様式とその特性について理解し説明することができる。				
7	筋萎縮と筋肥大					筋萎縮と筋肥大のメカニズムについて理解するとともに萎縮の予防策について説明することができる。				
8	運動時のエネルギー基質					運動時の栄養素についての知識を修得し、 持続的パフォーマンスを高めるためのスポーツ飲料の組成について				
9	エネルギー消費の算出法					RMRとMETsを理解し、エネルギー消費量を算出することができる。				
10	肥満と運動					生活習慣病としての肥満の成因について理解しその予防策について説明することができる。				
11	骨粗鬆症と運動					生活習慣病としての骨粗鬆症の成因について理解しその予防策について説明することができる。				
12	動脈硬化と運動					生活習慣病としての動脈硬化の成因について理解しその予防策について説明することができる。				
13	糖尿病と運動					生活習慣病としての糖尿病の成因について理解しその予防策について説明することができる。				
14	運動処方(有酸素運動)					健康保持のための有酸素運動の必要性を理解し実施の具体について説明することができる。				
15	運動処方(無酸素運動)					健康保持のための筋力トレーニングの必要性を理解し実施の具体について説明することができる。				
16	まとめ									
教科書	書籍名					著者		出版社		
	現代栄養科学シリーズ18「運動生理学」					池上 晴夫(著)		朝倉書店		
参考図書等										
成績評価方法	期末試験と授業態度で評価する。					履修上の注意	欠席が4回以上の者には単位を与えない。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	体育実技					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	実技
担当	兼行 剛士						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 新体力テストの中から室内で実施できる6種目を測定することで個々の運動能力を知り、その後の活動の中で改善と向上を図る。球技(ソフトタッチバレーボール)やパラスポーツを協力しながら行い、「するスポーツ」の楽しさを体感しながら体力の向上と相互理解を深める。「支えるスポーツ」の視点から、リハビリテーションとの関りが強く、またアスレティックトレーナーの分野でもあるストレッチ・各種トレーニング・テーピング等の基本的な実践方法を修得する。					【到達目標】 ・個々の運動能力の現状を知り、実践の中でその改善と向上を図る。 ・他者と協力しながら、個々の運動能力に応じて「するスポーツ」の楽しさを体感し、体力の向上を図り相互理解を深める。 ・「支えるスポーツ」の視点からストレッチ・各種トレーニング・テーピング等の実践方法を修得する。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション 新体力テスト「反復横跳び 握力 長座位前屈 立ち幅跳び 上体起こし				体育実技のねらいと内容を理解する 正しい測定方法で正確に測定を行う					
2	20mシャトルラン 測定結果の集計・評価 球技(ソフトタッチバレーボール)				測定の結果を集計・評価し今後の活動に活かす 他者と協力し安全に球技を楽しむ					
3	コーディネーショントレーニング① 球技(ソフトタッチバレーボール)				動きの調整力を高める運動を、その目的を理解しながら体験する					
4	ポッチャ 球技(ソフトタッチバレーボール)				手軽にできるパラスポーツを体験しその楽しさと実施方法を知る					
5	ストレッチボールによるストレッチ 球技(ソフトタッチバレーボール)				用具を使用した柔軟運動のやり方を体験し理解する					
6	チューブトレーニング 球技(ソフトタッチバレーボール)				用具を使用した筋力トレーニングのやり方を体験し理解する					
7	コーディネーショントレーニング② 球技(ソフトタッチバレーボール)				動きの調整力を高める運動を、その目的を理解しながら体験する					
8	ゴールボール 球技(ソフトタッチバレーボール)				手軽にできるパラスポーツを体験しその楽しさと実施方法を知る					
9	スポーツマッサージ 球技(ソフトタッチバレーボール)				マッサージの基本的なやり方を体験・習得する					
10	コアトレーニング・ピラティス 球技(ソフトタッチバレーボール)				体幹トレーニングの効果を理解し、基本的な動きを体験・習得する					
11	テーピング① 球技(ソフトタッチバレーボール)				テーピングの効果を理解し基本的なやり方を体験・習得する					
12	テーピング② 球技(ソフトタッチバレーボール)				テーピングの効果を理解し基本的なやり方を体験・習得する					
13	球技実技 (多種目:学生企画)				集団スポーツに参加し楽しむことで、スポーツ活動の資質や能力を育てることに関心を持つ。					
14	球技実技 (多種目:学生企画)				集団スポーツに参加し楽しむことで、スポーツ活動の資質や能力を育てることに関心を持つ。					
15	球技実技 (多種目:学生企画)				集団スポーツに参加し楽しむことで、スポーツ活動の資質や能力を育てることに関心を持つ。					
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	特になし									
成績評価 方法	出席状況 授業への興味・関心・意欲・態度 安全への配慮 協力の姿勢				履修上の 注意	運動のできる服装と体育館シューズで参加すること ピアス・ネックレス等は安全上禁止する 爪の長さに配慮すること 水分補給の用意				
					実務経験 紹介					

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	哲学Ⅰ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 近年、科学技術の発展とともに、医療をめぐる技術にも大きな変化がある。また、疾病の構造が変化し、従来の「おまかせ医療」では通用しなくなった。そのような激動の医療現場では、さまざまな利害が衝突し、また、価値を伴う判断を迫られることになる。そのような場合に、判断の根拠となるものが「倫理」である。本講では、生命や医療にまつわる生命倫理学の立場から、さまざまな医療環境における問題を考える力を養う。					【到達目標】 ・医療の歴史が大枠で理解できる。 ・人権、患者の権利について、歴史的な視点から理解できる。 ・生命倫理学の誕生について、理解できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	バイオシックスのあらまし、オリエンテーション (受講上の注意とルール、何を何のために学ぶか)					倫理学とはなにか、今後どのような意識をもって臨めばよいかを理解する				
2	疾患構造の変化とパターンリズム					従来の医療のあり方についてどのようなものかを知り、批判的な検討ができる				
3	患者の権利の誕生 (人権と患者の権利)					患者の人権がどのように誕生し、それをどのように守るかに ついて、制度やしぐみが理解できる				
4	人体実験と生命倫理学 (第2次世界大戦と、医療)					第二次世界大戦における医療の負の歴史について学び、医療者としての責任責務について、十分に理解する				
5	高度先端医療と生命倫理					20世紀以降、高度先端医療が発展したことの功罪について、検討し理解する				
6	コ・メディカルと医療倫理					チーム医療について学び、その重要性について理解できる				
7	総括					今までのまとめをするとともに、疑問点やポイントについて理解し、説明できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	プリントを配布します。									
参考 図書等	医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順					宮坂道夫		医学書院		
成績評価 方法	定期試験					履修上の 注意	講義形式ではあるが、積極的な参加を求めます。講義を受けるときの注意事項は第一回で詳述するので、理解して講義に臨むようにしてください。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	哲学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 哲学Ⅰに引き続き、医療をめぐる倫理的な問題について哲学、倫理学の視点から考える。Ⅰでは主に総論的な視点を学習したが、このⅡでは、実際に医療現場で起こっていることをひとつずつ検証しながら、話を進めていく。生、性、死に関する具体的な倫理学を通して、職業倫理についての基本的要素を養う。					【到達目標】 ・生命誕生における生命倫理学的問題について、理解できる。 ・先端技術の推進派、否定派、様々な立場を理解する。 ・死について、考えることができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	生と性をめぐる生命倫理学・・・人工妊娠中絶 (日本の中絶をめぐる制度と法律、優生学)					前期の総論を踏まえて、生殖に関する制度法律の歴史を学び、理解する				
2	生と性をめぐる生命倫理学・・・人工妊娠中絶2 (キリスト教世界における中絶と、世界)					人工妊娠中絶について世界の動向や、考え方が理解できる				
3	生と性をめぐる生命倫理学・・・出生前診断					優生学という考え方を批判的に検討し、出生前診断などの技術を理解できる				
4	生と性をめぐる生命倫理学・・・高度生殖医療 (高度生殖医療の種類と実際)					高度生殖医療における倫理について理解できる				
5	生と性をめぐる生命倫理学・・・高度生殖医療2 (代理母、代理出産の現状と未来)					高度生殖医療をめぐる問題点について、子どもの権利とともに理解できる				
6	高度生殖医療についてのビデオ視聴					実態を理解し、患者やその家族の心情や苦しみに寄り添うことができる				
7	生命倫理学まとめ					生命倫理学の今日的な課題について、積極的に情報集める能力を身につける				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	プリントを配布します。									
参考 図書等	医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順					宮坂道夫		医学書院		
成績評価 方法	定期試験					履修上の 注意	講義形式ではあるが、引き続き積極的な参加を求めます。質問シートの活用をしてください。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	心理学 I					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	恒吉 徹三						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人のこころを理解する基礎的な視点について学ぶことを目的とする。特に、個人差や社会への適応とかかわる領域を取り扱う。その際、身近な題材も講義の中に取り入れることで、心理学を身近なものとして理解し、臨床現場での対象者の理解に生かせるように学んでいきます。					【到達目標】 ・心理学の基礎的な概念や理論について理解し説明ができる。 ・心理学の中でも特に個人差のかかわる領域に関する概念やその研究方法について理解し説明ができる。 ・臨床的な場や日常的なことに関連付けて心理学的な概念を理解し説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	心理学とは（心理学の特徴、歴史、データの収集方法）：レポート①					心理学の歴史の概要、初期の主要3学派の特徴、基本的な研究方法について理解し説明できる				
2	心の発達① （アタッチメント理論を中心に）					発達の基本的な捉え方、乳児の研究手法、アタッチメントの基本概念と研究方法、個別スタイルの特徴、共同注意、心の理論について理解し説明できる				
3	心の発達② （エリクソンの理論を中心に）：レポート②					エリクソンの個体発達分化の図式（漸成的発達論）について各段階の特徴を理解し説明できる				
4	動機づけ （動機づけの種類とその意味づけ）					動機づけの概念、行動との関連、動機づけと葛藤について理解し説明できる（マズローの欲求階層説、自己決定論も含む）				
5	感情の理論、パーソナリティ理論 （特性論と因子論およびいくつかのパーソナリティ理論）					感情の生起メカニズムやその理論、及びパーソナリティ理論とそ分類について理解し説明できる（特性論と因子論、ビッグファイブを含む）				
6	知能 （古典的理論と現代的理論）：レポート③					知能の理論と知能の発達段階における特徴について理解し説明できる（ピアジェの発生的認識論、多重知能理論含む）				
7	ストレスとメンタルヘルスケア （基本モデルといくつかの理論的立場からの説明）					ストレスの基本的な概念と援助理論の基本的な理論について理解し説明できる（ストレスの発生メカニズム、防衛機制を含む）				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	はじめて出会う心理学(第3版)					長谷川寿一・東條正城・大島尚 他著		有斐閣アルマ		
	アイデンティティの心理学*					鐘幹 八郎		講談社現代新書		
参考 図書等	*関心に応じて読んでください。									
成績評価 方法	1. 授業内レポート(30%) 2. 試験(70%)					履修上の 注意	授業内レポートを3回実施します。これは、授業で学んだ内容を、自分がどの程度説明できるかを確認するための振り返りレポートです。 (平常点:30点=10点×3回)			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	選択	科目名	心理学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	小野 史典						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の心の働きを科学的な視点から概観する。特に人間の知覚的および認知的側面に焦点を当て、我々の生活場面における心的メカニズムを論考する。					【到達目標】 心理学の基礎的な知識と共に、日常生活における様々な心的営みに対して科学的な観点から考察する能力を修得することが目的。					
回数	授業内容					学習目標				
1	効果の確かさ					心理学における心の働きの解明する代表的な研究法について理解する				
2	知覚					人間の知覚における基本的な仕組みを理解する				
3	認知					人間の認知に関する代表的な研究とその知見について理解する				
4	発達					人間の発達に伴う認知の変化について理解する				
5	学習					心理学における学習の基礎とその考え方について理解する				
6	記憶					心理学における記憶の考え方と代表的な知見について理解する				
7	動機					動機づけに関する基本的な考え方とそのメカニズムについて理解する				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	テキストは用いず、講義資料に基づいて授業を行う。									
参考図書等	講義中に紹介する。									
成績評価方法	1. 試験(50%) 2. 出席(50%)					履修上の注意	自分なりの講義ノートを作成し、それを試験に活用されたい。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	法学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	小林 友則						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 いかなる仕事においても、また私生活においても、意識するか否かを問わず、法と無関係でいられることはない。そこで法学では、法が社会をどのように規律しているかを学ぶ。 授業では生活・仕事において関わる可能性が高い法制度を素材として、いかなる趣旨の下、どのような規範が定められているかを学ぶとともに、法による規律の結果がどうなるかを考える。					【到達目標】 ・法システムがどのような形で社会を規律しているかを理解する。 ・法システムによる規律の結果がどうなるかを考えられるようになる。 ・生活・仕事において関わる可能性が高い法制度の内容を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	試験					法がどのような形で社会を規律しているかを理解する 法規範の使い方を理解する				
2	法システム内の法律や権利					法システムがどのような法律や権利を内包しているか理解する				
3	契約制度					社会において人と人との相互の関係を自律的に構築していくための法制度を理解する				
4	代理制度					他人を通じて関係性を構築するための法制度を理解する				
5	瑕疵ある意思表示を規律する制度					望む形とは異なる契約が締結された場合にどのような規律がなされるかを理解する				
6	著作物および個人情報の保護					著作権法および個人情報保護法が社会をどのように規律しているか理解する				
7	不法行為制度					法的な権利・義務関係を時間の経過をもって変更する法制度を理解する				
教科書	書籍名					著者				
	18歳からはじめる民法〔第5版〕					潮見佳男 他編著				
						法律文化社				
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	期末試験の結果で評価する					履修上の注意	2024年度は前期に開講いたします。			
						実務経験紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	教育学Ⅰ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	佐々木 司					教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無	
【授業の概要】 教育の原理的な面を、教育の意義、人間の発達と教育、学校教育の課題などから広範に理解することにより、教育学の基礎を身につける。					【到達目標】 ・医療・福祉・保健分野における教育の意義を理解する。 ・人間の発達と可能性に及ぼす教育の影響について理解する。 ・学校教育の課題や制度的変容を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	講義についての説明、アイスブレイキングの技法・・・講義、グループワーク					授業概要、授業における到達目標、授業計画全体を俯瞰したうえで、個別の授業の意味や意図を知ろうとする見方を身につける。				
2	新しい教育課題・・・講義					変化の激しい時代において、何が現代的な教育課題として生まれ、それに対してどのような改善策、改革案が考えられているのかを知る。				
3	人間の発達と教育・・・講義、グループワーク					人間の成長・発達とは他の動物とどのように違っているのか、人の成長・発達を支援するとはどのようなことなのかを理解する。				
4	教育推進の基本的方向・・・講義					医療・福祉・保健分野における教育の意義、求められている方向性、注意すべき諸点について学ぶ。				
5	学校という制度・・・講義					学校という馴染みのある教育機関について相対化して捉え直すことで、教育の意味や意義、学校の利点と問題点などを考察する。				
6	社会教育のしくみと課題・・・講義					地域社会で行われている教育、学校と社会との連携・融合について学ぶ。コミュニティ・スクールなど、地域の教育力を活かした取り組みについても理解する。				
7	進路指導と生徒指導・・・講義、グループワーク					学校の教師が行っている進路指導・生徒指導を、医療関係者に応用しながら、ものの見方、考え方を高める。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	やさしく学ぶ教育の原理					佐々木 司・熊井将太 編著		ミネルヴァ書房		
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 提出課題(30%) 2. 試験(70%)					履修上の 注意	・毎回、ノートをしっかりと取り、その日のうちに復習すること。			
						実務経験 紹介				

科目 区分	基礎	履修形態	選択	科目名	教育学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	佐々木 司						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 教育の方法や技能の基礎・基本を、医療現場で働く者にも求められる重要なスキルとして捉え、教育の方法や各種技能を身につける。					【到達目標】 ・医療・福祉・保健分野に応用可能な教育方法の本質と技法を理解する。 ・指導案の作成過程を通して、他者に学習を促す際の要点を理解する。 ・模擬授業を行うことによって、授業者としての課題と改善点を知る。					
回数	授業内容					学習目標				
1	授業についての説明、「教育の方法」を学ぶための心構えと具体的方法…講義					医療分野への応用を意識しながら、教育の分野ではどのような教授方法、学習支援方法等が用いられているのかについて、基礎的事項を習得する。				
2	教師の職務と責任…講義、グループワーク					教師の職務と責任を理解するとともに、それを医療分野に応用するために、どのような見方、考え方をすればよいのか。また、他者から学習意欲や肯定的な反応を引き出すにはどうすればよいのかを学ぶ。				
3	教育方法の基礎…講義					教育には、いくつもの方法、技術が埋め込まれている。そして、それら教育方法は、時代とともに変容してきた。教育の方法には、いかなるものがあるのか、それらは何を意図しているのかについて理解する。				
4	授業の構成要素と発問の組織化…講義					これまで学校において数多く受けてきた「授業」を、時間、流れ、構成要素、教師の行為等の面から分析・考察することにより、ものごとの内面、背景、意図を実感できるようになる。				
5	指導案の作成…講義、グループワーク					授業の計画書である指導案を作成する過程において、授業を行う者(教師)は何に配慮して授業を計画しているのか、また、それを踏まえて、授業を受ける側(生徒)は、どのような態度で授業に参画すればよいかを学ぶ。				
6	「模擬授業」をやってみる…グループワーク					「模擬授業」を実際に行ってみることで、教えること、思考をゆさぶることのおもしろさと難しさを体験する。できるだけ指導案を見ずに授業を行うことで、自分のものにしたうえで授業を行うことを実体験する。				
7	まとめと省察…グループワーク					行った「模擬授業」と、そのための準備として計画作成した自身の指導案を見つめ直す。また、他者が行った授業と比較して、どのような改善を加えれば、他者を学び、成長へと向けられるのかを考察する。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	やさしく学ぶ教育の原理					佐々木 司・熊井将太 編著		ミネルヴァ書房		
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 提出課題(30%) 2. 試験(70%)					履修上の 注意	・毎回、ノートをしっかりと取り、その日のうちに復習すること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	社会福祉学					
単位数	2	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	服部 恭弥						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 「社会福祉の定義」「高齢者の生活と福祉」「障害者の自立と福祉」「社会福祉の法」、以上の項目を中心に、社会福祉士としての立場から講義する。					【到達目標】 医療従事者として必要な社会福祉の基礎知識について習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	社会福祉の概念					社会福祉の概念を理解できる				
2	社会福祉を支える原理					社会福祉を支える原理を理解できる				
3	社会保障の仕組					社会保障の仕組				
4	最低保障と生活保護					最低保障と生活保護について理解できる				
5	生活保護の種類					生活保護の種類について理解できる				
6	高齢者の生活と福祉					高齢者の生活と福祉について理解できる				
7	高齢者介護を支える制度					高齢者介護を支える制度について理解できる				
8	介護保険制度の仕組					介護保険制度の仕組について理解できる				
9	高齢者の住まいと介護の提供					高齢者の住まいと介護の提供について理解できる				
10	障害者の自立と福祉					障害者の自立と福祉について理解できる				
11	障害者の生涯保障の理念					障害者の生涯保障の理念について理解できる				
12	自立支援給付と地域支援事業					自立支援給付と地域支援事業について理解できる				
13	少子化の進行と支援政策					少子化の進行と支援政策について理解できる				
14	児童福祉から児童家庭福祉へ					児童福祉から児童家庭福祉について理解できる				
15	地域共生社会への展望					地域共生社会への展望について理解できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	新・社会福祉とは何か					大久保 秀子 著		中央法規		
	適宜紹介									
参考 図書等										
成績評価 方法	期末試験(100%)					履修上の 注意	積極的に授業に参加することを望む。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	統計学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	内野 英治						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 看護・福祉・医療の分野においては、データを統計的に解析する場合が非常に多い。本科目では、講義と演習を交互に行い、実際の現場で統計学をすぐに活用できる力を身につけることを目的とする。本科目では、統計学を学習するのに必要な基礎知識と統計学の入り口を学習する。					【到達目標】 統計の基礎用語の概念が説明できる。確率変数、確率密度関数について説明できる。確率分布の意味がわかる。分布表を活用できる。点推定の計算ができる。区間推定の計算ができる。簡単な検定ができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	統計の話、統計の基礎用語 (平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差) 演習					統計の基本用語を理解し、それらがどのような量であるかの説明ができる。				
2	確率の基礎 (事象、確率変数、確率密度関数) 演習					統計学は確率論に基盤を置いているため、統計学を理解するために必要最低限な確率の基礎を理解する。				
3	確率分布 (正規分布、t分布、X2分布、分布表) 演習					様々な確率分布が存在することを理解すると共に、それらの確率分布表が読めるようになる。				
4	点推定、区間推定 演習					サンプルから全体集団(母集団)の平均値や分散の推定ができ、また母集団の平均値の範囲が推定できる。				
5	検定 (帰無仮説、対立仮説、有意水準、平均値の検定) 演習					検定の基本概念である帰無仮説、対立仮説が説明でき、また、有意水準の概念および両側検定、片側検定を理解し、平均値の検定ができる。				
6	検定 (平均値の差の検定) 演習					二つの異なる集団間の平均値に差があるかどうかの検定ができる。				
7	検定 (適合度の検定) 演習					ある現象が正しい確率で生起しているかの検定(適合度の検定)ができる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	統計データ解析					小野瀬 宏(著)		内田老鶴園		
	PT・OTのための統計学入門					渡邊 宗孝 他		三輪書店		
成績評価 方法	試験(100%)					履修上の 注意	特になし。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	物理学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	國安 正志						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 物理学(主に力学)の基本的な内容から医療現場における応用まで、初めて物理を学ぶ学生にも理解できるように講義する。					【到達目標】 ・力学の基礎知識を習得し、具体的な計算方法などを理解する。 ・力学の医療現場における応用例を学習する。 ・物理学を学習することで、理論的な考え方を身に付ける。					
回数	授業内容					学習目標				
1	移動動作に必要な力の加減(1)					物理を学習する上で必要不可欠である数学の復習を行う。特に三角比やベクトルへの理解を深める。				
2	移動動作に必要な力の加減(2)					物理学における「力」の概念を学習する(数学が必須なため、学習状況によりその復習に充てる)。				
3	「力のつりあい」を応用する(1): 牽引					複数の力が働く場合に、それらのつりあいをベクトルに基づいて理解する。				
4	物の量を表すときに欠かせない「単位」の話					物理における「単位」あるいは「次元」の重要性を理解する。				
5	体位変換に役立つトルクの知識(1)					回転動作を引き起こすトルク(あるいはモーメント)の基礎を学ぶ。				
6	体位変換に役立つトルクの知識(2)					回転動作の応用例として人体におけるトルクのはたらきを学習する。				
7	安定・不安定(1)					有限の大きさを持つ物体の物理上における取り扱いを学ぶ。				
8	安定・不安定(2)					様々な形状の物体におけるトルクのはたらき方を理解する。				
9	撃力と骨折					運動量と撃力について学び、物体の破壊動作との関係性を調べる。				
10	「摩擦」は天の邪気?(1)					摩擦の概念や種類を学び、その基礎知識を得る。				
11	「摩擦」は天の邪気?(2)					摩擦がはたらく場合の運動などを調べ、具体的な問題を解けるようにする。				
12	「力のつりあい」を応用する(2): 反対牽引					滑車や張力について学び、その応用として牽引を紹介する。				
13	作用・反作用ってなに?					力学の第三法則である作用・反作用の法則を学ぶ。				
14	力学を人体に適応する(1)					力学の復習および応用として人体における力やトルクのはたらきを計算する。				
15	力学を人体に適応する(2)					14回目に同じ。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	Newベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学					平田 雅子(著)		学研メディカル秀潤社		
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 授業評価(15%) 2. 期末試験(85%)					履修上の 注意	初めて物理学を学習する生徒にとっては、難解な授業になる可能性もあるため、事前の予習や授業後の復習などで各自理解を補うこと。自主性をもって学習に取り組むこと。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	生物学					
単位数	2	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	山本 芳実						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 生物学は20世紀後半に非常に大きな展開を見せ、今世紀は生命科学・生物科学の時代といわれるまでに なった。食料・医療・環境などをめぐる様々な諸問題を理解し、対処するためには、生物学の基礎知識が必要 である。生命誕生以来現在まで絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと生命活動を支える精妙な仕組みに ついて、基本的な事柄を中心に解説し、現代生物学の考え方や基礎知識を習得できるようにする。					【到達目標】 ・現代生物学の概要を理解する。・専門教育に必須な生物学の基礎知識を習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	細胞について					細胞の構造と機能について理解する。				
2	代謝とエネルギー代謝					異化と同化、生体におけるエネルギーの流れを理解する。				
3	細胞分裂と生命の連続性					体細胞分裂のメカニズムと多細胞生物の形成について理解する。				
4	減数分裂と遺伝					減数分裂と遺伝のメカニズムを理解する。				
5	遺伝と遺伝子					多様な遺伝現象と遺伝子の役割を理解する。				
6	DNAと遺伝子					二重らせん構造とDNA複製機構を理解する。				
7	タンパク質1					生体物質としてのタンパク質の構造と機能を理解する。				
8	タンパク質2					セントラルドグマ：細胞でタンパク質がつくられるメカニズムを理解する。				
9	組換えDNA技術からゲノム編集まで					人工的にタンパク質をつくる、また細胞を改変する技術を理解する。				
10	ゲノムとは					ゲノムプロジェクトとは何か、また新しいゲノム観を理解する。				
11	発生と分化1					多様な受精と発生現象を理解する。				
12	発生と分化2					発生のしくみを理解する。				
13	進化と系統分類学					種概念、進化の実態を理解する。				
14	進化論					ダーウィン進化論と中立説について理解する。				
15	ヒトの進化					ヒトを進化の産物として理解する。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	特に定めない。 (興味があれば、参考図書を一冊選択して下さい。)									
参考 図書等	サイエンスビュー生物総合資料					長野 敬(著) 牛木 辰男(著)		実教出版		
	系統看護学講座 基礎分野 生物学					高畑 雅一 増田隆一 北田一博		医学書院		
成績評価 方法	1. 授業態度(10%) 2. レポート(20%) 3. 確認テスト(70%)					履修上の 注意	高校までの生物学及び化学について復習しておくこと。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	情報科学 I					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	富田 公治						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 コンピュータ初心者想定したパソコン入門編。おもにワープロソフト(Word)と表計算ソフト(Excel)の実習を行う。					【到達目標】 ・ファイルやフォルダ(ディレクトリ)の概念を理解し、管理できる。 ・Wordを用いた文書の作成ができる。 ・Excelの基本的機能(書式設定、基本関数、グラフ)を使うことができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	Windowsの操作					ファイルやフォルダ(ディレクトリ)の概念を理解し、管理できる。				
2	Word(文書・表)・課題					Wordで文書や表を作成する。				
3	Word(画像・図・数式)・課題					Word文書に画像・図・数式を挿入する。				
4	Excel(入力)					Excelのワークシートにデータを入力する。				
5	Excel(関数・書式)・課題					Excelで関数と書式設定を使用して表を作成する。				
6	Excel(参照・関数)・課題					表計算ソフトの相対参照と絶対参照を理解する。 基本的な関数を使用する。				
7	Word・Excel課題					WordとExcel課題に関する課題				
8	課題提出					課題の遂行と提出				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者			出版社	
	30時間でアカデミック Office2021					杉本くみ子、大澤栄子			実務出版	
成績評価 方法	毎回の授業態度、出席、課題により総合的に評価する。 1. 授業態度、出席(30%) 2. 課題(70%)					履修上の 注意	・USBメモリが必要だが、初回の授業では持参しなくてもよい。			
						実務経験 紹介				

2 年 次

基 礎 科 目

◇ 英語Ⅱ（医学英語）

◇ 情報科学Ⅱ

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	英語Ⅱ(医学英語)					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	齋藤 由華						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 通常の英語ではあまりなじみのない医学英語に慣れるため、まず医学英単語について学び、各臓器について解説してある教科書を読む。					【到達目標】 ・医学英単語の基本的な構成要素を理解する。 ・英文の構造を意識しながら、和訳する。 ・英文を通して、テキストの各単元の内容を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方など) CHAPTER 1 The Human Body					・医学英語とは何かを認識する。 ・英文の構造に触れながら、人体にX20:AT33について理解する。				
2	CHAPTER 2 The Skeletal System					・骨格について理解する。 ・人体について復習し、知識を定着させる。				
3	CHAPTER 3 The Muscular System					・筋肉について理解する。 ・骨格について復習し、知識を定着させる。				
4	CHAPTER 4 The Circulatory System					・循環器について理解する。 ・筋肉について復習し、知識を定着させる。				
5	CHAPTER 7 The Digestive System					・消化器について理解する。 ・循環器について復習し、知識を定着させる。				
6	CHAPTER 8 The Urinary System					・消化器について理解する。 ・循環器について復習し、知識を定着させる。				
7	総復習					・これまでの授業を総復習し、習熟度を確認する。 ・試験に備える。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	医療従事者のための医学英語入門					清水 雅子(著)		講談社		
参考 図書等	ステッドマン医学大辞典							メジカルビュー社		
成績評価 方法	出席点(10点)+期末試験(各90点)=100点					履修上の 注意	・必ず教科書を持参すること。 ・辞書を各自用意すること。 (電子辞書は可、スマートフォンは不可) ・解剖学の知識がある前提で授業を進めるため、 復習を行っておくこと。			
						実務経験 紹介				

科目区分	基礎	履修形態	必修	科目名	情報科学Ⅱ					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	富田 公治						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方とスライドのまとめ方について学習する。表計算ソフト(Excel)の機能と応用を学習する。					【到達目標】 ・PowerPointの基本的な機能を使用することができる。 ・Excelの基本的な関数の仕様とその他の有用な機能を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	PowerPoint (1)					PowerPointでプレゼンテーションを作成する方法を学ぶ。 スライド作成、図などの挿入の方法を学ぶ。				
2	PowerPoint (2)					PowerPointでプレゼンテーションを作成する方法を学ぶ。 表、グラフなどの挿入の方法を学ぶ。				
3	PowerPoint (3)					PowerPointでプレゼンテーションを作成する方法を学ぶ。 画面切り替え、アニメーションの方法を学ぶ。				
4	PowerPoint 課題					PowerPointの課題				
5	Exce (論理関数・検索/行列関数)					Excelの論理関数・検索/行列関数の使い方を学ぶ。				
6	Exce (並べ替え・フィルタ・マクロ)					Excelの並べ替え・フィルタ・マクロの使い方を学ぶ。				
7	Excel課題					Excelの課題				
8	課題					課題の遂行と提出				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	30時間でマスター Office2019 (情報科学Ⅰで使用したテキスト)					実務出版編集部 編		実務出版		
参考 図書等										
成績評価 方法	毎回の授業態度、出席、課題により総合的に評価する。 1. 授業態度、出席(30%) 2. 課題(70%)					履修上の 注意	・USBメモリを使うので各自準備すること。			
						実務経験 紹介				

專 門 基 礎 科 目

理学療法学科

1 年 次

専 門 基 礎 科 目

- | | |
|----------|---------------|
| ◇ 解剖生理学Ⅰ | ◇ 運動学Ⅰ |
| ◇ 解剖生理学Ⅱ | ◇ 運動学Ⅱ |
| ◇ 解剖生理学Ⅲ | ◇ 臨床心理学 |
| ◇ 解剖生理学Ⅳ | ◇ 病理学 |
| ◇ 解剖学Ⅰ実習 | ◇ 医学概論 |
| ◇ 解剖学Ⅱ実習 | ◇ リハビリテーション概論 |
| | ◇ ボランティア論 |

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器に働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	基礎知識 その1 形からみた人体					人体を指し示す専門用語、ミクロからマクロまでの概観について理解する				
2	基礎知識 その2 生体の構造と細胞生理					細胞の構造と機能について理解、生体を構成する分子について理解する				
3	消化と吸収の概要					消化器について概要を理解する				
4	口腔内の解剖と機能 嚥下					口腔～咽頭～食道までの構造と機能について理解				
5	胃での消化と吸収					胃の構造を理解し、胃の様々な機能について説明できる				
6	腸での消化と吸収					腸での消化、主に肝臓、膵臓の役割とともに理解し、三大栄養素について消化吸収の説明ができる				
7	消化のまとめ 消化器官と神経支配					消化器について、内分泌、自律神経系の作用をまとめて理解できる				
8	中間試験					簡単な小テスト(理解度テスト)				
9	呼吸器系の構造					呼吸器の概観がわかる				
10	呼吸の生理					呼吸運動の生理がわかる				
11	呼吸運動の調整と病態					呼吸運動と呼吸調節についての生理が理解できる				
12	循環器系の構造 血管循環と心臓					循環器の構造がわかる				
13	心臓の構造と心臓の刺激伝導系					心臓の構造と名称、役割が理解でき、説明できる				
14	心臓の神経支配と心電図					心臓の構造と心電図の意味がわかる				
15	心臓の機能障害 心拍、心音 他					心拍、心音等について、生理学的意義とともに理解できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①					坂井 建雄 著者代表		医学書院		
	ねじ子とパン太郎のモニター心電図					大上丈彦、森皆ねじ子		インプレス		
	ナーシング・グラフィカ 解剖生理学					武田裕子編		メディカ出版		
成績評価 方法	1. 授業態度 2. 中間試験及び期末試験					履修上の 注意	資料は配るが、自分自身でノートを必ずつくること。資料はそのための補助にすぎないので、まとめは自分でする。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	村瀬 ひろみ						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器に働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	全身の血管の概略と血圧					全身の動静脈がわかる。血圧のしくみについて理解する				
2	血液の循環 血圧のつづき					血圧について説明できる				
3	血液の働きと血液成分1 赤血球、白血球 他					血液の指標についてそれぞれを理解し、説明できる				
4	血液の働きと血液成分2 血小板と血液凝固					血液凝固について理解し、説明できる				
5	泌尿器系の概観					泌尿器系の役割と解剖について大まかに理解できる				
6	腎臓の構造と働き					尿生成のしくみについて理解できる				
7	尿の生成と体液量のコントロール					血圧との関連を理解し、説明できる				
8	中間試験									
9	生化学概論					三大栄養素のATP合成				
10	糖代謝、タンパク質代謝、脂質代謝					体内で吸収したものがどのように変換されているか理解				
11	栄養学 タンパク質とアミノ酸					必須アミノ酸と生成物について理解する				
12	栄養学 脂質と必須脂肪酸					体内での脂質の動態について理解する				
13	栄養学 ビタミン					脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類と役割について理解する				
14	栄養学 ミネラル					ミネラル欠乏症と過剰症。疾患とのかかわりを理解する				
15	栄養学まとめ					栄養に関する医療者として必要な知識をまとめる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①					坂井 建雄 著者代表		医学書院		
成績評価 方法	1. 授業態度 2. 中間試験及び期末試験					履修上の 注意	資料は配るが、自分自身でノートを必ずつくること。資料はそのための補助にすぎないので、まとめは自分でする。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅲ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	児玉 順子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問とする「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。 解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病や障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器の働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	骨と骨格および関節					骨の解剖学的、組織学的構造について知る 骨の連結(関節)の構造とその障害について学ぶ				
2	体幹の骨格と筋					体幹(椎柱、胸郭)の骨格の解剖学的構造を覚える 背部の筋、胸部の筋、腹部の筋について学ぶ				
3	上肢の骨格と筋					上腕(上肢帯、上腕、前腕、手)の骨格の解剖学的構造を覚える 上肢帯、上腕、前腕の筋群について学ぶ				
4	下肢の骨格と筋					下肢(下肢帯、大腿、下腿、足)の骨格の解剖学的構造を覚える 下肢帯、大腿、下腿の筋群について学ぶ				
5	頭頸部の骨格と筋					頭蓋骨、下顎骨の骨格の解剖学的構造を覚える 頭部、顔面関節及び頸部の筋について学ぶ				
6	上肢の運動、下肢の運動、体幹の運動					肩関節及び肘関節、股関節及び膝関節、呼吸筋の運動について総合的に学ぶ				
7	骨格筋と筋の収縮について					骨格筋の収縮機構について骨格筋収縮の種類と特性について学ぶ				
8	中間試験					1-7回目までの授業範囲について中間試験を行う				
9	神経系と構造と機能					ニューロンの特徴、興奮の伝導と伝達の仕組みについて学ぶ				
10	脊髄と脳と神経					中枢神経の構造(大脳、小脳、脳室等)についてその解剖学的特徴と機能を学ぶ				
11	脊髄と脳と神経					脊髄及び末梢神経(脊髄神経、脳神経)についてその解剖学的特徴と機能を学ぶ				
12	運動神経と下行伝導路・感覚神経と上行伝導路					運動ニューロンの特徴、感覚神経の特徴また脊髄内での伝達について理解する				
13	感覚器(眼)					眼球の解剖学的構造について理解する 視覚についてそのメカニズムを学ぶ				
14	感覚器(耳・嗅覚・味覚)					耳の解剖学的構造について理解する 聴覚および平衡感覚についてについてそのメカニズムを学ぶ 味覚や嗅覚を知る				
15	痛みのメカニズム					痛みの分類、疼痛の発生機序について理解する				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①					坂井 建雄 著者代表		医学書院		
参考 図書等	生理学テキスト 第7版					大地 陸男		文光堂		
	カラースケッチ生理学Ⅱ					永田 豊 監訳		廣川書店		
	ギャノン生理学					岡田 泰伸 監訳		丸善書店		
成績評価 方法	1. 中間試験及び期末試験にて平均60%以上の得点を獲得したものを合格とする。 2. 自宅学習のための課題を数回提示する。およそ5~10%の点数加算とする。					履修上の 注意	・授業はスライド及び板書を用いての学習となる。授業では口頭で説明する内容を理解し、授業後の復習に板書を書き写したノートと教科書を用いて、理解を深める努力をすること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖生理学Ⅳ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	児玉 順子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 人間の基本的な体の仕組みを学問とする「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。 解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病や障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。					【到達目標】 ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器の働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。					
回数	授業内容				学習目標					
1	脳の統合機能				脳の活動と記憶のメカニズムについて学ぶ 本能行動と情動行動の違いを理解する 中枢神経の障害について知る					
2	皮膚の構造と機能				皮膚の構造とその付属品について覚える 皮膚の機能について理解する					
3	生体の防御機能				非特異的防御機構について理解する					
4	免疫による特異的防御機構				免疫について学習する 免疫を用いた様々な医療行為について知る 関連臓器を覚える					
5	体温とその調節				体温調節のメカニズムについて学ぶ 発熱について理解する					
6	自律神経による調節				内臓機能の調節を行う自律神経の働きを理解する					
7	内分泌による調整				内分泌組織とホルモンについて概要を理解する 視床下部の役割を知る					
8	中間試験				1回目から7回目までの範囲で中間試験を行う					
9	全身の内分泌腺と内分泌細胞1				実際のホルモンの働きを理解する(下垂体・甲状腺・副腎)					
10	全身の内分泌腺と内分泌細胞2				実際のホルモンの働きを理解する(膵臓・性腺・その他のホルモン)					
11	ホルモンによる調節の実際				糖代謝、カルシウム代謝、ストレスとの関係などを総合的に理解する					
12	男性生殖器				男性生殖器の解剖と生殖機能について理解する					
13	女性生殖器				女性生殖器の解剖と生殖機能 ホルモン調節による性周期について理解する					
14	受精と胎児の発生				受精卵の発生から胎児の成長について学習する 母体側の変化についても知る 分娩時の特徴についても学ぶ					
15	成長と老化				小児期の成長の特徴と、老化現象について理解する					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①				坂井 建雄 著者代表		医学書院			
参考図書等	生理学テキスト 第7版				大地 陸男		文光堂			
	カラースケッチ生理学Ⅱ				永田 豊 監訳		廣川書店			
	ギャノン生理学				岡田 泰伸 監訳		丸善書店			
成績評価方法	1. 中間試験及び期末試験にて平均60%以上の得点を獲得したものを合格とする。 2. 自宅学習のための課題を数回提示する。およそ5～10%の点数加算とする。				履修上の注意		・授業は板書を用いての学習となる。授業では口頭で説明する内容を理解し、授業後の復習に板書を書き写したノートと教科書を用いて、理解を深める努力をすること。			
					実務経験紹介					

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖学Ⅰ実習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	前田 有輝						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 解剖生理学で学ぶからだの仕組みについて、理学療法場面で必要となることを中心に、知識の復習を交えながら触察技術を身に付ける。					【到達目標】 ・運動器障害、神経障害、内部障害理学療法に関する解剖知識の復習と再習得。 ・骨、筋、脈管を中心とした触察技術の習得。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 解剖学用語(方位)、細胞、組織学総論、骨学総論					体表解剖学の基礎的知識および触察方法について理解する				
2	運動器解剖:骨学① 椎骨(頸椎、胸椎、腰椎、仙椎)					バラ骨を用いて、人体の骨模型を正しい位置に並べる突起、関節窩、結節などの名称を理解し覚える				
3	運動器解剖:骨学② 肩甲骨、鎖骨、上腕骨					バラ骨を用いて、人体の骨模型を正しい位置に並べる関節を構成する骨、関節の名称・形状を理解し覚える				
4	運動器解剖:骨学③ 前腕、手					バラ骨を用いて、人体の骨模型を正しい位置に並べる関節を構成する骨、関節の名称・形状を理解し覚える				
5	運動器解剖:触察① 椎骨					椎骨について、触診可能な骨指標に正しく触れることができる				
6	運動器解剖:触察② 肩甲骨、鎖骨、上腕骨					肩甲骨、鎖骨、上腕骨について、触診可能な骨指標に正しく触れることができる				
7	運動器解剖:触察③ 前腕、手					前腕、手について、触診可能な骨指標に正しく触れることができる				
8	運動器解剖:骨学まとめ					人体の骨・関節の名称・形状を覚え、触察できるようになる				
9	運動器解剖:筋学① 上肢帯					筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える				
10	運動器解剖:筋学② 上腕、前腕					筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える				
11	運動器解剖:筋学③ 手					筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える				
12	運動器解剖:触察④ 上肢帯					上肢帯について、触診可能な筋に正しく触れることができる				
13	運動器解剖:触察⑤ 上腕、前腕					上腕、前腕について、触診可能な筋に正しく触れることができる				
14	運動器解剖:触察⑥ 手					手について、触診可能な筋に正しく触れることができる				
15	運動器解剖:筋学まとめ					人体の筋の名称・形状を覚え、触察できるようになる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス上肢 改定第2版(電子版)					林 典雄		メジカルビュー社		
	プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版(電子版)					監訳 坂井 建雄		医学書院		
参考 図書等	骨格筋の形と触察法					河上 敬介		大峰閣		
成績評価 方法	1. 演習課題(20%) 2. 筆記試験(40%) ※定期試験の合格点は60点以上とする 3. 実技試験(40%)					履修上の 注意	・準備と片付けは確実に行ってください ・服装は、基本トレーニングウェアです。触察場所によってはTシャツ、短パンが必要です ・装飾品を身に付けての出席は認めません			
						実務経験 紹介	理学療法士として臨床現場にて多岐にわたる疾患や障害に対して、触診技術を基に理学療法を実施している			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	解剖学Ⅱ実習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	演習
担当	前田 有輝						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 解剖生理学で学ぶからだの仕組みについて、理学療法場面で必要となることを中心に、知識の復習を交えながら触察技術を身に付ける。					【到達目標】 ・運動器障害、神経障害、内部障害理学療法に関する解剖知識の復習と再習得。 ・骨、筋、脈管を中心とした触察技術の習得。					
回数	授業内容					学習目標				
1	神経・脈管について					人体の神経、脈管の名称、位置を覚え、触察方法について理解する				
2	運動器解剖：骨学① 骨盤帯					バラ骨を用いて、人体の骨模型を正しい位置に並べる突起、関節窩、結節などの名称を理解し覚える				
3	運動器解剖：骨学② 大腿骨					バラ骨を用いて、人体の骨模型を正しい位置に並べる関節を構成する骨、関節の名称・形状を理解し覚える				
4	運動器解剖：骨学③ 下腿、足部					バラ骨を用いて、人体の骨模型を正しい位置に並べる関節を構成する骨、関節の名称・形状を理解し覚える				
5	運動器解剖：触察① 骨盤帯					骨盤帯について、触診可能な骨指標に正しく触れることができる				
6	運動器解剖：触察② 下肢					下肢について、触診可能な骨指標に正しく触れることができる				
7	運動器解剖：触察③ 足部					足部について、触診可能な骨指標に正しく触れることができる				
8	運動器解剖：骨学まとめ					人体の骨・関節の名称・形状を覚え、触察できるようになる				
9	運動器解剖：筋学① 体幹					筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える				
10	運動器解剖：筋学② 大腿					筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える				
11	運動器解剖：筋学③ 下腿					筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える				
12	運動器解剖：触察④ 体幹、骨盤帯					体幹、骨盤帯について、触診可能な筋に正しく触れることができる				
13	運動器解剖：触察⑤ 大腿					大腿について、触診可能な筋に正しく触れることができる				
14	運動器解剖：触察⑥ 下腿、足部					下腿、足部について、触診可能な筋に正しく触れることができる				
15	運動器解剖：筋学まとめ					人体の筋の名称・形状を覚え、触察できるようになる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス下肢 改定第2版(電子版)					林 典雄		メジカルビュー社		
	プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版(電子版)					監訳 坂井 建雄		医学書院		
参考図書等	骨格筋の形と触察法					河上 敬介		大峰閣		
成績評価方法	1. 演習課題(20%) 2. 筆記試験(40%) ※定期試験の合格点は60点以上とする 3. 実技試験(40%)					履修上の注意	・準備と片付けは確実に行ってください ・服装は、基本トレーニングウェアです。触察場所によってはTシャツ、短パンが必要です ・装飾品を身に付けての出席は認めません			
						実務経験紹介	理学療法士として臨床現場にて多岐にわたる疾患や障害に対して、触診技術を基に理学療法を実施している			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	運動学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 運動学はヒトの身体運動の仕組みに関する学問である。正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、運動学Ⅰではヒトの運動を考える上で基盤となる総論に加え、脊椎と肩関節の運動について詳しく学習する。					【到達目標】 運動力学に基づく運動の記述と解釈について理解する。筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を理解する。脊椎、肩関節、肘関節の運動を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	運動学とは、身体運動の面と軸、関節運動					運動学がどのような学問かを理解した上で、関節運動の基本用語を説明できる				
2	運動学・運動力学の基礎①(並進運動と円運動、重力、筋張力、スカラーとベクトル)					運動力学の基本用語を説明できる				
3	運動学・運動力学の基礎②(ニュートンの運動法則、モーメント、てこ、滑車)					運動力学の基本用語を説明できる				
4	生体の構造と機能(関節の構造と機能)					関節構造と機能を説明できる				
5	生体の構造と機能(筋の構造と筋線維の種類)					筋の構造と種類を説明できる				
6	生体の構造と機能(運動単位、筋収縮様態)					神経と筋の関係、筋収縮様態を説明できる				
7	生体の構造と機能(筋長-速さ-筋張力の関係)					筋張力について説明できる				
8	脊椎の構造と各椎骨の特徴					脊椎の構造、椎骨の特徴が説明できる				
9	脊椎の運動、脊椎の靱帯、脊椎・骨盤の傾斜					脊椎の運動、靱帯の名称と機能を説明できる				
10	体幹の筋					体幹筋の走行、作用を説明できる				
11	胸郭の構造と呼吸の運動学					胸郭の構造と呼吸における胸郭・腹部の運動を説明できる				
12	肩関節総論(広義の肩関節)					広義の肩関節の構造・種類・機能を説明できる				
13	肩関節の靱帯と筋					肩関節の靱帯と筋の走行・作用を説明できる				
14	肩関節における共同作用					前鋸筋と僧帽筋の共同作用、棘上筋と三角筋の共同作用を説明できる				
15	肩甲上腕リズム、肘関節の構造と機能					肩甲上腕リズムを説明できる。肘関節の構造と靱帯・筋の走行・作用を説明できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	基礎運動学 第6版					中村 隆一・斉藤 宏		医歯薬出版		
	プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版(電子書籍)					坂井建雄 監訳		医学書院		
参考 図書等										
成績評価 方法	1. 小テスト(10%) 2. 中間・期末試験(90%)					履修上の 注意	後半では骨模型等を使いながらグループ学習をします。グループ内で積極的に見て、触りながら、お互いに学習していくこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関で6年間、非常勤として20年間の実務経験あり			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	運動学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 運動学Ⅰで理解した運動力学の知識や筋骨格系の機能解剖を基に、①上肢・下肢関節の運動機能、②姿勢の安定性、③正常歩行と異常歩行、④運動学習について学習する。					【到達目標】 上肢・下肢の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を理解する。姿勢とバランス機能を理解する。正常歩行と異常歩行を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	前腕①(前腕の運動、靱帯)					前腕の運動を説明できる				
2	前腕②(筋と支配神経)					前腕の筋走行・作用と神経を説明できる				
3	手関節・手指①(手関節・手指の構造と運動、手のアーチ、手指の靱帯)					手関節と手指の関節構造、筋、靱帯、アーチを説明できる				
4	手指②(手指の筋と神経、屈曲・伸展メカニズム、手の変形)					手指の運動に関与する靱帯、筋作用、神経を理解した上で、手の変形を説明できる				
5	股関節①(股関節の構造と運動)					股関節の構造と機能を説明できる				
6	股関節②(新生児と成人の股関節)					新生児と成人の股関節の違いを説明できる				
7	股関節③(筋と神経、パウエルの理論と異常歩行)					股関節の筋走行・作用に加え、パウエルの理論を用いて異常歩行を説明できる				
8	膝関節①(膝関節の構造、靱帯)					膝関節の構造を説明できる				
9	膝関節②(関節運動と筋)					膝関節の関節運動と筋走行・作用を説明できる				
10	膝関節③(関節運動と筋)					膝関節の関節運動と筋走行・作用を説明できる				
11	足関節①(足関節の構造と運動、足部アーチ)					足関節の構造と運動、アーチを説明できる				
12	足関節②(足関節の靱帯・筋、神経)					足関節の靱帯、筋走行・作用、神経を説明できる				
13	姿勢と姿勢制御、歩行(歩行周期)					姿勢保持に必要な筋、姿勢制御を説明できる。歩行周期を説明できる。				
14	歩行(歩行時の関節運動、筋活動、床反力)					正常歩行に必要な関節運動、筋活動、床反力を説明できる				
15	歩行(異常歩行)、運動学習					異常歩行と運動学習を説明できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	基礎運動学 第6版					中村 隆一・斉藤 宏		医歯薬出版		
	プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版(電子書籍)					坂井建雄 監訳		医学書院		
参考図書等										
成績評価方法	1. 小テスト(10%) 2. 中間・期末試験(90%)					履修上の注意	骨模型等を使いながらグループ学習をします。グループ内で積極的に見て、触りながら、お互いに学習していくこと			
						実務経験紹介	理学療法士として医療機関で6年間、非常勤として20年間の実務経験あり			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	臨床心理学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	桑原 郁子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床心理学とは何かを教科書で学び、病者や家族の心理・援助の実際についてビデオや資料を用いて学ぶ。					【到達目標】 ・人間の精神世界について知り、人間の行動の背景にある思いへの理解を深める。 ・患者、家族の闘病生活の一部を知ることにより、実際の接し方についての理解を深める。 ・テーマごとの資料から他者の考えに触れることにより、物事を多面的に捉える力を身につける。 ・自分の考えをまとめ、他者に伝える力を育てる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	臨床心理学とは					臨床心理学の概要・定義について理解する				
2	ビデオ・資料：病気を持つ子ども達の心理について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
3	心理援助の基礎を学ぶ-人格理論					人格理論について理解する				
4	ビデオ・資料：出生前診断について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
5	心理援助の基礎を学ぶ-発達理論					発達理論について理解する				
6	ビデオ・資料：児童虐待について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
7	対象を理解する-心理アセスメント：知能検査・発達検査					知能検査や発達検査等のそれぞれの目的や概要について理解する				
8	ビデオ・資料：発達障害について					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
9	対象を理解する-心理アセスメント：人格検査・その他の心理検査					人格検査等の目的や概要について理解する				
10	ビデオ・資料：ALS患者と家族の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
11	心理援助の方法を知る-心理療法Ⅰ					心理療法について理解を深める				
12	ビデオ・資料：認知症介護の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
13	心理援助の方法を知る-心理療法Ⅱ					心理療法について理解を深める				
14	ビデオ・講義：がん看護の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
15	講義・ビデオ・資料：終末期訪問医療の実際					ビデオ・資料を視聴しテーマについて理解を深め、考えをまとめることができる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	心とかかわる臨床心理 第3版							ナカニシヤ出版		
参考図書等	ビデオ感想文のまとめ資料とテーマごとの新聞資料									
成績評価方法	1. 授業態度・ビデオ視聴感想文(40%) 2. 確認テスト(60%)					履修上の注意		・1コマ目は教科書に沿った授業を行い、2コマ目はビデオを視聴した後、感想文を書く ・感想文が評価の対象となるので必ず提出すること ・毎回出される感想文のまとめ、新聞資料には目を通しておくこと		
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	病理学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	森本 宏志						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・病理学は、医学・医療において「基礎」と「臨床」の境界領域に位置する学問であり、疾病に関する「何(what)」と「なぜ(why)」を追及する学問であり、科学としての医学・医療(≡EBM)の基盤となる学問である。 この講義では、疾病一般に関する捉え方の基本としての「病理学総論」を中心に説明し、疾病現象を理解するために必要な基本概念や基本用語を体系的に説明するとともに、common diseaseについての基本的知識についての学習の機会を提供する。 リハビリテーションは障害を軽減させ、残存能力を高め、社会への再適応を促進する目的で展開されるものであり、疾病の「三次予防」として位置づけられる。					これを適時・的確に行うには、正常状態での構造や機能(解剖・生理)の知識の基盤の上に、障害発生に関連する疾病について体系的に理解し、基本事項を身につけておくことは必要であると同時に有用なものであるからである。 【到達目標】 ・病理学総論に関連して、疾病に共通する現象や疾病に関する基本概念・基本用語について体系的に理解し、記憶し、説明できる。 ・病理学各論に関して、代表的な疾患(副読本で取り上げている約50の疾患)についての基本事項を病理総論と関連づけながら体系的に理解し、記憶し、簡潔に説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション(講義の進め方と目標、課題について、単位認定試験について等)。病理学の体系について					この病理学講義の目標や講義の進め方、評価方法について理解できる。各自が病理学を学ぶことの意義について確認できる。				
2	病とは何か。医学・医療における病理学の位置づけ。病因論とEBM・・・科学としての医学・医療、研究法と倫理的制約・限界					疾病と健康の定義と関係について説明できる。病理学の医学体系上の位置づけ、病理学の体系(総論各論)について説明できる。				
3	病因分類、疾病の基本分類と病理総論体系					EBMと病理学の関係について説明できる。病因分類および疾病の基本分類と病理総論体系を生命の定義に関連づけて説明できる。				
4	疾病の基本プロセス(侵害刺激と生体の基本的反応)(1) :萎縮と肥大、化生と変性					侵害刺激の例として酸素の欠乏と過剰への生体の反応を説明できる。侵害刺激に対する反応の全体構造を説明できる。				
5	疾病の基本プロセス(侵害刺激と生体の基本的反応)(2) :壊死、組織の修復と再生、治癒					疾病と病変の区別、基本病変である萎縮、肥大、変性、壊死と関連病変、および組織の修復・再生治癒について説明できる。				
6	循環障害(1):局所の循環障害(1)					循環障害の体系上の位置づけを説明できる。循環系の略図が描ける。充血、うっ血、出血、血栓症、塞栓症について説明できる。				
7	循環障害(2):局所の循環障害(2)、全身性循環障害					虚血、梗塞、側副循環の障害について説明できる。血栓症の原因とDICの関連が説明できる。ショックについて説明できる。				
8	炎症と免疫(1) :炎症と免疫の関係、炎症の基本過程と炎症の形態的分類					生体防御反応としての炎症と免疫の関係を説明できる。炎症の基本過程と炎症の形態的分類を関連づけて説明できる。				
9	炎症と免疫(2) :免疫と免疫の異常(免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患)					免疫の基本的性質と疾患の関係について説明できる。免疫の異常としての免疫不全、アレルギーとその分類について説明できる。				
10	炎症と免疫(3) :移植、再生医療					移植と再生医療とその課題について、免疫の基本的性質と関連づけて説明できる。				
11	代謝障害					代謝障害の体系上の位置づけを説明できる。代謝障害に該当する基本疾患の例を挙げることができる。				
12	先天異常と遺伝子の異常(1) :先天異常と遺伝子異常の関係					先天異常と遺伝子異常の関係を説明できる。個体発生と先天異常の分類、及び催奇形因子の影響程度の違いを説明できる。				
13	先天異常と遺伝子の異常(2)					遺伝子の異常について、保因者頻度、顕性と潜性、優性と優生の違い、遺伝子多様性保護の意義等について説明できる。				
14	腫瘍(1)					腫瘍の定義について説明できる。腫瘍の本質と遺伝子異常の関係について説明できる。腫瘍の性質と分類について説明できる。				
15	腫瘍(2)、腫瘍と感染症の関係					腫瘍のライフサイクルについて説明できる。腫瘍の診断と治療について概要を説明できる。腫瘍を感染症と比較して説明できる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	【主】 系統看護学講座 専門基礎					大橋 健一 / 矢澤 徹 /				
	疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 第6版					藤原 正親 / 柴原 純二 (著)		医学書院		
	【副】 学生のための疾病論									
成績評価 方法	人間が病気になるということ(第2版)					井上 泰 (著)		医学書院		
	人体の構造と機能(第4版)					エレイン N. マリープ (著)				
成績評価 方法	1. 期末試験(100%) 2. 出席(期末試験受験資格としてのみ評価) 3. 各回課題(0%:各回の出席の証拠として評価するが、最終成績の点数へは反映させない(形成的評価))。					履修上の 注意	・毎回の授業開始後5分、終了前5分で小テスト、振り返りアンケートを行いその提出で出席確認とする。			
						実務経験 紹介	医療機関で病理診断経験約10年、病理学教育担当経験約25年			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	医学概論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師(百溪 江、西本 新)、小林 誠						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 医療を実践する上で、重要な概念である、コミュニケーション、他職種連携、レポートの記載、倫理観などの基本について概説する。倫理観については、単に日本国内にとどまらず、国際的な視野に立った倫理観について学説する。					【到達目標】 ・リハビリテーション医学における、コミュニケーションとレポートの記載、他職種連携の実践方法について理解する。 ・国際的な視野に立った倫理観を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション									
2	コミュニケーション					コミュニケーションの方法やその重要性を理解する。				
3	レポートの書き方・読みやすい文章の書き方					レポートの書き方・読みやすい文章の書き方を学び、実践して今後のレポート作成に活かす。				
4	多職種連携					医療分野における多職種連携の内容やその重要性を理解する。				
5	日本の現状と欧米型倫理観					倫理観・倫理基準は文化や時代、社会背景により変化するものである。なぜ、そのような倫理観が求められているのか、また、相対的に非倫理的な行動に出る人がいるのかの理解を深めるために、日本及び海外、特に欧米の文化社会的背景について学ぶ。				
6	日本の研究不正の現状と背景					第一回「日本の現状と欧米型倫理観」の後半から引き続き、医学分野における日本の研究不正の現状の紹介と研究不正が横行する理由についての考察行う。				
7	医療従事者にはなぜ高い倫理観が求められるのか					第二回「日本の研究不正の現状と背景」を入口に、医療従事者にはなぜ高い倫理観が求められるのかについて考え、利益相反の観点から議論を行う。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	必要な資料は、適宜配布する。									
参考 図書等										
成績評価 方法	1. 授業態度・参加度(30%) 2. 最終レポート(70%)					履修上の 注意	積極的に授業に参加すること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	リハビリテーション概論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 生活の中で疾病や加齢の影響など、生活に制限を有することは、誰しも可能性のあることです。リハビリテーションはその制限(障害)に対して身体的機能を回復するための支援をするだけでなく、人間らしく生きる権利を回復することに寄与する役割を担います。本科目では、リハビリテーションの基本概念や歴史、リハビリテーションに関わる領域などについて学習します。さらに、法的制度や多職種連携といった役割を担うために必要な知識も学ぶことを目的とします。					【到達目標】 ・リハビリテーションに関連する用語を理解し、説明できる。 ・保健医療福祉とリハビリテーションについて理解し、説明できる。 ・リハビリテーション専門職として、対象者に接する心を身に着けることができる。 ・専門職として多職種との連携について、チーム医療の概念について説明することができる。 ・自らの専門職としての業務、職域などを理解し、説明することができる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション 日本の現状				講義の進め方について理解できる。日本の状況、法律等について理解できる。					
2	リハビリテーションの概念・理念・定義				リハビリテーションの概念やノーマライゼーションの考え方について理解できる。					
3	健康と疾病とICF・ICIDH				障害分類について理解し、説明できる。					
4	障害者の心理と障害受容				障害受容の過程を理解し、考えることができる。					
5	事例に基づいた障害像の理解(演習)				ディスカッションを通じて、障害分類やリハビリテーションについて考えることができる。					
6	インフォームド・コンセントと障害受容				インフォームド・コンセントの概念を理解し、障害受容について考えることができる。					
7	リハビリテーションの諸段階				医学的・職業的・社会的・教育的のリハビリテーションの段階について理解できる。					
8	リハビリテーションに関わる専門職種				リハビリテーション専門職のそれぞれの役割について理解できる。					
9	医療の中での多職種の連携(演習)				チーム医療、多職種連携などについて理解できる。					
10	ADL、QOLの概念と評価				ADL、QOLに関して知り、評価も含めて説明することができる。					
11	在宅医療と在宅福祉 社会参加とリハビリテーション				地域リハビリテーションについて理解することができる。					
12	少子高齢化社会とリハビリテーション				高齢者施策、少子化対策、健康増進について理解することができる。					
13	生活を支える仕組み 社会保障制度				社会福祉、医療保健制度について理解できる。					
14	関連法規について				医療法、理学療法士及び作業療法士法等の法規について理解できる。					
15	関連法規について 概論まとめ				関連法規について復習するとともに、概論全体を通してまとめ、理解を深める。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	リハビリテーション概論 改定第4版				田島 文博		永井書店			
参考図書等										
成績評価方法	・講義への参加内容・課題(40%)： 講義中の発言やアクティブラーニングへの取り組み、課題の評価など ・定期試験(60%)：試験結果 定期試験で6割を満たさない場合は再試の可能性がります				履修上の注意		・事前学習として講義内容に該当する教科書の部分に関して予習することを望む ・講義は3学科共通で行うため、積極的な参加、共同が行えることを望む			
					実務経験紹介		理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	ボランティア論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	非常勤講師／川北 淳一郎 他						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ボランティアとは奉仕の意味ではなく、自分の持てる能力を発揮できる場であると同時に同じ空間を共有した全ての仲間と共感できる活動であり、福祉を学ぶものとしては必須の事柄である。しかし、ボランティアを正しく理解していなければ、その感動を味わうことはできない。この授業では、ボランティア活動の意義を解説し、専門職としての活動に繋げていけるよう導く。					【到達目標】 ・人と関わる専門職(対人接触業)として最低限のマナーを身につける。 ・ボランティアを必要としている方々に「専門職としての関わり」とは何かを考えるきっかけとする。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション ～ボランティアとは～					ボランティアとは何かを理解する				
2	言語聴覚士とボランティア					言語聴覚士としてのボランティア活動を知る				
3	ボランティア活動①					様々なボランティア活動の実体験を聞き、自分に何ができるかを考えることができる				
4	ボランティア活動②					様々なボランティア活動の実体験を聞き、自分に何ができるかを考えることができる				
5	ボランティア活動③					様々なボランティア活動の実体験を聞き、自分に何ができるかを考えることができる				
6	災害・震災におけるボランティア実践					災害ボランティア活動を知る				
7	まとめ					講義を受け、専門職としてのボランティア活動について考えることができる				
教科書 参考図書等	書籍名					著者				
	特に定めない									
成績評価方法	課題(100%)					履修上の注意	・多くの活動の援助方法として「ボランティアは必須である」という認識を持って積極的に授業に参加すること。 ・人間関係(コミュニケーション)作りを意識し、対象者や多職種と正対すること。			
						実務経験紹介				

2 年 次

専 門 基 礎 科 目

- | | |
|---------|----------------|
| ◇ 運動生理学 | ◇ 神経内科学 |
| ◇ 生理学実習 | ◇ 精神医学 |
| ◇ 運動学実習 | ◇ 整形外科学Ⅰ |
| ◇ 人間発達学 | ◇ 整形外科学Ⅱ |
| ◇ 内科学Ⅰ | ◇ リハビリテーション医学 |
| ◇ 内科学Ⅱ | ◇ 地域リハビリテーション学 |
| ◇ 小児保健学 | |

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	運動生理学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	塩田 正俊						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 神経・筋、呼吸循環等の生理的機能について概説する。また、運動に対する神経・筋および呼吸循環機能の変化や運動トレーニングによるそれらの適応について、生理学機序も含んで講義する。					【到達目標】 1.運動に対する神経・筋および呼吸循環機能の変化について、運動の条件による違いを理解する。 2.運動トレーニングに対する運動時の神経・筋および呼吸循環機能の適応について、運動トレーニングの種類による違いを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	生活習慣病の予防と身体活動・座位行動					身体活動はどのような疾患の予防・改善に効果的かを理解する理解し、具体的な身体活動について説明できる。				
2	高齢者の体力と身体活動					健康寿命に及ぼす身体活動・体力との関係について理解する。				
3	骨格筋の形態と収縮のメカニズム					骨格筋のテコ作用について理解する。				
4	ヒト骨格筋の筋繊維タイプおよび筋力発揮特性					筋線維タイプと筋収縮のエネルギー供給機構について理解する。				
5	骨格筋の適応と変化					加齢に伴う骨格筋機能の変化と身体トレーニングの効果について理解する。				
6	神経系の基本的構造と機能 神経系の生理学的基礎/運動と神経系					中枢神経と末梢神経の機能的役割を理解する。				
7	運動・トレーニングと神経系					大脳基底核と小脳の役割の違いについて説明できる。				
8	内分泌系の生理学的基礎					運動強度に依存したホルモンに役割について理解する。				
9	運動時のホルモン分泌変化と生理作用					運動時の体液調節に関わるホルモンとその役割について説明できる。				
10	生体を防御する免疫系の機能と適応(生理学的基礎)					運動強度・運動量で変わる免疫系の変化とその役割について理解する。				
11	呼吸循環系の生理学的基礎(呼吸器系)					肺胞と組織における酸素・二酸化炭素のガス交換について理解する。				
12	呼吸循環系の生理学的基礎(心循環器系)					心機能を調節する内臓・血管系の役割について理解する。				
13	運動時の呼吸循環器系応答と呼吸循環系適応					身体トレーニングによる心臓・血管系の適応について理解する。				
14	暑熱環境と運動(運動と体温調節)					暑熱環境下での運動時の体温調節のメカニズムについて理解し、熱中症対策について説明できる。				
15	消化器系・泌尿器系の基本的構造と機能					消化吸収の仕組みと排泄のメカニズムについて理解する。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識					村岡 功 編著		市村出版		
参考図書等										
成績評価方法	期末試験で評価する。					履修上の注意	欠席が4回以上の者には単位を与えない。			
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	生理学実習					
単位数	1	時間数	45	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	梶野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 解剖生理学で学習した生体反応について、実習を通して実際の現象を把握し、理解を深めます。 医療従事者として必要な測定技術を身につけるとともに、その結果を解釈する。一般の生理学的反応と照らし合わせて、状態を考察する過程を学習します。					【到達目標】 ・生理学の知識を復習し、生体反応に対して理解することができる。 ・検査測定 of 機器を用いて行う技術を習得する。 ・測定結果を解釈し、生理学的反応をもとに考察することができる。 ・グループで共同して、実習に取り組むことができる。 ・実習をもとにレポート作成、発表準備、発表をすることができる。					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	オリエンテーション		講義の目的、スケジュールを把握し、講義展開を理解する。		13	心臓の活動について①刺激伝導系(心電図の測定)		心臓の刺激伝導系として心電図の測定方法を理解し、結果を解釈することができる。		
2	体温・脈拍・血圧などのバイタルサインについて①測定		データの記録法を理解する。体温・脈拍・血圧について測定方法を理解する。実習結果をもとに結果を考察し、解釈することができる。		14	心臓の活動について②刺激伝導系グループワーク		グループワークにて考えをまとめることができる。		
3	体温・脈拍・血圧などのバイタルサインについて②測定・グループワーク		グループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		15	呼吸機能について①換気機能(呼吸機能測定)		呼吸機能について呼吸数や胸郭拡張、スパイロメーター等の測定方法を理解する。実習結果をもとに結果を考察し、解釈することができる。		
4	体温・脈拍・血圧などのバイタルサインについて③発表・まとめ		グループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		16	呼吸機能について②換気機能(スパイロメーター測定)		呼吸循環の生理学的反応に関してグループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		
5	感覚機能について①体性感覚(主に2点識別覚測定)		体性感覚について2点識別覚を中心に測定方法を理解する。実習結果をもとに結果を考察し、解釈することができる。		17	呼吸機能について③換気機能グループワーク		グループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		
6	感覚機能について②体性感覚グループワーク		グループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		18	呼吸循環について発表・まとめ				
7	感覚機能について③体性感覚発表・まとめ				19	運動による反応①運動負荷試験		運動負荷試験の測定方法を理解する。実習結果をもとに結果を考察し、解釈することができる。		
8	筋機能について①神経の興奮と伝達(筋電図測定)		筋機能について神経伝達のしくみと筋力張力の発揮について理解する。筋電図や筋力測定における測定方法を理解する。実習結果をもとに結果を考察し、解釈することができる。		20	運動による反応②運動負荷試験		グループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		
9	筋機能について②神経の興奮と伝達グループワーク		グループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		21	運動による反応③グループワーク				
10	筋機能について③筋収縮と筋長(筋力測定)		グループワークにて考えをまとめ、発表、レポート作成により理解を深めることができる。		22	生理学的反応まとめ		科目を通して学習した内容をグループでまとめ、発表することで理解を深める。		
11	筋機能について④筋収縮と筋長グループワーク				23	生理学的反応について発表・まとめ				
12	筋機能について⑤発表・まとめ									
教科書	書籍名				著者			出版社		
	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①				坂井 達雄			医学書院		
	理学療法評価学 第6版補訂版				松澤 正			金原出版		
	生理学ノート				中島 雅美			医歯薬出版株式会社		
参考図書等	【参考図書】									
	最新理学療法学講座 内部障害理学療法学				高橋 哲也			医歯薬出版株式会社		
成績評価方法	実習課題(40%):実習の取り組み・グループワークへの取り組み・発表 レポート(60%):レポート提出がない場合は単位を認めない				履修上の注意	・実習では各種測定を行うため、軽装で参加することが望ましい。 ・積極的な実習・グループワークへの参加を望む。 ・レポートは必ず提出するように心がける。				
					実務経験紹介	理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	運動学実習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	前田 有輝／吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1年次に学んだ解剖学・運動学の内容について観察・分析し、検査測定や運動療法などの理学療法の場面で求められる知識の再修得と技術の修得を目指す。					【到達目標】 ・関節運動を構成する要素について理学療法士の視点から考察できるようになる。 ・10m歩行テストを用いて、客観的データから人の動きについて考えるポイントを理解する。 ・姿勢制御や基本的動作の構成要素について考察できるようになる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	肩甲骨上腕リズムの測定①					肩関節の動きを測定し、肩甲骨上腕リズムについて考察する				
2	肩甲骨上腕リズムの測定②					肩関節の動きを測定し、肩甲骨上腕リズムについて考察する				
3	腰椎骨盤リズムの測定①					股関節の動きを測定し、腰椎骨盤リズムについて考察する				
4	腰椎骨盤リズムの測定②					股関節の動きを測定し、腰椎骨盤リズムについて考察する				
5	歩行観察①					正常歩行を説明できる				
6	歩行観察②					10メートル歩行テストの計測ができる				
7	歩行観察③					歩行データから運動学的視点を踏まえて考察できる				
8	歩行観察④					歩行データから運動学的視点を踏まえて考察できる				
9	歩行観察⑤					グループごとの発表				
10	姿勢制御と姿勢観察①					姿勢制御について説明できる				
11	姿勢制御と姿勢観察②					姿勢保持と姿勢制御について考察できる				
12	動作観察①					寝返り動作の観察ができる				
13	動作観察②					起き上がり動作の観察ができる				
14	動作観察③					立ち上がり動作の観察ができる				
15	動作観察④					グループごとの発表				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	基礎運動学					中村 隆一・斉藤 宏		医歯薬出版		
	PT・OTのための運動学テキスト					小柳 磨毅 他		金原出版		
	理学療法評価学					岩倉 博光		金原出版		
成績評価 方法	実習課題(100%)					履修上の 注意	・各実習に対し、発表やレポート提出などの提出期限を守る。 ・内容によって教室や授業形態が変わるので、準備、片付けを確実に行うこと。			
						実務経験 紹介	医療現場での実務経験あり			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	人間発達学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	福田 みのり						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 発達段階ごとに講師が発達特徴を概説する。受講者は講義内容や教科書を踏まえて各自が問題意識を持ち、その中から2～3つのテーマについてグループで深めて発表を行う。これにより、学習した内容を自分たちの生活と結びつけて考えていく視点を養う。					【到達目標】 ・将来的に向かい合うクライアントの発達段階の特徴を理解し、彼らを支援するのに必要な知識と社会的スキルの獲得を目指す。 ・複雑で厄介な問題に出くわしたとき、どのような課題解決への道を見つけ出していくのか、問い、考え、実践するための基礎的な力を涵養する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション、生涯発達心理学					生涯発達心理学の考え方について理解する				
2	発達の原則と理論					発達の原則について理解し、発達の様々な理論について説明することができる				
3	発達とは、人口問題と発達（演習）					発達とはどのようなものかについて説明でき、少子高齢化社会における発達の諸課題について気づく				
4	胎児期と乳児期の特徴					胎児期と乳児期の発達の特徴について理解する				
5	子育て・乳幼児・愛着をめぐる課題（演習）					乳幼児の特徴とそれを支援するおとなの在り方について自分なりに考えることができる				
6	幼児期の特徴 -視点の獲得					幼児期の特徴、特に認知発達における特徴について理解する				
7	幼児期における遊び・自己認識・他者認識（演習）					幼児期の特徴とそれを支援するおとなの在り方について自分なりに考えることができる				
8	児童期の特徴 -リテラシーと社会性					児童期の特徴、社会性の発達について理解する				
9	教育・ジェンダー・発達障害をめぐる課題（演習）					児童期の特徴と児童をとりまく社会環境について自分なりに考えることができる				
10	青年期の特徴 -アイデンティティの獲得					青年期の特徴について理解し、アイデンティティについて説明できる				
11	知能・アイデンティティをめぐる課題（演習）					知的発達について理解し、自己形成におけるアイデンティティ獲得の意味について自分なりに考えることができる				
12	成人期の特徴 -次世代を育てる					成人期の特徴と中年期のストレスについて理解する				
13	親になることをめぐる課題（演習）					女性のアイデンティティと育児不安といった現代の社会環境について自分なりに考えることができる				
14	老年期の特徴					老年期の特徴について理解する				
15	老年期の課題、時間と発達（演習）					老年期の特徴とそれを支援する専門職の在り方について自分なりに考えることができる				
16	まとめ、テスト					目指す国家資格との関連性において、人間発達学を学んだ意義について説明できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	子どもも育つ おとなも育つ 発達の心理学					柏木 恵子（著）		萌文書林		
	リハビリテーション医学講座2 人間発達学 生涯発達心理学のすすめ					上田 礼子 子安 増生		医歯薬出版 有斐閣選書		
成績評価 方法	演習発表、グループワーク成果(30%) レポート形式テスト(70%)					履修上の 注意	講義者の講義比重を軽く、受講者の思考、発言、発表スキルの発展を促す、アクティブラーニング形式の講義形態であるので、真摯且つ積極的な受講態度を期待する。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	内科学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前後期	授業形態	講義
担当	日高 勲 白上 巧作 村木 和彦						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 高齢化に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化は、リハビリテーションニーズに直結し、多くの方々が私たちの専門職とかかわりを持つことになる。この領域における疾病の特徴・病態・内科的治療を理解することは重要である。 その一方で高血圧、糖尿病、心疾患などの生活習慣病の予防は、医療費等の高騰を防ぐためにも優先されるべきものと位置づけられており、生活習慣の改善も専門職の興味を持つべく領域である。					【到達目標】 ・高齢者が罹患しやすい疾病についての理解を深める。 ・生活習慣病の予防対策を述べることができる。					
回数	授業内容					学習目標				
消化管疾患全 5回 筆記試験 1回					・消化管疾患の症候を理解する。 ・消化管疾患の病態生理を理解する。 ・消化管疾患の各論を理解する。					
腎・泌尿器疾患全 5回 筆記試験 1回					・腎疾患の症候を理解する。 ・腎疾患の病態生理を理解する。 ・腎・泌尿器疾患各論を理解する。					
血液疾患・内分泌疾患全 5回 筆記試験 1回					・血液疾患・内分泌の症候を理解する。 ・血液疾患・内分泌の病態を理解する。 ・血液疾患・内分泌の各論を理解する。					
* 「内科学Ⅰ」前期開講の科目ですが、今年度は前後期で開講されます。										
* 個々の領域において、筆記試験が実施されます。(全て60点以上で合格)										
教科書 参考 図書等	書籍名				著者			出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学				編集 前田 眞治			医学書院		
成績評価 方法	1.授業態度(20%) 2.筆記試験の総点(80%)				履修上の 注意	前期開講科目ですが、前後期で開講します。 1年時の生理学復習をしながら、授業に臨むこと。教科書にて授業内容を振り返ること。				
					実務経験 紹介					

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	内科学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	後期	授業形態	講義
担当	國近 英樹 岩本 節子						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 内科疾患の中でも、循環器系の障害のリハビリテーション分野に占める割合は大きい。特に、心疾患や呼吸器疾患の病態を理解することは重要である。また健康寿命の延長に伴って高齢者の健康管理も予防という観点から重要視され、強いては健康寿命の延伸へ直結する分野でもある。 後半は、「高齢者の健康」に焦点をあて、内科疾患への理解を深める。						【到達目標】 ・循環器系の疾患についての理解を深める。 ・「高齢者の健康増進」についてキーワードを述べることができる。				
回数	授業内容					学習目標				
循環器疾患 全7回 解剖 心電図 心不全 高血圧 弁 その他 まとめ 筆記試験 1回						循環器疾患の症候を理解する。 循環器疾患の病態生理を理解する。 循環器疾患の各論を理解する。				
老年期医学 全7回 老年医学 老年医学 循環器 老年医学 呼吸器 老年医学 消化器1 老年医学 消化器2 老年医学 腎・生活習慣病 老年医学 代謝・血液・内分泌 筆記試験 1回						老年医学 疾患の症候を理解する。 老年医学 疾病の病態生理を理解する。 老年医学 各論を理解する。				
* 個々の領域において、筆記試験が実施されます。(全て60点以上で合格)										
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	標準理学療法学作業療法学 内科学					編集 前田 眞治		医学書院		
成績評価 方法	1.授業態度(20%) 2.筆記試験の総点(80%)					履修上の 注意	1年時の生理学復習をしながら、授業に臨むこと。「高齢者の健康」についてイメージできるようになる。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	小児保健学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	田原卓浩 他						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 成長・発達過程における子どもの特性をふまえ、小児疾患についての理解を深める。また、心身の問題だけでなく小児を取り巻く環境(母子家庭、社会情勢等)にも目を向け、健全な発達が保証されるよう医療人としての意識を養い育てる。					【到達目標】 ・自分の子どもの育つ道筋を客観的に捉えられるような専門職としての力量を備える ・子どもの障害の概要を理解する ・障害児の特性の理解とその対応が考えられる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	子どもの病気(含 感染症の予防)					基本的な小児疾患の種類や特性について理解する				
2	子どもの病気とホームケア					病気に対してのホームケアのポイントを理解する				
3	子どもと家族を取り巻く環境の変化					成長と共に児童の環境が変化するが、その変化のポイントを理解する				
4	大事にしたい子育て術 他					子育てにおける重要なポイントを理解する				
5	子供の成長と発達 新生児～乳幼児 1					新生児～乳幼児の特徴的な正常発達を理解する				
6	子供の成長と発達 新生児～乳幼児 2					新生児～乳幼児の特徴的な正常発達を理解する				
7	子どもの発達 運動・社会性の発達 1					基本的な運動・社会性の正常発達を理解する				
8	子どもの発達 運動・社会性の発達 2					基本的な運動・社会性の正常発達を理解する				
9	乳幼児健診とそのフォロー:遠城寺式乳幼児分析的検査の応用					乳幼児健診の内容とその後のフォローを理解する				
10	障害児学:子どもの障害の特徴を知る その1 発達障害					発達障害の特性を理解する				
11	障害児学:子どもの障害の特徴を知る その2 肢体不自由児					肢体不自由児の特性を理解する				
12	障害のある子の子育て(療育)					障害のある子の子育ての実情を理解する				
13	発達障害児の支援制度について					発達障害児への支援制度の概要を理解する				
14	障がいのある児童や発達に特性のある児童のための福祉サービス ～児童発達支援～					児童発達支援の制度や概要を理解する				
15	障がいのある児童や発達に特性のある児童のための福祉サービス ～放課後等デイサービス～					放課後等デイサービスの制度や概要を理解する				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者				
成績評価 方法	試験 100%					履修上の 注意	正常発達を理解するという姿勢を求める			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	神経内科学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	村重 武美 , 濱本 尊博 , 正司 真規						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーションに携わる専門職として、神経症候学及び診断学の理解は必須です。 病院施設で治療・関係する患者や利用者の病態なくして、専門職としての技術の展開・発展はない。機能解剖学をベースにして、臨床的な病態・症状について講義する					【到達目標】 ・1年次の『解剖学・生理学』を臨床的(病態・症状)に理解する ・脳血管障害・神経筋疾患等のリハビリテーションに必要な知識を習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション(神経症候学とは)					神経症候学とは何か説明できる				
2	神経放射線学					神経疾患の脳・脊髄・神経CT・MRI画像から、疾患名が導き出せる				
3	神経電気生理学					神経、脳、筋肉、心臓やその他の組織または細胞の電気的性質と生理機能との関係を大まかに理解する				
4	てんかん、脳炎					てんかん、脳炎の代表的な種類や症状が説明できる				
5	パーキンソン病					医師から見た基本的なパーキンソン病の病態と特徴を理解する				
6	運動ニューロン疾患					医師から見た基本的な運動ニューロン疾患(ALSなど)の病態と特徴を理解する				
7	トピックス					近年話題となっている神経疾患を取り上げ、必要事項を理解する				
8	脳の機能・解剖					基本的な脳の機能と解剖を理解する				
9	運動と感覚(錐体路・皮質脊髄路等)					運動と感覚の種類や経路を理解し、判別できる				
10	神経学的検査					基本的な神経学的検査の内容を理解する				
11	神経変性疾患(パーキンソン病関連)					セラピストから見て必要な神経変性疾患の病態や特徴を理解する				
12	筋肉疾患					セラピストから見て必要な筋肉疾患の病態や特徴を理解する				
13	脱髄疾患					セラピストから見て必要な脱髄疾患の病態や特徴を理解する				
14	脳血管障害					セラピストから見て必要な脳血管疾患の病態や特徴を理解する				
15	認知症関連					セラピストから見て必要な認知症関連疾患の病態や特徴を理解する				
教科書 参考図書等	書籍名					著者		出版社		
	『病気がみえる Vol. 7 脳・神経』							MEDIC MEDIA		
成績評価 方法	試験 村重50% 濱本・正司50%					履修上の 注意				
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	精神医学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーションに携わる者の実践に役立つ精神医学の基本知識として、精神疾患の症状、経過、診断、治療の基礎を学ぶ。また、現代社会における精神科領域の諸問題について知り、メンタルヘルスの重要性や精神医療の果たす役割などについて学習する。					【到達目標】 主要な精神疾患の症状について理解する 精神疾患に対する薬物療法をはじめとする治療について理解する メンタルヘルスの重要性・精神医療の果たす役割を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	精神医学の概要 (精神医学とは、歴史、精神医学を学ぶ意義など)					精神医学の定義、歴史、精神医学を学ぶ意義などについて理解できる				
2	精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状					精神障害の成因と分類について理解できる 精神機能の障害と精神症状について理解できる				
3	統合失調症について①					統合失調症について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
4	統合失調症について②									
5	気分障害について					気分障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
6	アルコール依存症について①					アルコール依存症について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
7	アルコール依存症について②									
8	思春期・青年期の精神障害①					思春期・青年期の精神障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
9	思春期・青年期の精神障害②									
10	思春期・青年期の精神障害③									
11	思春期・青年期の精神障害④									
12	老年期の精神障害(認知症を中心に)					認知症を中心に老年期の精神障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
13	パーソナリティ障害について					パーソナリティ障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
14	神経症性障害について					神経症性障害について、症状、経過、診断、治療の基礎を理解する				
15	リエゾン精神医学					リエゾン精神医学について理解し説明できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増強版					編集:上野 武治		医学書院		
	適宜紹介									
成績評価 方法	筆記試験 100%					履修上の 注意	資料を配布する場合もあるが、毎回テキストを持参すること			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	整形外科 I					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】					【到達目標】					
1.1年次に学習した解剖生理学、運動学を基盤に整形外科の基礎科学について学ぶ。 2.整形外科の運動器疾患の診断に必要な検査について学ぶ。 3.整形外科で対象とする主な外傷について学ぶ。					1.整形外科の基礎科学について説明できる。 2.整形外科の検査について分類でき、各検査の目的を説明できる。 3.整形外科の外傷(軟部組織損傷、骨折・脱臼、脊椎・脊髄損傷)の概要について説明できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	整形外科の基礎科学① 骨の構造、生理、生化学				運動器疾患の治療に必要な骨の構造、生理、生化学について理解を深める。					
2	整形外科の基礎科学② 骨の発生、成長、維持				運動器疾患の治療に必要な骨の発生、成長、維持について理解を深める。					
3	整形外科の基礎科学③ 骨の病態、病理				運動器疾患の治療に必要な骨の病態、病理について理解を深める。					
4	整形外科の基礎科学④ 骨の修復と再生				運動器疾患の治療に必要な骨の修復と再生について理解を深める。					
5	整形外科の基礎科学⑤ 関節の構造、生理、生化学				運動器疾患の治療に必要な関節の構造、生理、生化学について理解を深める。					
6	整形外科の基礎科学⑥ 関節の病態、病理				運動器疾患の治療に必要な関節の病態、病理について理解を深める。					
7	整形外科の基礎科学⑦ 関節軟骨の修復と再生、筋・神経の構造、生理、生化学				運動器疾患の治療に必要な関節軟骨の修復と再生、筋・神経の構造、生理、生化学について理解を深める。					
8	整形外科の基礎科学⑧ 痛みの基礎科学と臨床				痛みの定義、分類、生理学、評価法、運動器の痛みに対する治療について理解する。					
9	整形外科診断総論 検査				整形外科の診断に必要な検査(画像診断、検体検査、生体検査)について理解する。					
10	整形外科治療総論① 保存療法				整形外科における保存療法(非観血的治療)について理解する。					
11	整形外科治療総論② 手術療法				整形外科における手術療法(観血的治療)について理解する。					
12	整形外科外傷学① 外傷総論				整形外科で扱う外傷について、定義、分類について理解する。					
13	整形外科外傷学② 軟部組織損傷				整形外科で扱う軟部組織損傷について理解する。					
14	整形外科外傷学③ 骨折・脱臼				整形外科で扱う骨折・脱臼について理解する。					
15	整形外科外傷学④ 脊椎・脊髄損傷				整形外科で扱う脊椎・脊髄損傷について理解する。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準整形外科 第15版				監修 井樋栄二・津村弘		医学書院			
	適宜資料配布									
参考図書等										
成績評価方法	1.定期試験 中間試験50%(授業計画1～8に対して) 期末試験50%(授業計画9～15に対して) 2.小テスト:加対象 平均80点以上5点・70点以上:4点・60点以上:3点 50点以上2点・40点以上:1点				履修上の注意		・受講内容をより深く理解する為に解剖生理学、運動学の内容を復習しておくことが望ましい。 ・定期試験(中間・期末)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。			
					実務経験紹介		それぞれ長年にわたり整形外科領域での実務経験あり。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	整形外科Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1.1年次に学習した解剖生理学、運動学を基盤に各部位のより詳細な機能解剖について学ぶ。 2.各部位における運動器疾患の診断、検査、疾患について学ぶ。					【到達目標】 1.各部位の機能解剖について理解を深める。 2.各部位における運動器疾患の診断、検査、疾患の繋がりを理解出来る。					
回数	授業内容				学習目標					
1	整形外科外傷学⑥ 末梢神経損傷				整形外科で扱う末梢神経損傷について理解する。					
2	整形外科疾患各論① 肩関節(機能解剖)				肩関節のより詳細な機能解剖を理解する。					
3	整形外科疾患各論② 肩関節(診察と検査法、疾患)				運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。(肩関節)					
4	整形外科疾患各論③ 肘関節(機能解剖)				肘関節のより詳細な機能解剖を理解する。					
5	整形外科疾患各論④ 肘関節(診察と検査法、疾患)				運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。(肘関節)					
6	整形外科疾患各論⑤ 手関節と手(機能解剖)				手関節と手のより詳細な機能解剖を理解する。					
7	整形外科疾患各論⑥ 手関節と手(診察と検査法、疾患)				運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。(手関節と手)					
8	整形外科疾患各論⑦ 脊椎(機能解剖)				脊椎のより詳細な機能解剖を理解する。					
9	整形外科疾患各論⑧ 脊椎(診察と検査法、疾患)				運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。(脊椎)					
10	整形外科疾患各論⑨ 股関節(機能解剖)				股関節のより詳細な機能解剖を理解する。					
11	整形外科疾患各論⑩ 股関節(診察と検査法、疾患)				運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。(股関節)					
12	整形外科疾患各論⑪ 膝関節(機能解剖)				膝関節のより詳細な機能解剖を理解する。					
13	整形外科疾患各論⑫ 膝関節(診察と検査法、疾患)				運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。(膝関節)					
14	整形外科疾患各論⑬ 足関節と足(機能解剖)				足関節と足のより詳細な機能解剖を理解する。					
15	整形外科疾患各論⑭ 足関節と足(診察と検査法、疾患)				運動器疾患における診察と検査法、疾患について理解する。(足関節と足)					
教科書 参考 図書等	書籍名				著者		出版社			
	標準整形外科学 第15版				監修 井樋栄二・津村弘		医学書院			
	適宜資料配布									
成績評価 方法	1.定期試験 中間試験50%(授業計画1～8に対して) 期末試験50%(授業計画9～15に対して) 2.小テスト:加点対象 平均80点以上5点・70点以上:4点・60点以上:3点 50点以上2点・40点以上:1点				履修上の 注意		・受講内容をより深く理解する為に解剖生理学、運動学の内容を復習しておくことが望ましい。 ・定期試験(中間・期末)の合格基準はそれぞれ6割以上とする。			
					実務経験 紹介		それぞれ長年にわたり整形外科領域での実務経験あり。			

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	リハビリテーション医学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	2年	理学・作業・言語	学期	前期	授業形態	講義
担当	小林 誠						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーションという言葉は、“障害を受けた者を回復させる”という意味があり、「リハビリテーション医学」の中でも中心的役割を担う循環器系に焦点をあてて、調節機構の原理とそれらが破綻した歳の病態生理について解説する。					【到達目標】 ・循環器系の生理的調節機構を理解し、さらにそれらが破綻して病気や障害を発生させるメカニズムを理解する。次に、病気や障害を回復させる治療法について理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 循環器の基礎の基礎					循環器の基本的特性、病態生理について理解する				
2	筋収縮のメカニズムと調節機構					筋収縮のメカニズムと調節機構を理解する				
3	心臓の機械的特性					心臓の機械的特性と調節機構、病態生理を理解する				
4	心機図					心機図の成り立ち、病態生理を理解する				
5	心臓の電気的特性と心電図					心臓の電気的特性と心電図の基本、およびその病態生理を理解する。				
6	循環調節機構1					人体の循環調節機構の調節メカニズムと病態生理を理解する				
7	循環調節機構2					人体の循環調節機構の調節メカニズムと病態生理を理解する				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	必要な資料は、適宜配布する。									
参考 図書等										
成績評価 方法	1. 授業態度・参加度(30%) 2. 確認試験(70%)					履修上の 注意				
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	地域リハビリテーション学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 地域で生活されている障害者（児）や高齢者を対象に展開されているリハビリテーションについて講義する。特に、授業では、専門職（理学・作業・言語）以外の支援内容を重要視した。 また、リハビリテーションに関わる専門職の具体的な講義を受けることで、自らの専門職としての役割性を明確にする。					【到達目標】 ・高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状を理解する ・2040年問題について理解し、日本社会の進むべき道について述べるができる ・介護保険制度の理解と障害者総合支援制度を説明できる ・地域リハビリテーションにおける専門職の役割を理解し、説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション					地域リハビリテーションの概要を理解する				
2	介護保険法と障害者総合支援法					介護保険と障害者総合支援法の重要事項を理解する				
3	地域支援と専門職 作業療法士					地域での作業療法士の役割を理解する				
4	社会生活と地域包括ケアシステム					地域包括ケアシステムの概要を理解する				
5	地域支援と専門職 介護支援専門員					地域での介護支援専門員（ケアマネジャー）の役割を理解する				
6	地域支援と専門職 理学療法士					地域での理学療法士の役割を理解する				
7	地域支援と専門職 言語聴覚士					地域での言語聴覚士の役割を理解する				
8	地域支援 NPOの役割					地域でのNPOの役割を理解する				
9	地域支援と専門職 医師 在宅医療					地域での在宅医療の役割を理解する				
10	地域支援と専門職 訪問看護					地域での看護師の役割を理解する				
11	障害児教育の現状と課題					障害児の教育内容と課題を理解する				
12	地域支援と専門職 施設支援					施設支援の役割を理解する				
13	就労支援 精神科領域					精神科領域の就労支援を理解する				
14	就労支援 高次脳機能障害					高次脳機能障害領域の就労支援を理解する				
15	まとめ 地域で働く専門職					地域で働く専門職の役割を述べるができる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	特に定めない									
成績評価 方法	試験 100%					履修上の 注意	多数の非常勤講師により授業が運営されていきます。受講態度には留意してください。			
						実務経験 紹介				

3 年 次

専 門 基 礎 科 目

- | | |
|---------------|------------|
| ◇ 救急医学 | ◆ 作業療法概論 |
| ◇ 脳神経外科学 | ◆ 言語聴覚療法概論 |
| ◇ 薬理学 | ◆ 看護学概論 |
| ◇ 栄養学 | |
| ◇ リハビリテーション工学 | |

(◆選択科目)

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	救急医学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師 山口市消防本部						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 私たちは、常に生死の境目で仕事を行っている医療職である。特に、リハビリテーション医療では、急性期・回復期・生活期のどの場面においてもリスク管理は重要であり、「救命救急」は必然である。保健医療福祉に携わる専門職として、常に基本的な救急時の判断・対処法(処置)について熟知し、対応できる能力を周囲から求められている。「命」を守る医療専門職として最低限の知識技術の習得を目的とする。					【到達目標】 救命処置が必要になった時、素早く行動できる知識技術を持つ。医療の専門家として対応しなければならない、という意識を常日頃より持つ(緊急事態の際、逃げない、第3者にならない)。					
回数	授業内容					学習目標				
非常勤講師 5回 救急総論 頻度の高い症状の診断と対処 救急医療 緊急を要する病態とその初期治療(1) 緊急を要する病態とその初期治療(2) 期末試験 1回 山口市消防本部 2回 普通救命救急講習Ⅰ 成人を対象とした心肺蘇生法を理解し体験する。 AEDの使用方法を理解し体験する 止血法などを学習し体験する。 ※修了者は普通救命講習Ⅰ修了証が交付されます。										
教科書 参考図書等	書籍名					著者			出版社	
成績評価方法	1. 授業態度・参加度(30%) 2. 筆記試験(70%)					履修上の注意	授業・実習など、常に緊張感をもって授業に臨むこと。「緊急事態」になった時、個々で対応できる能力は「経験が一番」と心得ること。			
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	脳神経外科学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業・言語	学期	前後期	授業形態	講義
担当	梶原 浩司 柳原 博之 濱田 康弘 学内教員						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 脳血管障害はリハビリテーション分野で最も関わる障害であり、その病態を知ることはリハビリテーション専門職の必須の要件である。近年、中枢神経障害に対する治療技術の発展はめざましく、外科的な手術をはじめ、予防的な治療として脳血管内科という分野も確立している。リハビリテーションに携わるものとして、最新の知識・技術を学ぶことは、より効果的な治療を行う上で大切な要素である。脳神経外科専門医の立場から、脳血管障害の原因、病態症状、合併症、治療と予後、リハビリテーションについて最新情報を得る。					【到達目標】 中枢神経系の機能局在を理解する。 脳血管障害の病態と症状を理解する。 脳腫瘍の病態と症状を理解する。 脳神経外科学の手術と適応について理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1～2回 中枢神経系の解剖生理と機能局在 神経学的主要症候と画像(CT, MRI 他) 3回～7回 宇部西リハビリテーション病院 山口日赤病院 脳神経外科医が担当 脳血管障害等について(病巣と障害) 脳梗塞 脳出血 クモ膜下出血 脳腫瘍 他 予防と脳神経外科的治療(内科的治療を含む) 合併症、脳神経外科医からみた予後 リハビリテーションとリスク管理										
中枢神経系の機能局在、その画像を理解する 脳血管障害の病態と症状を理解する。 脳腫瘍の病態と症状を理解する。 脳神経外科学の手術と適応、リスク管理、 リハビリテーションについて理解する。										
教科書	書籍名		著者				出版社			
	病気がみえる vol.7 脳・神経						MEDIC MEDIA			
	目で見える神経内科学		平井 俊策				医歯薬出版			
参考 図書等										
成績評価 方法	試験(100%)				履修上の 注意	前期開講ですが、前後期で開講します。				
					実務経験 紹介					

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	薬理学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	田村 和文						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 薬物がヒトの身体にどのように作用して疾病の治療に寄与するか、また、ヒトの身体が薬物にどのように反応するか、また薬物を使用して起きることが予測される副作用について学習し、「科学的根拠に基づいた治療」が理解できるように薬理学を学ぶ。限られた時間内で全てを網羅できないが、必要最小限のことを講義する。					【到達目標】 ・リハビリテーションの領域で用いられる薬についての知識を持つ。 ・薬の効能と副作用についての知識を持つ。					
回数	授業内容					学習目標				
1	薬理学総論					薬物と生体との相互作用の結果起こる現象を探究する科学である薬理学全般を理解する。すなわち薬物を薬物作用と薬物動態の両面から学習する。特に薬物作用機序と受容体を学ぶ。				
2	末梢神経系、中枢神経系作用薬					交感・副交感神経作用薬の作用機序、交感・副交感神経刺激薬と交感・副交感神経遮断薬の臨床応用および副作用を学ぶ。中枢神経作用薬の多様な中枢性、末梢性副作用とそれに対する対処法を学ぶ。				
3	心臓病血管作用薬					高血圧の病態生理と薬物治療の基本(薬理作用、副作用)を学ぶ。				
4	抗炎症薬、呼吸器系作用薬					生体防御機能としての炎症反応および免疫応答を理解し炎症性疾患に対する抗炎症薬、および免疫疾患に対する治療薬の基本について学ぶ。呼吸の生理と呼吸を障害する疾患の発生機序を学ぶ。				
5	消化器系、ホルモン系、生殖器系作用薬					消化器疾患の病態生理と薬物療法の基本を学ぶ。各種ホルモンの作用、役割を理解し、内分泌器官の障害、異常に由来する疾患の治療薬について学ぶ。				
6	抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬					各種感染症の病原体(微生物)と抗感染症薬の基本(薬理作用、副作用)について学ぶ。悪性腫瘍の特性と抗悪性腫瘍薬の基本(薬理作用、副作用)について学ぶ。				
7	漢方薬総論					漢方薬の特徴と西洋医薬の相違を学ぶ。漢方医学の診断と治療目標の概略を学ぶ。漢方薬の適用疾患について学ぶ。				
教科書	書籍名					著者			出版社	
	わかりやすい薬理学					安原 一 小口 勝司			広川書店	
参考図書等										
成績評価方法	1. 授業態度(30%) 2. 確認試験(70%)					履修上の注意	臨床実習直前の授業です。興味をもって望んでくれることを期待します。			
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	栄養学					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	松村 史樹						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 栄養問題は、かつての食料不足による単純な欠乏症に代わって、生活環境やライフスタイルの変遷に伴って新たな問題を発生させている。新たな栄養問題は、体力低下や病気の回復力の低下、さらにはQOLの低下など、リハビリテーションの観点からも問題となる。 栄養とは生物が活動、成長、増殖していくために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象であることを学び、リハビリテーションの専門職としても栄養のもたらす効果や不利益について理解することを到達目標とする。					【到達目標】 ・栄養素の種類と働きについて理解する。 ・栄養状態の評価・判定を理解する。 ・リハビリテーションと栄養との関連性を理解する。 ・各病態における栄養管理を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	栄養学の必要性					リハビリテーションに栄養管理が必要であることを理解できる				
2	生化学と栄養学					栄養素の成り立ちについて理解できる				
3	栄養素について					3大栄養素と微量栄養素の役割を理解できる				
4	エネルギー代謝と運動および代謝異常					エネルギーを生み出す仕組みについて理解できる				
5	栄養評価と栄養補給法					栄養状態を評価するための方法と補給方法を理解できる				
6	低栄養・過栄養の栄養管理と病態栄養管理					各病態に応じた栄養療法を理解できる				
7	栄養管理と他職との連携					多職種間で栄養管理を行うことの必要性を理解できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	リハビリテーションテキスト 栄養学・生化学					吉村芳弘		メジカルビュー社		
成績評価 方法	1. 授業態度(20%) 2. 筆記試験(80%)					履修上の 注意	・1年次の生理学の復習をしながら、授業に臨むこと。 ・教科書にて授業内容を振り返ること。			
						実務経験 紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	必修	科目名	リハビリテーション工学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	非常勤講師						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ADL・社会生活行為の支援活動のひとつである福祉用具、補装具について体験を通じ学ぶ。 障害者や高齢者が自立生活を営むために必要な福祉用具、補装具、生活環境のあり方について学び、リハビリテーション専門職種としての役割、多職種との連携について理解を深める。					【到達目標】 - 福祉用具・補装具支援の理念、制度を理解する - 姿勢保持の基礎と快適な姿勢保持の条件を理解する - 姿勢保持のための支援方法とその目的を理解する - コミュニケーション支援と生活環境との関係、支援用具の操作方法を理解する - コミュニケーション支援の自助具の製作方法を習得する - 住環境整備についての基本と支援方法について理解する - 移乗・移動に関する用具と生活環境整備について理解する - 福祉用具・補装具支援における理学療法士・作業療法士の役割、多職種との連携について理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	テクノエイド論					テクノエイドについて理解する				
2	姿勢保持の基礎					姿勢保持の基礎を理解する				
3	クッション製作実習①					クッション製作を通じて、姿勢保持のための支援方法とその目的、および快適な姿勢保持の条件を理解する				
4	クッション製作実習②									
5	コミュニケーション論①					コミュニケーション支援と生活環境との関係、支援用具の操作方法を理解する コミュニケーション支援のための自助具の製作方法を習得する				
6	コミュニケーション論②									
7	ITを利用した生活支援①									
8	ITを利用した生活支援②									
9	生活環境整備について①					住環境整備についての基本と支援方法について理解する				
10	生活環境整備について②									
11	生活環境整備について③									
12	生活環境整備について④									
13	移乗・移動に関する用具と環境調整①					移乗・移動に関する用具と生活環境整備について理解する				
14	移乗・移動に関する用具と環境調整②									
15	移乗・移動に関する用具と環境調整③									
16	移乗・移動に関する用具と環境調整④									
教科書	書籍名					著者		出版社		
	配布資料									
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	課題レポート 100%					履修上の注意				
						実務経験紹介				

科目区分	専門基礎	履修形態	選択	科目名	作業療法概論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	大田 茂臣						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・リハビリテーションに携わる専門職として、作業療法の 実践領域やその内容について理解を 深める。 ・各療法との接点やその専門性の違いについて考える。					【到達目標】 ・作業療法の基本概念について理解できる。 ・作業療法の実践領域や業務内容について理解できる。 ・作業活動の体験を通じて、作業の意味について理解する。 ・専攻する療法との接点やその専門性の違いについて 考察できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	作業療法、作業療法士とは					作業療法士の定義や領域、業務内容について理解する。				
2	作業療法の「作業」について					作業療法士の「作業」について理解し、作業に根差した実践を学ぶ。				
3	身体障害領域の関りについて					作業療法士の身体障害領域について理解する。				
4	精神障害領域の関りについて					作業療法士の精神障害領域について理解する。				
5	地域での関りについて					作業療法士の地域での作業療法について理解する。				
6	作業活動の体験					革細工でキーホルダーを作ることを通して、身体、精神機能を分析することができる。				
7	体験した作業について振り返る					革細工でキーホルダーを作ることを通して、身体、精神機能を分析することができる。				
教科書	書籍名					著者				
参考 図書等	適宜資料を配布する									
成績評価 方法	1. 筆記試験(100%)					履修上の 注意	作業体験をする際には、塗料を使用するため、汚れても良い衣服で参加すること。			
						実務経験 紹介	作業療法士として医療機関で15年以上の経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	選択	科目名	言語聴覚療法概論					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	正司 真規						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 言語聴覚療法の対象と内容を知り、言語聴覚障害および言語聴覚士についての理解を深める					【到達目標】 ・言語聴覚療法の基本概念について理解できる ・言語聴覚士の対象者と業務内容について理解できる					
回数	授業内容					学習目標				
1	言語聴覚療法・言語聴覚士とは					言語聴覚士の役割を説明できる				
2	摂食・嚥下障害					摂食嚥下障害の概要を理解する				
3	成人領域の言語・認知 障害について					言語・認知障害の概要を知り、言語障害者との会話の注意点を説明できる				
4	発声・発語障害について					発声発語障害の種類を説明できる				
5	小児領域の言語・認知について					言語・認知障害の概要を知り、言語障害児との関わりの方の注意点を説明できる				
6	聴覚障害について					聴覚障害の種類を知り、聴覚障害者との会話の注意点を説明できる				
7	まとめ					言語障害について大まかに理解し、種類や症状を説明できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	特に定めない									
成績評価 方法	試験100%					履修上の 注意	グループワークを行います。			
						実務経験 紹介	本領域の実務経験あり			

科目区分	専門基礎	履修形態	選択	科目名	看護学概論(在宅看護学)					
単位数	1	時間数	15	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	佐藤 美幸						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 チーム医療の中で協働する、看護および看護職について理解するために、看護の定義や役割、機能について概説する。また、医療現場や多職種連携の場面において看護職の果たす役割を理解し、チーム医療における自らの立場と看護職との連携について理解を深める。					【到達目標】 1)看護とはなにか、看護職の対象の捉え方について知る。 2)看護の提供のしくみや教育からその役割について知る。 3)看護の機能と役割を理解し、チーム医療におけるそれぞれの立場と看護職との連携のあり方について考察できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 看護とは					看護師とはどのような人なのかを説明できる 看護とは何か、看護実践とは何かを説明できる 看護の継続性とPT,OTとの連携を説明できる				
2	看護の対象の理解					看護はどのような人を対象にするのかが説明できる 看護の対象者(人)の特徴を説明できる 生活者である人間に対して看護が果たす役割を理解できる				
3	国民の健康・生活の全体像の把握					健康とは何か、障害とは何かを看護の視点で把握できる				
4	bh					看護職の資格と養成、継続教育の概要を理解する				
5	看護における倫理(講義・演習)					倫理とは何かを考える 医療・看護をめぐる倫理的問題や倫理的ジレンマについて考える				
6	看護の提供のしくみ					チーム医療における看護の役割を理解する 看護サービスがどのように提供されているのかを理解する				
7	広がる看護の活動領域					国際看護、災害看護など特殊な状況での看護活動の現状を知る				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学総論 第17版					茂野 香おる 他著		医学書院		
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1. 授業態度・参加度(10%) 2. 演習課題(20%) 3. 最終試験(70%)					履修上の注意	・コ・メディカルスタッフの一員としての看護職者について学ぶことから、それぞれ立場との連携をとっていく上での他職種との連携を考えていただければと思います。 ・授業に集中するため、私語厳禁、携帯電話の使用等は禁止させていただきます。			
						実務経験紹介				

專 門 科 目

理学療法学科

1 年 次

専 門 科 目

- ◇ 理学療法概論Ⅰ
- ◇ 理学療法概論Ⅱ
- ◇ 基礎理学療法学Ⅰ
- ◇ リハビリテーションセミナー
- ◇ 理学療法セミナーⅠ
- ◇ 理学療法評価学Ⅰ
- ◇ 理学療法治療学Ⅴ

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法概論Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 医療とリハビリテーション、理学療法の関連を理解するとともに、理学療法士について、歴史・法律と業務の概略を知る。					【到達目標】 ・医療・保健・福祉における理学療法の役割を理解する。 ・理学療法士及び作業療法士法を中心に関連法規を理解する。 ・理学療法の内容を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	医療とリハビリテーション					医療におけるリハビリテーションの役割を理解する				
2	リハビリテーションにおける理学療法の役割					リハビリテーションにおける理学療法の役割を理解する				
3	理学療法士に求められる能力					理学療法士に求められる能力(適性)を理解する				
4	理学療法と倫理					理学療法に必要な職業倫理を理解する				
5	社会からみた理学療法の役割					社会から求められる理学療法の役割を理解する				
6	ICFの概要					ICFを理解する				
7	理学療法の対象・目的・手段					理学療法の対象・目的・手段を説明できる				
8	理学療法の歴史					理学療法の歴史を理解する				
9	理学療法に関連する法規、保険制度					理学療法士・作業療法士法、医療保険、介護保険などの法律を理解する				
10	理学療法の領域(運動療法、物理療法、義肢装具、日常生活活動)(演習)					理学療法手段を理解する				
11	理学療法の対象①(関節可動域制限)(演習)					関節可動域制限が日常生活活動にどのような影響を与えるか自身の体で体験する				
12	理学療法の対象①(筋力低下)(演習)					筋力低下が日常生活にどのような影響を与えるか理解する				
13	理学療法の対象②(疼痛、持久性低下)					疼痛、持久性低下が日常生活にどのような影響を与えるか理解する				
14	理学療法の対象疾患①(運動器、神経疾患)					理学療法の主な対象疾患(運動器、神経疾患)を理解する				
15	理学療法の対象疾患②(呼吸・循環・代謝疾患)					理学療法の主な対象疾患(運動器、神経疾患)を理解する				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	標準理学療法学 専門分野 理学療法概説(電子書籍)					奈良 勲 監修		医学書院		
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 演習課題(20%) 2. 筆記試験(80%)					履修上の 注意	授業ではグループ活動もあるため、自分勝手な行動は慎み、協調性を持って授業に臨むこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関で6年間、非常勤として20年間の実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法概論Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 本校の教育理念である、「広い視野を持った誠実な医療の専門家を目指して」に適した理学療法士になるために、何を学ぶべきか、何を実践すべきかについて学習します。また、学習を通して、自ら考える姿勢を身に付けます。 理学療法士としてこれからの医療・保健・福祉の領域で担う役割を理解し、求められる理学療法士像について理解を深めることを目的とします。					【到達目標】 ・疾病や障害像の概観を知り、それぞれに対する理学療法士の役割を理解し、説明できる。 ・医療、保健、福祉における理学療法士の役割を理解し、関係法規も含めて説明することができる。 ・様々な意見を聞き、自らの意見も表出するようなグループワークの参加を通して積極的な姿勢を身に付ける。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション リハビリテーションと理学療法				科目の流れ、予定等を理解する。リハビリテーションの中の理学療法の役割を理解する。					
2	ICFとICIDHについて				ICFとICIDHについて理解し、説明できる。					
3	障害学総論				理学療法が対象とする障害について理解し、説明できる。					
4	障害体験(演習)				関節可動域制限などを有した状態での動作などについて自身の体験をもとに学習する。					
5	障害体験(演習まとめ)				演習で得た知見をまとめ、ディスカッションをすることで理解を深める。					
6	運動機能障害と理学療法				運動機能障害について概観を知り、ディスカッションを通じて、理学療法の役割を理解し、説明できる。					
7	神経機能障害と理学療法				神経機能障害について概観を知り、ディスカッションを通じて、理学療法の役割を理解し、説明できる。					
8	循環機能障害と理学療法				循環機能障害について概観を知り、ディスカッションを通じて、理学療法の役割を理解し、説明できる。					
9	理学療法におけるADL				地域実習等の発表報告を聴講することにより、ADLに関する知識の理解を深めることができる。					
10	地域における理学療法				地域実習等の発表報告を聴講することにより、理学療法士の職域に関する知識の理解を深めることができる。					
11	臨床基礎実習経験報告会受講①				2年次の臨床基礎実習の経験報告会に参加し、基礎実習における役割、内容について理解することができる。					
12	臨床基礎実習経験報告会受講②				2年次の臨床基礎実習の経験報告会に参加し、臨床基礎実習における役割、内容について理解することができる。					
13	臨床実習Ⅱ経験報告会受講①				3年次の臨床実習Ⅰの経験報告会に参加し、臨床実習における役割、内容について理解することができる。					
14	臨床実習Ⅱ経験報告会受講②				3年次の臨床実習Ⅰの経験報告会に参加し、臨床実習における役割、内容について理解することができる。					
15	理学療法士の役割まとめ				求められる理学療法士像について理解し、考えをまとめることができる。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	標準理学療法学 理学療法概説(電子版)				奈良勲・内山靖		医学書院			
	適宜紹介									
成績評価方法	・個人演習課題(60%) ・グループ演習課題(40%)				履修上の注意		・事前に教科書の該当部分を伝える場合があるため、その際は予習をしておくこと。			
					実務経験紹介		理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	基礎理学療法学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	國安 正志						教員の 実務経験	無	企業等 との連携	無
【授業の概要】 物理学(主に熱力学、流体力学、波動・振動論、電磁気学)の基本的な内容から医療現場における応用まで、初めて物理学を学ぶ学生でも理解できるように講義する。					【到達目標】 ・様々な物理現象を学習し、具体的な計算手法を理解する。 ・物理現象の医療現場における応用例を学習する。 ・物理学を学習することで、論理的な考え方を身に付ける。					
回数	授業内容				学習目標					
1	熱力学(1)				温度とその様々な単位、さらにはその変換方法について学ぶ。					
2	熱力学(2)				水を題材に三態変化や熱的性質との結びつきを理解する。					
3	熱力学(3)				熱の伝播について学び、具体的な計算を行えるようになる。					
4	気体の圧力について				ボイル＝シャルルの法則とその使い方を理解する。					
5	波動・振動論(1)				物理学における「波」の基本的な性質を学ぶ。					
6	波動・振動論(2)				波に見られる特有の現象を学び、粒子との違いを認識する。					
7	波動・振動論(3)				波としての光および光学の基礎を覚える。					
8	波動・振動論(4)				音波を学ぶと同時に、ドップラー効果等における、計算手法を理解する。					
9	超音波について				医療現場で使用される超音波の性質を覚える。					
10	電磁気学(1)				電気現象の基礎としてその単位などを理解する。					
11	電磁気学(2)				オームの法則を学び簡単な電気回路の計算を行えるようになる。					
12	電磁気学(3)				電気機器と電気ショックを学び、電気の安全な取り扱い方を理解する。					
13	電磁気学(4)				磁気現象について紹介し、電気現象との親和性を知る。					
14	電磁波について				電気と磁気によって生成される波、電磁波の性質を覚える。					
15	総復習				分野が多岐に渡るためテスト前に総復習を行い、全体の理解度を深める。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	Newベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学				平田 雅子(著)		学研メディカル秀潤社			
参考図書等										
成績評価方法	1. 授業態度(15%) 2. 期末試験(85%)				履修上の注意	本授業では、初学者にとって難解な物理現象も取り扱う。従って各自事前の予習や、授業後の復習を充分に行うこと。自主性を持って学習に取り組むこと。				
					実務経験紹介					

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	リハビリテーションセミナー					
単位数	1	時間数	45	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	理学療法学科教官						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有
【授業の概要】 DVDの視聴や当事者の体験談、病院施設見学を通して、医療とは何か、リハビリテーションとは何かを考える。そのねらいは、登場する主人公や家族の気持ちに寄り添えるような感性豊かな医療人になってほしいという願いを込めて授業を組み立てた。 この授業は、「優しを伝えられる人」「相手の立場になって考えられる人」、そういう専門職を育てる入口であり、そこから医療証としての専門性に気づいてくれることを願う。					【到達目標】 ・「生きる」「生活する」とは何かを考える。 ・自宅で生活されている障がい者に必要なリハビリテーションサービスを考える。					
回数	授業内容					学習目標				
【授業計画】 1. オリエンテーション 4年間の養成教育カリキュラムについて 「誠実な医療の専門家を目指して」の意味を考える 2. 脊髄損傷患者のリハビリテーション 当事者と家族の望む生活を考える DVD「ウイニング・パス」の視聴 3. リハビリテーションの具体的な流れを知る。 治る病気、治らない病気、進行性の病気とリハビリテーション 4. 病院見学 病院における専門職の役割を知る。 ※感染状況等により、病院見学ができない場合は他の内容に変更となる可能性あり 5. 4年後を考える 授業を通して、将来の自分を想像できるようになる										
教科書	書籍名					著者		出版社		
	リハビリテーション概論 改訂第4版					田島 文博 編著		永井書店		
参考 図書等										
成績評価 方法	演習課題(100%)					履修上の 注意	・他の科目(リハビリテーション概論、理学療法概論Ⅰ・Ⅱ)との繋がりを意識し、演習に臨むこと。 ・医療人を目指す者としての「心構え」をしっかりと持つこと。			
						実務経験 紹介	医療現場での実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法セミナーⅠ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	楯野 允也／尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 理学療法士を目指すにあたって、学習していくべき知識・技術が多くある。本セミナーではそれらの導入として基礎となる知識を学習する。 また、理学療法士として社会に関わっていくにあたって、社会人としての基礎として語彙・読解等の学習も行うことでスキル向上を図ることを目的とする。					【到達目標】 ・社会人としての基礎(言葉遣い、学力等)を身に付けることができる。 ・理学療法に必要な基礎知識(解剖・生理)を理解し、活用することができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション					セミナーの流れ、予定を理解することができる。				
2	語彙・読解等の基礎プログラム①敬語					敬語について理解し、活用・説明することができる。				
3	語彙・読解等の基礎プログラム②ロールプレイ					ロールプレイについて理解し、活用・説明することができる。				
4	語彙・読解等の基礎プログラム③文法					文法について理解し、活用・説明することができる。				
5	語彙・読解等の基礎プログラム④語彙・言葉の意味					語彙・言葉の意味について理解し、活用・説明することができる。				
6	語彙・読解等の基礎プログラム⑤漢字					漢字の意味について理解し、活用・説明することができる。				
7	語彙・読解等の基礎プログラム⑥表記					表記の意味について理解し、活用・説明することができる。				
8	語彙・読解等の基礎プログラム⑦まとめ					語彙・読解の基礎プログラムについてまとめ、全体を理解することができる。				
9	入学前教育プログラムの理解①電気系について					電気系について復習するとともに、理解を深め説明することができる。				
10	入学前教育プログラムの理解②力とてこについて					力とてこについて復習するとともに、理解を深め説明することができる。				
11	入学前教育プログラムの理解③細胞のしくみについて					細胞のしくみについて復習するとともに、理解を深め説明することができる。				
12	入学前教育プログラムの理解④人体の構造について					人体の構造について復習するとともに、理解を深め説明することができる。				
13	入学前教育プログラムの理解⑤骨格と筋肉について					骨格と筋肉について復習するとともに、理解を深め説明することができる。				
14	入学前教育プログラムの理解⑥感覚器について					感覚器について復習するとともに、理解を深め説明することができる。				
15	入学前教育プログラムの理解⑦消化と排泄について					消化と排泄について復習するとともに、理解を深め説明することができる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳					名古屋大学日本語研究会		東京書籍		
	入学前教育プログラム 理学療法科・作業療法科 コース 総合テキスト									
成績評価 方法	・授業参加内容(20%) ・小テスト(80%)					履修上の 注意	・入学前学習を十分に行っておくこと。 ・講義内容に関して事前に予習を行っておくこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。(楯野)			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法評価学Ⅰ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	前田 有輝／楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 理学療法では、対象者に対して検査測定を行い、問題点を抽出し、治療方針を決定していく評価の過程を必要とします。 本科目では理学療法評価の検査測定に関して、その目的を理解し、解剖学・運動学をもとに各測定の正確な実施や記録を行うための知識、技術を学びます。					【到達目標】 ・理学療法評価の目的、役割、概要を理解し、その必要性を説明できる。 ・理学療法評価における測定項目の目的を理解し説明できる。 ・理学療法評価における測定項目の方法、リスク管理に関して説明できる。 ・理学療法評価における測定項目の技術を習得し、実施できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション・理学療法評価総論①理学療法の流れと評価の位置づけ					理学療法評価の目的、役割を理解し説明できる。				
2	理学療法評価総論②検査測定と評価					理学療法評価の検査測定に関して理解し説明できる。				
3	理学療法評価総論③理学療法の記録					理学療法における記録方法について学習し説明できる。				
4	身体計測の意義と測定 身長・体重・体格指数・皮下脂肪・頭囲・胸囲・腹囲・座高・指極(実習)					身体計測の意義と測定方法を学習し、実施することができる。				
5	形態計測 四肢長・四肢周径(実習)					形態計測の意義と測定方法を学習し、実施することができる。				
6	関節可動域測定①肩甲帯・肩関節(実習)					肩甲帯・肩関節に関する関節可動域測定の目的、意義、方法を学習し、実施することができる。				
7	関節可動域測定②肘・前腕・手関節・手指(実習)					肘・前腕・手関節・手指に関する関節可動域測定の目的、意義、方法を学習し、実施することができる。				
8	関節可動域測定③股関節・膝関節(実習)					股関節・膝関節に関する関節可動域測定の目的、意義、方法を学習し、実施することができる。				
9	関節可動域測定④足関節・足部・足趾(実習)					足関節・足部・足趾に関する関節可動域測定の目的、意義、方法を学習し、実施することができる。				
10	徒手筋力検査法①概論・頸部・体幹(実習)					徒手筋力検査法の意義、理論を理解し説明できる。頸部・体幹の徒手筋力検査法の方法、代償動作の注意などを理解し実施できる。				
11	徒手筋力検査法②肩甲帯・肩関節(実習)					肩甲帯・肩関節の徒手筋力検査法、代償動作の注意などを理解し実施できる。				
12	徒手筋力検査法③肘・前腕・手関節・手指(実習)					肘・前腕・手関節・手指の徒手筋力検査法、代償動作の注意などを理解し実施できる。				
13	徒手筋力検査法④股関節・膝関節(実習)					股関節・膝関節の徒手筋力検査法、代償動作の注意などを理解し実施できる。				
14	徒手筋力検査法⑤足関節・足趾(実習)					足関節・足趾の徒手筋力検査法、代償動作の注意などを理解し実施できる。				
15	徒手筋力検査法⑥まとめ(実習)					徒手筋力検査法について復習し、検査方法について理解を深め、実施できる。				
教科書	書籍名					著者				
	標準理学療法学 理学療法評価学(電子版)					奈良勲・内山靖				
	新・徒手筋力検査法 原著第10版					津山直一 訳				
	【参考図書】									
	運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢 改定第2版(電子版)					青木隆明・林典雄				
参考 図書等	運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹 改定第2版(電子版)					青木隆明・林典雄				
						メジカルビュー社				
成績評価 方法	・筆記試験(50%) ・実技試験(50%)					履修上の 注意				
						・本科目の多くは実習になります。実習時には実習着を着用し、適切な身だしなみで参加すること。 ・実技試験には実習着を着用し、適切な身だしなみで参加すること。				
						実務経験 紹介 理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。(楫野)				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療学Ⅴ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	1年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	尾畑 敏江／吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 「日常生活」を理学療法士の視点から捉えていく。基本動作を理解し、日常生活活動を支える機器や用具を知る。また、セルフケアから生活関連動作へのつながりを理解する。					【到達目標】 ・日常生活に必要な活動を理解し、動作介助の基本を習得する。 ・日常生活活動の評価方法、福祉用具の種類を知る。 ・「障害を持ち生活を送る」ことを経験する。					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	オリエンテーション		ADLの歴史を理解する		16	基本動作と介助方法⑦ (演習)		応用歩行、階段昇降の動作 介助ができる		
2	ADLの概念と範囲		ADLの概念と範囲が説明で きる		17	基本動作と介助方法⑧ (演習)		寝返り～歩行までの一連の 流れの動作介助ができる		
3	ADLとIADL、セルフケア、 手段的ADL		ADLとIADL、セルフケア、手 段的ADLの違いを説明でき		18	視覚障害(演習)		視覚障害者に対する動作介 助ができる		
4	ADLの評価方法①		Barthel index、Lawtonの評 価法を理解する		19	福祉用具について①		福祉用具概念を理解する		
5	ADLの評価方法②		PULSES、Katz、老研式の評 価法を理解する		20	福祉用具について②		補装具、日常生活用具、自 助具の種類を理解する		
6	ADLの評価方法③		FIMの評価法を理解する		21	福祉用具について③		補装具、日常生活用具、自 助具の種類を理解する		
7	ADLの評価方法④		FIMの評価法を理解する		22	福祉用具について④		補装具、日常生活用具、自 助具の種類を理解する		
8	ADLの運動学的分析①		運動学的分析の基礎を理解 する		23	車椅子について①		車椅子にどのような種類が あるか理解する		
9	ADLの運動学的分析②		運動学的分析の基礎を理解 する		24	車椅子について②(演習)		車椅子の採寸ができる		
10	基本動作と介助方法① (演習)		車椅子操作の介助および車 椅子駆動ができる		25	車椅子について③(演習)		車椅子の採寸ができる		
11	基本動作と介助方法② (演習)		寝返りの動作介助ができる		26	車椅子について④(演習)		車椅子の採寸ができる		
12	基本動作と介助方法③ (演習)		起き上がりの動作介助がで きる		27	車椅子について⑤(演習)		シーティングを理解する		
13	基本動作と介助方法④ (演習)		起立-着座の動作介助がで きる		28	疾患別ADL指導① (演習)		片麻痺のADL指導を理解す る		
14	基本動作と介助方法⑤ (演習)		移乗の動作介助ができる		29	疾患別ADL指導② (演習)		脊髄損傷のADL指導を理解 する		
15	基本動作と介助方法⑥ (演習)		歩行(杖の処方含む)の動 作介助ができる		30	疾患別ADL指導③ (演習)		運動器疾患のADL指導を理 解する		
教科書	書籍名		著者		出版社					
	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学		奈良 勲		医学書院					
参考 図書等	リハビリテーションビジュアルブック				学研					
成績評価 方法	1. 筆記試験(60%) 2. 実技試験(20%) 3. 課題(20%)				履修上の 注意	実技が多くなるため、身だしなみ(髪、爪、服装 等)に留意すること				
					実務経験 紹介	医療現場での実務経験あり				

2 年 次

専 門 科 目

- | | |
|-------------|------------|
| ◇ 理学療法概論Ⅲ | ◇ 理学療法治療学Ⅱ |
| ◇ 基礎理学療法学Ⅱ | ◇ 理学療法治療学Ⅲ |
| ◇ 理学療法セミナーⅡ | ◇ 義肢装具学総論 |
| ◇ 理学療法評価学Ⅱ | ◇ 生活環境論 |
| ◇ 理学療法評価学Ⅲ | ◇ 臨床基礎実習 |
| ◇ 理学療法治療学Ⅰ | |

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法概論Ⅲ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 1年次に学んだ解剖・生理・運動学と2年次で学ぶ臨床医学の結びつきを理解し、リハビリテーション・理学療法の果たす役割を理解する。					【到達目標】 ・臨床症状・疾患に関連する基礎知識を整理する。 ・理学療法の内容を分野ごとに理解する。 ・基本的な理学療法の手順を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション					理学療法の流れを理解する。ICFとICIDHを理解する。				
2	障害と理学療法					障害と理学療法(評価・治療)の関係性を理解する。				
3	運動器障害の理学療法①(講義・演習)					運動器障害に対する理学療法の目的を理解する。				
4	運動器障害の理学療法②(講義・演習)					運動器障害と理学療法の関係性を理解する。				
5	脳卒中の理学療法①(講義・演習)					脳卒中(急性期)に対する理学療法の目的を理解する。				
6	脳卒中の理学療法②(講義・演習)					脳卒中(回復期・生活期)に対する理学療法の目的を理解する。				
7	神経難病の理学療法①(講義・演習)					神経難病(パーキンソン病)に対する理学療法の目的を理解する。				
8	神経難病の理学療法②(講義・演習)					神経難病(脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症)に対する理学療法の目的を理解する。				
9	内部障害の理学療法①(講義・演習)					内部障害(心疾患・代謝疾患)に対する理学療法の目的を理解する。				
10	内部障害の理学療法②(講義・演習)					内部障害(呼吸器疾患)に対する理学療法の目的を理解する。				
11	認知症のリハビリテーション①(講義・演習)					認知症の病態、分類、リハビリテーションを理解する。				
12	認知症のリハビリテーション②(講義・演習)					認知症の病態、分類、リハビリテーションを理解する。				
13	認知症のリハビリテーション③(講義・演習)					認知症の病態、分類、リハビリテーションを理解する。				
14	認知症のリハビリテーション④(講義・演習)					認知症の病態、分類、リハビリテーションを理解する。				
15	まとめ					全講義を通じて、障害に対する理学療法を理解する。				
教科書	書籍名					著者				
	リハビリテーションビジュアルブック 第2版					落合慈之 監修、稲川 利光 編 学研				
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1. 演習課題(50%) 2. 確認試験(50%)					履修上の 注意	グループでの活動もあるので、自分勝手な行動は慎み、協調性を持って授業に臨むこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり(前田・吉富)			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	基礎理学療法学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	山崎 貴博／楫野 允也／尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 理学療法評価における動作観察と動作分析の重要性を知り、必要な力学の基礎と力学的分析手法を学習します。また、基本動作の運動学的特徴と運動力学の特徴を学習します。実際に動作観察と動作分析を行いながら学習を進めていきます。 基本動作における筋活動を測定する目的を知り、測定方法を学習するとともに結果の解釈を理解します。 障害者スポーツにおける理学療法士の活動について学びます。					【到達目標】 ・動作観察と動作分析の重要性を理解し、説明できる。 ・動作分析に必要な力学の基礎と力学的分析手法を理解し、実施することができる。 ・基本動作の運動学的特徴と運動力学の特徴、筋活動を理解し、説明することができる。 ・障害者スポーツ指導者制度と活動の内容を理解し、説明できる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	理学療法評価における動作観察と動作分析について					動作観察と動作分析について説明できる。				
2	力学の基礎と力学的分析					力学の基礎を知り、力学的分析の手法を説明できる。				
3	歩行動作の運動学的特徴と運動力学の特徴1					健常者の歩行動作の運動学的特徴と運動力学の特徴を説明できる。				
4	歩行動作の運動学的特徴と運動力学の特徴2					健常者の歩行動作の運動学的特徴と運動力学の特徴を説明できる。				
5	姿勢観察の方法と実際					姿勢観察のポイントが説明できる。 姿勢を観察してシェーマを描くことができる。				
6	動作観察の実際					基本動作の観察のポイントが説明できる。				
7	動作分析の実際1					症例の動画から動作観察を行い、機能障害を推測する一連の流れを知る。				
8	動作分析の実際2					症例の動画から動作観察を行い、機能障害を推測することができる。				
9	筋活動の基礎と筋電図学的分析					筋活動の基礎を知り、筋電図学的分析の手法を説明できる。				
10	動作分析の実際③					筋電図を観察しながら動作分析を併用して行い、動作時の筋の働きを知る。				
11	動作分析の実際④					筋電図を観察しながら動作分析を併用して行い、動作時の筋の働きを知る。				
12	動作分析演習①					グループで動作分析をすることにより、動作の特徴を理解し、力学的、運動学的、筋電図学的に分析することができる。				
13	動作分析演習②					グループで動作分析をした結果を解釈し、まとめて発表することで理解を深めることができる。				
14	障害者スポーツ①全国障害者スポーツ大会の概要					障害者スポーツへの関わりとして、全国障害者スポーツ大会の概要を知り、説明することができる。				
15	障害者スポーツ②公認パラスポーツ指導者制度と地域における活動について					公認パラスポーツ指導者制度について理解し、地域における活動を推進していくための考えをもつことができる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	適宜紹介									
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	・演習課題40% ・筆記試験(60%)					履修上の注意	・本科目の開講日は不規則となるため、予定を確認して参加すること。 ・必要な教科書、資料等は適宜お知らせするので、確認すること。			
						実務経験紹介	理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。(楫野)			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法セミナーⅡ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	理学療法学科教官						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 理学療法の基礎となる知識・技術の習得と理学療法士に求められる一般知識・社会的知識(社会人基礎力・一般常識など)の向上を目指す。					【到達目標】 ・理学療法の基礎となる知識・技術を習得する。 ・理学療法士として、患者様と接するうえで必要な接遇やマナーを理解する。 ・2年次前期までに習得した技能(トランスファー、検査測定など)を模倣実施する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 接遇・マナーについて					患者様と接するうえで必要なマナーを列挙できる ポイントを押さえた接遇を実施できる				
2	解剖実習見学に向けて①					解剖実習を見学するための倫理的配慮と禁忌事項について説明できる				
3	解剖実習見学に向けて②					上肢の筋について位置、起始、停止、走行を確認できる				
4	解剖実習見学に向けて③					下肢の筋について位置、起始、停止、走行を確認できる				
5	解剖実習見学に向けて④					腕神経叢、腰神経叢から分枝する、上下肢の主要な神経を確認する				
6	解剖実習見学①					献体にて上肢の筋、神経を実際に確認する				
7	解剖実習見学②					献体にて下肢の筋、神経を実際に確認する				
8	問診(医療面接)・診療記録の書き方					医療面接のポイントとSOAP法について説明できる				
9	起居・移乗動作・車椅子操作の復習①(演習)					患者様を想定した起居・移乗動作を実施できる				
10	起居・移乗動作・車椅子操作の復習②(演習)					患者様を想定した車いす操作を実施できる				
11	検査測定の復習:形態計測(演習)					形態計測を実施できる				
12	検査測定の復習:関節可動域測定(演習)					関節可動域測定を実施できる				
13	検査測定の復習:MMT(演習)					MMTを実施できる				
14	検査測定の復習:反射・知覚検査(演習)					反射・知覚検査を実施できる				
15	検査測定の復習:その他(演習)					想定する患者様に必要な検査を実施できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	理学療法評価学 第6版補訂版					松澤 正		金原出版		
	プロメテウス 解剖学アトラス 第4版					坂井 健雄・松村 譲児 監修		医学書院		
	PTOTのための臨床技能とOSCE 第2版					斉藤 栄一		金原出版		
成績評価 方法	1.筆記試験(60%) 2.解剖実習見学課題(20%) 3.実技試験(20%)					履修上の 注意	・授業内容は実技演習も多く実施するので積極的に取り組むこと。 ・解剖実習見学にあたり、医療系学生として真摯な態度で臨むこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関で実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法評価学Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	吉富 智江／尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 神経系分野の疾患や症状の理解には神経解剖生理の知識が必要となる。基礎知識を確認しながら、神経系疾患に用いる各種検査方法とその検査の持つ意味を理解する。					【到達目標】 脳と神経の基礎知識を理解したうえで、神経系障害理学療法分野での神経系評価の重要性を理解し、その検査方法を習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	中枢神経と末梢神経					中枢神経と末梢神経の違いを説明できる				
2	脳の機能解剖と障害、意識の評価					脳の機能解剖と障害の関係性を理解する。意識障害の評価を説明できる。				
3	大脳の機能解剖と障害、脳画像評価の基礎知識					脳画像評価に必要な脳の機能解剖を理解する				
4	錐体路の機能解剖と障害、中枢性麻痺の回復過程					錐体路の機能解剖と障害の関係性を理解する。末梢性麻痺と中枢性麻痺の回復過程を説明できる				
5	脳神経の機能解剖と障害					脳神経の機能解剖と障害の関係性を理解する				
6	錐体外路、小脳の機能解剖と障害					錐体外路、小脳の機能解剖と障害の関係性を理解する				
7	感覚伝導路と障害					感覚伝導路と障害の関係性を理解する				
8	脳神経検査①(講義・演習)					脳神経の機能を理解した上で、脳神経検査が実施できる				
9	脳神経検査②(講義・演習)					脳神経の機能を理解した上で、脳神経検査が実施できる				
10	神経系検査①(腱反射)(演習)					腱反射検査の意義を理解した上で、腱反射検査が実施できる				
11	神経系検査②(筋緊張検査、病的反射検査)(演習)					筋緊張、病的反射検査の意義を理解した上で、検査が実施できる				
12	神経系検査③(感覚検査)(演習)					感覚検査の意義を理解した上で、感覚検査が実施できる				
13	神経系検査④(片麻痺機能検査)(演習)					片麻痺機能検査の意義を理解した上で、検査が実施できる				
14	神経系検査⑤(協調性検査)(演習)					協調性検査の意義を理解した上で、検査が実施できる				
15	神経系検査⑥(バランス検査、疼痛検査)(演習)					バランス検査、疼痛検査の意義を理解した上で、検査が実施できる				
教科書	書籍名					著者				
	病気がみえる⑦ 脳・神経					MEDIC MEDIA				
	理学療法評価学					松澤 正 金原出版				
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた					田崎 義昭 他 南山堂				
成績評価方法	1. 筆記試験(50%) 2. 実技試験(50%)					履修上の 注意	授業は実技を含むため、身だしなみ(頭髮・爪・アクセサリー等)に注意すること。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法評価学Ⅲ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 呼吸器を中心とした内部障害や小児の発達領域に関する理学療法において、病態や疾患に即した評価を行うことが重要になります。 本科目では、呼吸機能に関する解剖生理学テキ知識を深めるとともに、呼吸機能や呼吸器疾患に対する評価の意義、測定方法などを学習します。 また、小児に対する発達段階の理解を深めるとともに、乳幼児の発達検査の意義、検査方法などを学習します。					【到達目標】 ・呼吸機能に関して解剖生理学的知識を整理し説明できる。 ・呼吸機能に関する検査測定の意義、方法を説明できる。 ・呼吸器疾患の病態を理解し、評価方法を説明できる。 ・生まれてからの精神運動発達の道筋を説明できる。 ・乳幼児の発達評価の検査が実施できる。 ・発達検査の結果から運動発達の異常(遅滞)の原因を早期することができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 呼吸障害と小児領域の評価のすめ方					本科目の目的、流れを理解できる。呼吸障害と小児領域の評価について概観を知ることができる。				
2	呼吸障害と呼吸リハビリテーションについて: 息切れとは					呼吸障害の概観を知り、呼吸リハビリテーションとしての評価・治療の役割を理解することができる。				
3	呼吸障害について①COPD					呼吸障害について、COPDの病態を知り、評価する目的と内容を理解することができる。				
4	呼吸障害について②間質性肺炎・周術期					呼吸障害について、間質性肺炎や周術期管理の病態を知り、評価する目的と内容を理解することができる。				
5	呼吸機能評価①呼吸数・呼吸リズム・胸郭拡張					呼吸機能評価の意義を知り、呼吸数、呼吸リズム、胸郭拡張などの評価方法に関して理解し実施することができる。				
6	呼吸機能評価②フィジカルアセスメント(視診・触診)					呼吸機能評価におけるフィジカルアセスメントとして、視診、触診の方法を理解し実施することができる。				
7	呼吸機能評価③フィジカルアセスメント(聴診)					呼吸機能評価におけるフィジカルアセスメントとして、聴診の方法を理解し実施することができる。				
8	呼吸機能評価④運動機能・ADL					呼吸機能評価における運動機能やADLの評価に関して、目的や役割を理解し実施することができる。				
9	呼吸器疾患に対する呼吸機能評価					呼吸器疾患に応じた評価の目的、役割を知り、該当する評価を実施することができる。				
10	小児における姿勢反射検査					姿勢反射検査について評価の目的、意義を理解し、実施することができる。				
11	遠城寺式分析的発達検査					遠城寺式分析的発達検査に関して、評価の目的、意義を理解し、実施することができる。				
12	運動発達①					乳幼児期における運動発達段階に関して学習し、理解することができる。				
13	運動発達②					乳幼児期における運動発達段階に関して学習し、理解することができる。				
14	姿勢・動作の観察					乳幼児期における姿勢や動作を観察するための知識を学習し、観察・理解が可能となる。				
15	子どもの評価 運動発達評価					運動発達検査について学習し、理解するとともに発達検査を実施することができる。				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	理学療法評価学					松澤正		金原出版		
	最新理学療法講座 内部障害理学療法学					高橋哲也 他		医歯薬出版		
	小児理学療法学テキスト 改定第3版					田原弘幸 他		南江堂		
成績評価 方法	適宜紹介									
成績評価 方法	・課題レポート(20%) ・定期試験(80%):呼吸領域40%・小児領域40% 定期試験は呼吸領域と小児領域に分けて行います。					履修上の 注意	・演習も多く含みますので、事前に指定された服装で参加することを心がけること。 ・講義内容によって使用する教科書が異なるため、事前に確認をしておくこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療学Ⅰ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	2年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	前田 有輝 / 楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 物理学、基礎理学療法学Ⅰで学んだ基礎知識を活かし、物理特性を応用した物理療法の原理を理解しその適応を学ぶ。 体育理論、運動学で学んだ基礎知識を活かし、身体運動を科学的に捉え、運動を基礎として機能回復に応用する運動治療学について学ぶ。 機能回復を図るために必要な運動療法の理論を理解し、基本技術を習得する。					【到達目標】 ・各種物理療法について機器の原理・適応・禁忌・方法を説明できる ・理学療法に必要な基礎知識(解剖、生理など)を復習する ・運動の仕組みについて、力学を中心に理解する ・運動療法の基本手技が実施できるようになる					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	物理療法:総論		物理療法の基礎、リスクマネジメントを理解し説明できる		16	運動療法:関節可動域制限①		関節可動域制限を理解し、運動の種類を説明できる		
2	物理療法:温熱療法		温熱療法の適応・禁忌・方法について理解する		17	運動療法:関節可動域制限②		関節可動域制限の種類を説明できる		
3	物理療法:電気刺激療法		電気刺激療法の適応・禁忌・方法について理解する		18	運動療法:関節可動域制限③		各種関節可動域運動を模倣できる		
4	物理療法:水治療法		水治療法の適応・禁忌・方法について理解する		19	運動療法:筋力低下①		筋力低下を理解し、筋力増強運動の方法を説明できる		
5	物理療法:寒冷療法		寒冷療法の適応・禁忌・方法について理解する		20	運動療法:筋力低下②		筋持久力運動の種類を理解する		
6	物理療法:衝撃波療法		衝撃波療法の適応・禁忌・方法について理解する		21	運動療法:筋力低下③		筋力増強運動の方法を考察することができる		
7	物理療法:光線療法		光線療法の適応・禁忌・方法について理解する		22	運動療法:基本的動作能力の低下 寝返り①		寝返り動作の特徴について説明できる		
8	物理療法:バイオフィードバック療法		BF療法の適応・禁忌・方法について理解する		23	運動療法:基本的動作能力の低下 寝返り②		寝返り動作練習を模倣できる		
9	物理療法:牽引療法		牽引療法の適応・禁忌・方法について理解する		24	運動療法:基本的動作能力の低下 起き上がり①		起き上がり動作の特徴について説明できる		
10	物理療法:間欠的圧迫療法		間欠的圧迫療法の適応・禁忌・方法について理解する		25	運動療法:基本的動作能力の低下 起き上がり②		起き上がり動作練習を模倣できる		
11	物理療法:振動療法		振動療法の適応・禁忌・方法について理解する		26	運動療法:基本的動作能力の低下 立ち上がり		立ち上がり動作の特徴について説明でき、動作を模倣できる		
12	物理療法:水治運動療法		水治運動療法の実施方法について理解し説明できる		27	運動療法:基本的動作能力の低下 歩行		歩行動作の特徴について説明でき、動作練習を模倣できる		
13	物理療法:まとめ		各物理療法の適応・禁忌・方法について理解する		28	運動療法:バランス能力の低下①		バランス能力の低下を理解し、運動の方法を説明できる		
14	運動療法:総論		運動療法とは何かを説明できる		29	運動療法:バランス能力の低下②		各種バランス運動を模倣できる		
15	運動療法:運動学の基礎知識		生物の構造や運動を力学の観点から説明ができる		30	運動療法:まとめ		各種運動療法の種類、方法を理解し、模倣できる		
教科書 参考 図書等	書籍名				著者			出版社		
	物理療法学 第5版				編 網本 和 / 菅原 憲一			医学書院		
	運動療法学 総論 第5版				編 福井勉			医学書院		
	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 実習への取り組み(20%) 2. 筆記試験(80%) ※筆記試験が60点に満たない場合、再試験とする				履修上の 注意	・1年次に学んだ解剖生理学、体育理論や物理学、評価学、日常生活活動学などを基盤とした学習になるので、予習や復習を大事にしてください。 ・実技などは必ず実習着で参加してください。				
					実務経験 紹介	医療機関で理学療法士として勤務。一般社団法人 日本物理療法学会認定基礎セミナー修了(前田)				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療学Ⅱ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	2年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	前田 有輝／楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 本講義では、理学療法の2つの軸である、物理療法と運動療法について学習する。理学療法治療学Ⅰで学んだ基礎知識の理解をもとに、具体的な方法や各種疾患や状態に対する適応する治療方法について学習する。 物理療法では機器の操作を習得するとともに、物理刺激により生じる生体反応を計測し、確認・検証を行う。運動器障害理学療法学では運動器障害に対する治療方針や評価、治療について知識を持ち、考えとともに、実施・体験を通して学習する。					【到達目標】 ・各物理療法の効果、リスク等を理解し、安全かつ円滑に実施できる。 ・各物理療法の疾患や病態への適応が説明できる。 ・運動器疾患の病態、治療方針を理解し、説明できる。 ・運動器疾患に対する評価項目を挙げ、学生同士で評価することができる。 ・運動器疾患に対する運動療法プログラムの立案ができる。 ・水治運動療法の特徴を理解し、実施することができる。					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	オリエンテーション		科目の内容・日程・到達目標等を理解する。		16	運動器障害理学療法学総論		運動器障害の理学療法について概要を理解する。		
2	水治運動療法・水治療法概論		水治療法の理論を復習し、演習内容を理解する。		17	変形性膝関節症に対する理学療法		変形性膝関節症の一般的な理学療法を理解する。		
3	水治療法演習①		水治療法(渦流浴・気泡浴)の機器操作を理解する。		18	変形性膝関節症に対する理学療法		変形性膝関節症の一般的な理学療法を理解する。		
4	水治療法演習②		水治療法の実施による生理学的作用を理解する。		19	変形性股関節症に対する理学療法		変形性股関節症の一般的な理学療法を理解する。		
5	水治運動療法演習①		水治運動療法の身体活動前後の生理学的変化を理解する。		20	変形性股関節症に対する理学療法		変形性股関節症の一般的な理学療法を理解する。		
6	水治運動療法演習②				21	肩関節周囲炎に対する理学療法		肩関節周囲炎の一般的な理学療法を理解する。		
7	水治・水治運動療法演習①(グループワーク)		水治・水治運動療法の演習を通じて得たデータからグループで課題を考え、生体変化についてまとめ、発表することで理解を深める。		22	肩関節周囲炎に対する理学療法		肩関節周囲炎の一般的な理学療法を理解する。		
8	水治・水治運動療法演習②(グループワーク)				23	運動器障害に対する理学療法演習①		各障害における理学療法の実技を習得する。		
9	水治・水治運動療法演習③(発表)				24	高齢者の骨折に対する理学療法		高齢者の骨折後の理学療法を理解する。		
10	温熱療法演習①		温熱療法(極超短波・超音波)の機器操作を理解する。		25	高齢者の骨折に対する理学療法演習		高齢者の骨折後の理学療法の実技を習得する。		
11	温熱療法演習②		温熱療法の実施による生理学的作用を理解する。		26	THA後に対する理学療法		THA後の理学療法を理解する。		
12	電気刺激療法演習①		電気刺激療法の機器操作を理解する。		27	THA後に対する理学療法演習		THA後の理学療法の実技を習得する。		
13	電気刺激療法演習②		電気刺激療法の実施による生理学的作用を理解する。		28	TKA後に対する理学療法		TKA後の理学療法を理解する。		
14	牽引療法①		牽引療法の機器操作を理解する。		29	TKA後に対する理学療法演習		TKA後の理学療法の実技を習得する。		
15	牽引療法②		牽引療法の実施による生理学的作用を理解する。		30	運動器障害に対する理学療法演習②		術後理学療法の実技を習得する。		
教科書 参考 図書等	書籍名				著者				出版社	
	物理療法学 第5版				編 網本 和 / 菅原 憲一				医学書院	
	運動療法学 各論 第5版				編 横田 一彦 / 岩田 健太郎				医学書院	
	骨関節理学療法学 第2版				編 福井 勉 / 小柳 磨毅				医学書院	
成績評価 方法	【参考図書】適宜紹介									
	・演習課題・レポート(40%) 物理療法に関して、演習課題・レポートにて評価 ・筆記試験(60%) 運動療法に関して、期末試験にて評価 ※筆記試験が60点に満たない場合、再試験とする				履修上の 注意		・実技を行う講義は実習着で参加すること ・水治運動療法は学外プール実習を行うため、水着・水泳帽・ゴーグル・タオルを用意しておくこと ・各回の内容を教科書で予習し、講義後復習を行うこと			
					実務経験 紹介		理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。(楫野)			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療学Ⅲ						
単位数	2	時間数	60	学年/学科	2年	理学	学期	後期	授業形態	演習	
担当	尾畑 敏江／吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無	
【授業の概要】 脳卒中と神経難病の病態から評価・治療までを学習する。 ①脳卒中の病態と障害像を理解したうえで、脳卒中片麻痺に対するリスク管理・予後予測・評価・治療（ADL練習、装具療法含む）について学習を深める。 ②神経難病疾患に対する理学療法を学ぶ。進行性の疾患であり、筋力低下、筋緊張異常、運動失調、不随意運動など様々な運動機能障害を呈する。残存機能や代償動作を考えながら、理学療法評価や運動療法を進めていく。					【到達目標】 各疾患の病態、障害像を踏まえながら、リスク管理、評価、治療プログラムを理解する。						
回数	授業内容			学習目標		回数	授業内容			学習目標	
1	脳卒中総論			脳卒中を理解する		16	神経難病疾患の概念と分類			神経難病疾患の概要を理解する	
2	脳卒中の病態と治療①（脳梗塞）			脳梗塞の病態、治療を理解する		17	パーキンソン病①（病態・障害像）			パーキンソン病の病態、障害像を理解する	
3	脳卒中の病態と治療②（脳出血）			脳出血の病態、治療を理解する		18	パーキンソン病②（病態と治療）			パーキンソン病の病態、治療を理解する	
4	脳卒中の病態と治療③（クモ膜下出血）、脳画像			クモ膜下出血の病態、治療を理解する		19	パーキンソン病③（理学療法評価・運動療法）			パーキンソン病の評価意義を理解し、評価が実施できる（演習）	
5	リスク管理、リハビリテーション実施基準			脳卒中急性期の血圧管理を説明する、実施基準を理解する		20	パーキンソン病④（理学療法評価・運動療法）			パーキンソン病の治療目的を理解し、実施できる（演習）	
6	情報収集、予後予測			脳卒中理学療法に必要な情報収集、予後予測を理解する		21	パーキンソン病⑤（理学療法評価・運動療法）			パーキンソン病の治療目的を理解し、実施できる（演習）	
7	脳卒中の評価①（運動麻痺、筋緊張、腱反射）			神経系検査の目的を理解し、評価実技が実施できる（演習）		22	脊髄小脳変性症①（分類と病態）			脊髄小脳変性症の分類と病態を理解する	
8	脳卒中の評価②（感覚、筋力、バランス）			神経系検査の目的を理解し、評価実技が実施できる（演習）		23	脊髄小脳変性症②（理学療法評価）			脊髄小脳変性症の評価目的を理解した上、実施できる（演習）	
9	脳卒中の評価③（包括的評価）			神経系検査の意義を理解し、評価実技が実施できる（演習）		24	脊髄小脳変性症③（運動療法）			パーキンソン病の治療目的を理解し、実施できる（演習）	
10	脳卒中の治療①（ポジショニング、関節可動域）			急性期の目的を理解し、治療を実施できる（演習）		25	筋萎縮性側索硬化症①（病態・評価）			筋萎縮性側索硬化症の病態を理解し、評価が実施できる（演習）	
11	脳卒中の治療②（関節可動域運動、伸張運動）			急性期の目的を理解し、治療を実施できる（演習）		26	筋萎縮性側索硬化症②（治療・補装具）			筋萎縮性側索硬化症の治療目的を理解し、実施できる（演習）	
12	脳卒中の治療③（全身調整運動、神経筋再教育）			急性期の目的を理解し、治療を実施できる（演習）		27	多発性硬化症（病態・評価・治療）			多発性硬化症の病態を理解し、評価、治療を理解する	
13	脳卒中の動作練習①（起居動作、横移動）			回復期の目的を理解し、動作練習を実施できる（演習）		28	ギランバレー症候群（病態・評価・治療）			ギランバレー症候群の病態、評価、治療を理解する	
14	脳卒中の動作練習②（起立、移乗、歩行）			回復期の目的を理解し、動作練習を実施できる（演習）		29	末梢神経障害・神経筋接合部障害			末梢神経障害、神経筋接合部障害の病態を理解する。	
15	脳卒中の動作練習③（ADL動作、装具）			回復・生活期の目的を理解し、動作練習を実施できる（演習）		30	まとめ			神経難病の理学療法について理解する	
教科書 参考 図書等	書籍名					著者			出版社		
	病気が見える⑦ 脳と神経 第2版								MEDIC MEDIA		
	ここがポイント！ 脳卒中の理学療法					河村 廣幸			金原出版		
	ビジュアルレクチャー 神経理学療法学					潮見 泰蔵 編著			医歯薬出版		
成績評価 方法	※脳卒中と神経難病の合算にて最終評価										
	【脳卒中】 1. 筆記試験（90%） 2. 課題（10%）					履修上の 注意					
	【神経難病】 1. 筆記試験（80%） 2. 課題（20%）					実務経験 紹介					
						医療機関での実務経験あり（尾畑、吉富）					

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	義肢装具学総論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学・作業	学期	後期	授業形態	講義
担当	大坪 誠／尾畑 敏江／徳若 雅之／吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーション医学における義肢装具（療法）は、機能代償を目的で処方されることもあるが、治療の過程で用いられる頻度も高い。本講では、義肢装具の位置づけ・役割及び基本的事項を解説する。また、義肢装具士の社会的役割についても述べる。					【到達目標】 義肢装具の構成、義肢装具の基本的な用語を理解する。医学的リハビリテーションにおける義肢装具の役割を理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	「義肢装具士」という専門職について					義肢装具士の役割を理解する				
2	装具学総論					装具の機能、分類、名称、基本構造を理解する				
3	装具療法総論①					医学的リハビリテーションにおける装具療法を理解する				
4	装具療法総論②					医学的リハビリテーションにおける装具療法を理解する				
5	体幹装具①					体幹装具の目的、基本構成を理解する				
6	体幹装具②					体幹装具の種類と機能を理解する				
7	上肢装具①					上肢装具の条件、分類、手の機能を理解する				
8	上肢装具②					上肢疾患と装具の適応について理解する				
9	下肢装具①					下肢装具、靴型装具の目的、名称、基本構成を理解する				
10	下肢装具②					代表的な下肢装具、靴型装具、適合チェックを理解する				
11	補装具の給付と法律					補装具の概念、補装具の給付システムを理解する				
12	採型実習①：上肢の型取り（演習）					上肢装具の採型ができる				
13	採型実習②：下肢の型取り（演習）					下肢装具の採型ができる				
14	採型実習③：下肢の型取り・まとめ（演習）					下肢装具の採型ができる				
15	装具学まとめ					装具について説明できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	義肢装具チェックポイント 第9版					日本整形外科学会		医学書院		
成績評価 方法	筆記試験（100％）					履修上の 注意	義肢装具処方の対象となる疾患・障害、機能障害と能力低下の関連性への理解が大前提となる。物理学、運動学の基礎的用語（モーメント・力点・作用点）を想起しながら講義を聞くこと。			
						実務経験 紹介	義肢装具士（大坪）として医療現場で20年以上の実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	生活環境論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	2年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	吉富 智江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 理学療法士としての知識を基盤として「生活するひと」の周辺を取り巻く生活環境に存在する問題について考える。建築や福祉用具の基本的な知識を習得し、理学療法士として環境に対しどのような支援が可能かを考えていく。					【到達目標】 ・日本の生活環境の特徴と問題点について列挙できる ・生活環境の改善に必要な基礎知識(住環境整備、福祉用具、社会福祉制度)を説明できる ・環境評価のポイントについて説明できる					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション 住環境整備の重要性				住環境整備の重要性について説明できる					
2	福祉住環境整備の手法① 外出				日本家屋の特徴と家屋に出入りするために必要な環境整備について説明できる					
3	福祉住環境整備の手法② 屋内移動				屋内移動に関する住環境整備(手すり、廊下、階段、段差解消)について説明できる					
4	福祉用具の活用① 車いす				車いすの名称と特徴について説明できる					
5	福祉用具の活用② 歩行補助具				歩行補助具の名称と特徴について説明できる					
6	排泄動作要素分析				排泄動作に必要な動作を要素ごとに分け、必要な身体能力を列挙することができる					
7	福祉住環境整備の手法③ 排泄				トイレに関する環境整備について説明できる					
8	福祉用具の活用③ 排泄				トイレに関する福祉用具について説明できる					
9	入浴動作要素分析				入浴動作に必要な動作を要素ごとに分け、必要な身体能力を列挙することができる					
10	福祉住環境整備の手法④ 入浴				浴室に関する環境整備について説明できる					
11	福祉用具の活用④ 入浴				浴室に関する福祉用具について説明できる					
12	校内環境調査				障害体験を通して校内環境のバリアについて調査、説明することができる					
13	街めぐり①オリエンテーション				外出、屋外移動における環境評価のポイントを列挙できる					
14	街めぐり②体験				近隣の街をめぐり、屋外環境のバリアについて評価、説明することができる					
15	まとめ				理学療法士として評価すべき生活環境について説明でき、基本的な解決方法を列挙できる					
教科書	書籍名				著者			出版社		
	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版				奈良 勲			医学書院		
参考図書等	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト第6版							東京商工会議所 編		
成績評価方法	1.演習課題(20%) 2.筆記試験(80%)				履修上の注意	・グループ演習を実施するため、他のメンバーと協力し主体的に取り組む。 ・町めぐりでは、当学院の学生としてふさわしい言動・態度で地域環境を調査する。				
					実務経験紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり。				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床基礎実習					
単位数	1	時間数	40	学年/学科	2年	理学	学期	後期	授業形態	実習
担当	理学療法学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有
【授業の概要】 病院・施設で働く理学療法士の業務を直接見聞することで、理学療法士の業務の実態を学び、患者様の状態・障害を専門職として捉える視点を養い、理学療法士に必要な知識や技術の重要性を再認識することを目的とする。また、それらを自ら継続して、積極的に高めていく意識を身に付ける。					【到達目標】 ・理学療法士として、患者様と接する上で必要な接遇やマナーを理解する ・2年次前期までに修得した技術(トランスファー・検査測定など)を模倣・実施できる					
回数	授業内容				学習目標					
【授業計画】 1. 医療現場と理学療法士の業務について(実習前) 2. 学外実習終了後、学んできたこと・これからの課題を発表・検討する 										

3 年 次

専 門 科 目

- | | |
|--------------|-------------|
| ◇ 臨床運動学 | ◇ 理学療法治療演習Ⅱ |
| ◇ 理学療法セミナーⅢ | ◇ 理学療法治療演習Ⅲ |
| ◇ 理学療法セミナーⅣ | ◇ 義肢装具学各論 |
| ◇ 理学療法評価学演習Ⅰ | ◇ 理学療法特論Ⅰ |
| ◇ 理学療法評価学演習Ⅱ | ◇ 地域理学療法学 |
| ◇ ケアマネジメント論 | ◇ 地域理学療法学演習 |
| ◇ 理学療法治療学Ⅳ | ◇ 地域理学療法学実習 |
| ◇ 理学療法治療演習Ⅰ | ◇ 臨床実習Ⅰ |

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床運動学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	山崎 貴博						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 ・理学療法評価を行ううえで欠かせない動作観察および動作分析の概要および基本的な手順や流れを学習します。 ・とくに基本動作である寝返り動作と起き上がり動作、立ち上がり動作、歩行動作の運動学的特徴および運動力学的特徴を学習します。 ・動画や模擬患者を利用して動作観察および動作分析を体験し、動作観察から機能障害の推測までの流れを学習します。					【到達目標】 ・動作観察および動作分析の基本的な流れを理解する。 ・健常者の基本動作の運動学的および運動学的特徴を理解する。 ・症例を通じて、動作観察から機能障害の推測までの流れを理解する。					
回数	授業内容					学習目標				
1	理学療法における動作観察および動作分析の流れ					動作観察と動作分析の流れを説明できる				
2	力学の基礎と力学的分析について					基礎的な力学を知る 力学的分析法を説明できる				
3	背臥位と座位の姿勢観察					背臥位と座位の姿勢観察のポイントを説明できる				
4	立位の姿勢観察1					立位の姿勢観察のポイントを説明できる				
5	立位の姿勢観察2					立位の姿勢評価方法を説明できる				
6	健常者の歩行動作の運動学的運動力学的特徴					健常者の歩行動作の運動学的特徴と運動力学的特徴を説明できる				
7	脳卒中後片麻痺者の運動学的運動力学的特徴					脳卒中後片麻痺者の歩行動作の運動学的特徴と運動力学的特徴を説明できる				
8	寝返り動作と起き上がり動作の運動学的運動力学的特徴					健常者の寝返り動作と起き上がり動作の運動学的特徴と運動力学的特徴を説明できる				
9	寝返り動作と起き上がり動作の動作観察					健常者の寝返り動作と起き上がり動作の動作観察の流れを説明できる				
10	立ち上がり動作の運動学的運動力学的特徴					健常者の立ち上がり動作の運動学的特徴と運動力学的特徴を説明できる				
11	立ち上がり動作の動作観察					健常者の立ち上がり動作の動作観察の流れを説明できる				
12	模擬患者による歩行動作の動作観察および動作分析の実際1					歩行動作の動作観察から動作分析までの流れを説明できる				
13	模擬患者による歩行動作の動作観察および動作分析の実際2					歩行動作の動作観察から動作分析までの流れを説明できる				
14	症例動画を用いた動作観察および動作分析の実際1					症例の動作観察から動作分析までの流れを説明できる				
15	まとめ					動作観察と動作分析について理解できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
参考図書等										
成績評価方法	1.レポート課題(40%) 2.試験(60%)					履修上の注意	グループ学習およびグループ課題において、各自が責任をもって役割を果たし、グループに貢献できるよう努めてください。			
						実務経験紹介	理学療法士として医療機関で6年間の実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法セミナーⅢ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	理学療法学科教官						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床実習に向け、これまで学んだ知識・技術の復習を行うとともに、医療職・理学療法士としてのマナーを普段から実践できる。					【到達目標】 ケーススタディを通して、理学療法の評価・治療の手順を理解する。 社会人・理学療法士としての接遇・マナーを普段から実践できる。					
回数	授業内容					学習目標				
【授業計画】 1. 理学療法基礎知識・技術 国家試験に準じたレベルの演習問題を使用した基礎知識の確認 2. 臨床実習に向けて ケーススタディを通して ・基礎知識の確認 ・病態の理解 ・理学療法の手順(検査・測定、評価、治療)の復習										
教科書	書籍名					著者		出版社		
	理学療法評価学 第6版補訂版					松澤正/江口勝彦		金原出版		
	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版					監修 才藤栄一		金原出版		
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 筆記試験(40%) 2. 実技試験(40%) 3. 課題(20%)					履修上の 注意	接遇・マナーは一度には身に付きません。普段から「報告・連絡・相談」を心掛けること。提出物の遅れは認めません。			
						実務経験 紹介	医療機関にて実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法セミナーⅣ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	後期	授業形態	演習
担当	理学療法学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床実習に向け、理学療法に必要な知識・技術の総まとめを行う。 臨床実習Ⅰ終了後、基本的な知識や考え方について確認する。					【到達目標】 ・基本的な理学療法が理解できる。 ・各疾患について評価の内容と実技を習得する。					
回数	授業内容					学習目標				
【授業計画】 1. 臨床実習Ⅰに向けて 1)医療職、実習生に求められるもの：接遇、マナー（外部講師：温品）4コマ 2)理学療法士に求められるもの：職業倫理 3)その他 ①10月初旬に医歯薬出版の全国統一模擬試験を受験する ②実習前に臨床現場を想定した実技試験を実施する 2. ケーススタディ 提示症例に対する評価（検査・測定に対するアセスメント、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラムの立案）を行う 3. 記録について SOAPによる記載方法を理解する 4. 臨床実習Ⅰを終えて 経験した症例のまとめを行うとともに、理解を深める										
教科書 参考 図書等	書籍名				著者			出版社		
	臨床実習の手引き 第27期生版				山口コ・メディカル学院 理学療法学科					
成績評価 方法	1. 症例筆記試験(50%) 2. 模擬試験(50%)				履修上の 注意	実習前と実習終了後の開講となります。 また1).3)の実施結果を当該単位の認定資料とするとともに、一定基準を満たさない場合、臨床実習Ⅰの履修が行えない場合があります。				
					実務経験 紹介	医療機関にて実務経験あり				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法評価学演習 I					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	尾畑敏江／吉富智江／前田有輝						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 この授業では、運動器・神経系障害(脳卒中、神経難病)についての障害像をイメージしながら評価までの一連の流れをケーススタディや実技を交えながら学習する。					【到達目標】 各疾患の病態、障害像を踏まえながら、情報収集、リスク管理、評価までを習得する。 対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力(理学療法実践力)を培う。					
回数	授業内容					学習目標				
1	脳画像評価と障害予測					脳の機能解剖、脳画像、障害との関連性を理解する				
2	高次脳機能障害					高次脳機能障害、特に理学療法に影響を与える失行・失認を説明できる				
3	高次脳機能障害の評価と治療					高次脳機能障害の評価と理学療法治療目的を理解し、実技を実施できる(演習)				
4	脳卒中の評価と治療					脳卒中の評価と治療目的を理解し、実技を実施できる(演習)				
5	脳卒中のケーススタディ					脳卒中症例を通して、必要な評価、治療目的を理解し、実技を実施できる(演習)				
6	パーキンソン病のケーススタディ①					パーキンソン病症例を通して、病態、障害像を理解する				
7	パーキンソン病のケーススタディ②					パーキンソン病症例を通して、障害に応じた検査測定を列挙できる				
8	パーキンソン病のケーススタディ③					パーキンソン病症例を通して、評価に基づいた治療を立案できる				
9	脊髄小脳変性症のケーススタディ①					脊髄小脳変性症症例を通して、障害に応じた検査測定を列挙できる				
10	脊髄小脳変性症のケーススタディ②					脊髄小脳変性症症例を通して、評価に基づいた治療プログラムを立案できる				
11	運動器障害の理学療法の実際①					症例提示より、必要な検査項目を列挙できる				
12	運動器障害の理学療法の実際②					検査測定結果より、重要課題の抽出とその理由が述べられる				
13	運動器障害の理学療法の実際③					課題解決のための資料・文献を収集することができる				
14	運動器障害の理学療法の実際④					収集した文献から治療プログラムを立案できる				
15	運動器障害の理学療法の実際⑤					提示症例の自立生活を支援するプレゼンテーションが行える				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版							MEDIC MEDIA		
	ここがポイント! 脳卒中の理学療法					河村 廣幸		金原出版		
	ビジュアルレクチャー 神経理学療法学					編著 潮見 泰藏		医歯薬出版		
	リハビリテーションビジュアルブック 第2版					監修 落合 慈之		学研		
	運動器障害理学療法学テキスト 改定第3版					細田 多穂 他		南江堂		
成績評価 方法	ここがポイント! 整形外科疾患の理学療法					監修 富士 武史		金原出版		
	1. 演習課題(20%) 2. 筆記試験(80%) 神経難病・脳卒中・運動器系障害を合算して評価する					履修上の 注意		・教科書などの忘れ物がないように注意し、課題などは提出期限を厳守すること ・実技については、医療従事者としてふさわしい身なり・態度で臨むこと		
						実務経験 紹介		理学療法士として医療機関での勤務経験あり		

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法評価学演習Ⅱ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	後期	授業形態	演習
担当	吉村 静馬／楯野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 小児領域及び内部疾患の呼吸領域の評価から治療までをペーパーペイシェントを通して学びます。特に基本的な臨床像を呈するケースを対象として学習していきます。機能評価に際しては、CTやMRI、DVD等を用いて症状の確認を行い、学習していきます。また、ケースに応じて実技も交えながら、実際に想定して対応できるよう学習していきます。					【到達目標】 ・小児領域の病態、疾患を有する方に対して、基本的理学療法を理解し、説明できる。 ・小児領域の理学療法に関して、症例検討をふまえてロールプレイができる。 ・呼吸領域の病態、疾患を有する方に対して、基本的理学療法を理解し、説明できる。 ・呼吸領域の理学療法に関して、症例検討をふまえてロールプレイができる。					
回数	授業内容					学習目標				
1	小児整形外科疾患のケーススタディ 二分脊椎児					二分脊椎児の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
2	脳性麻痺児のケーススタディ① 痙直型片麻痺					痙直型片麻痺の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
3	脳性麻痺児のケーススタディ② 痙直型両麻痺					痙直型両麻痺の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
4	脳性麻痺児のケーススタディ③ アテトーゼ型					脳性麻痺アテトーゼ型の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
5	脳性麻痺児の生活指導					脳性麻痺児の生活指導に関して、ケーススタディを通して内容を検討することができる。				
6	まとめ(課題発表)					小児領域のケーススタディに関して、まとめを作成し発表することで理解を深める。				
7										
8										
9	呼吸器疾患のケーススタディ COPD①					COPDの症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
10	呼吸器疾患のケーススタディ COPD②					COPDの症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
11	呼吸器疾患のケーススタディ COPD③					COPDの症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療について発表し、理解を深めることができる。				
12	呼吸器疾患のケーススタディ 急性呼吸不全①					急性呼吸不全の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
13	呼吸器疾患のケーススタディ 急性呼吸不全②					急性呼吸不全の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療について発表し、理解を深めることができる。				
14	呼吸器疾患のケーススタディ 胸部外科術後①					胸部外科術後の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療を検討することができる。				
15	呼吸器疾患のケーススタディ 胸部外科術後②					胸部外科術後の症例に対するケーススタディを通して、理学療法の評価、治療について発表し、理解を深めることができる。				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	理学療法評価学					松澤正		金原出版		
	小児理学療法テキスト 改定第3版					田原弘幸 他		南江堂		
	最新理学療法講座 内部障害理学療法					高橋哲也 他		医歯薬出版		
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	・演習課題(40%) ・筆記試験(60%) 筆記試験は小児領域と呼吸領域で分けて行います。					履修上の注意	・各領域によって、内容が異なるため、事前にスケジュールを確認し、用意するもの、服装などを把握して参加すること。			
						実務経験紹介	理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。(楯野)			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	ケアマネジメント論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 障害者や高齢者を取り巻く社会的背景を理解する。 対象者に必要なケアについて考えるとともに、ニーズと医療・福祉などのサービスをつなぐことができる理学療法士を目指す。					【到達目標】 ・適切なケアマネジメントを行うために、多職種との 共通言語であるICF(国際生活機能分類)を理解する。 ・リハビリテーション総合実施計画書が作成できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	オリエンテーション ケアマネジメントの基礎知識、社会保障制度				ケアマネジメントを行うための基礎知識と社会保障制度について説明できる					
2	ICF(国際生活機能分類)とICIDH(国際障害分類)				ICFとICIDHの構造と考え方、違いについて説明できる					
3	ICFと理学療法				ICFに基づく理学療法の考え方について説明できる					
4	目標設定(主目標・副目標)とプログラム				ICFから目標を導き出し、それに基づいてプログラムを立案する過程を説明できる					
5	諸サービスの理解				諸サービスの概要を説明できる					
6	模擬症例演習① 情報収集				模擬症例の情報収集を実施できる					
7	模擬症例演習② ICF作成				模擬症例の情報をICFに分類できる					
8	模擬症例演習③ ICF作成				模擬症例の情報をICFに分類できる					
9	模擬症例演習④ 発表・検討				自分の考えを発表し、他者の意見に基づいて再検討できる					
10	模擬症例演習⑤ まとめ				模擬症例のICFから目標を設定することができる					
11	リハビリテーション総合実施計画書について				リハビリテーション総合実施計画書について説明できる					
12	経験症例演習① ICF作成				臨床実習Ⅰで経験した症例について、ICFを作成できる					
13	経験症例演習② 総合実施計画書作成				臨床実習Ⅰで経験した症例について、リハビリテーション総合実施計画書を作成できる					
14	経験症例演習③ 発表・検討				自身が経験した症例のICF、リハビリテーション総合実施計画書について発表し、他者の意見に基づいて再検討できる。					
15	まとめ				ICFに基づいて理学療法を実施するプロセスについて説明できる					
教科書 参考図書等	書籍名				著者		出版社			
	適宜紹介									
成績評価方法	1.演習課題・発表(40%) 2.筆記試験(60%)				履修上の注意		・グループワーク中心に進めていく。これまでに学習した疾患についてはもちろん、地域リハビリテーション学、地域理学療法学についても理解を深めておくこと。 ・授業は、臨床実習Ⅰ前と終了後に分けて行う。			
					実務経験紹介		理学療法士として医療機関での実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療学Ⅳ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	前原 達也／溝口 桂／吉村 静馬						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 「運動」を主な治療手段とする理学療法士は内部障害のある患者さんに対して運動という「ストレス」をかけることになる。心身を全体から把握することの重要性や目に見えない身体内部の機能を正確に把握することが求められる。 本科目では、循環器分野、代謝分野に関して、情報収集や病態のアセスメントを行えるよう講義やグループワークを取り入れ、双方向性の講義を行う。 小児領域に関しても、様々な病態に即した理学療法が実施できるよう、理解を深める講義となることを目的と						【到達目標】 ・循環器理学療法、心臓リハビリテーションの理解ができる。 ・内科、外科それぞれの疾患特性や治療特性を踏まえた理学療法を理解し、説明できる。 ・循環器障害に対する理学療法手段について理解ができる。 ・循環器障害に対する理学療法を行う際のリスクを把握し、管理することの重要性を理解し、説明できる。 ・代謝障害に対する理学療法をリスクを含めて理解し、説明することができる。				
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	心臓リハビリテーションの概要		心臓リハビリテーションの歴史、概要、役割について理解する		16	オリエンテーション 正常運動発達		正常運動発達について復習するとともに、理解することができる。		
2	虚血性心疾患の理学療法		虚血性心疾患の病態や検査、治療方法について理解する。		17	発達障害総論 神経系、筋骨格系の発達とその障害		発達障害に関して発達段階と障害の理解を深める。		
3	弁膜症の理学療法		弁膜症の病態や検査、治療方法について理解する。		18	発達障害各論 運動障害とその理学療法		発達障害の運動について理解することができる。		
4	心不全の理学療法		心不全の病態、ステージ、検査方法、治療方法について理解		19	整形外科疾患 ペルテス病、二分脊椎		小児の整形外科疾患に関して理解することができる。		
5	大動脈疾患、末梢動脈疾患の理学療法		大動脈疾患や末梢動脈疾患の病態、検査、治療方法を理解する		20	整形外科疾患の理学療法		整形外科疾患の理学療法を知り、理解を深めることができる。		
6	循環器疾患の理学療法評価と運動療法(講義と演習)		評価や情報収集方法、アセスメント、運動療法について理解する		21	進行性筋ジストロフィー症の理学療法		進行性筋ジストロフィー症に対する理学療法を理解できる。		
7	心肺運動負荷試験と運動処方(講義と演習)		心肺運動負荷試験概要や種類、方法、解釈について理解する		22	精神運動発達遅滞(ダウン症)の理学療法		運動発達遅滞に対する理学療法を理解できる。		
8	症例演習(演習)		模擬症例から、運動処方、教育指導方法等を作成、発表する。		23	小児領域における装具療法と生活指導		装具療法と生活指導に関して理解することができる。		
9	糖尿病の理学療法		糖尿病の病態や治療について理解することができる。		24	脳性麻痺総論 運動障害とその運動療法		脳性麻痺における運動療法を学習し、理解する。		
10	腎疾患の理学療法		腎疾患の病態や治療について理解することができる。		25	タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法①痙直型片麻痺		痙直型片麻痺に関する理学療法を理解する。		
11	高血圧に対する理学療法		高血圧の病態や治療について理解することができる。		26	タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法②痙直型片麻痺		痙直型片麻痺に関する理学療法を理解する。		
12	脂質異常症に対する理学療法		脂質異常症の病態や治療について理解することができる。		27	タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法③痙直型両麻痺		痙直型両麻痺に関する理学療法を理解する。		
13	肥満に対する理学療法		肥満の病態や治療について理解することができる。		28	タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法④痙直型両麻痺		痙直型両麻痺に関する理学療法を理解する。		
14	代謝障害に対する理学療法演習		模擬症例から、運動処方、教育指導方法等を作成、発表する。		29	タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法⑤アトニーゼ		脳性麻痺アトニーゼ型に関する理学療法を理解する。		
15	代謝障害に対する理学療法まとめ		代謝障害に対する理学療法について、総合的に理解できる。		30	重症心身障害児(重症児)の病態症状とその理学療法		重症心身障害児の病態と理学療法を理解する。		
教科書	書籍名				著者		出版社			
	最新理学療法講座 内部障害理学療法学				高橋哲也 他		医歯薬出版			
	小児理学療法学テキスト 改定第3版				田原弘幸 他		南江堂			
参考図書等	理学療法ハンドブック 第1巻 第4版				細田多穂		協同医書出版社			
成績評価方法	・確認テスト(100%) 循環器・代謝・小児領域それぞれでテストを行います。				履修上の注意	・2年次の理学療法評価学Ⅲで行った内容を復習しておくこと。				
					実務経験紹介	急性期病院で理学療法士として15年間の実務経験あり。(前原)				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療演習Ⅰ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	前田 有輝／尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床において対象となる運動器障害について、その病態と治療を理解するとともに、理学療法士が果たす役割を修得する。特にこの講座では、スポーツ障害・関節リウマチ、脊髄損傷について学ぶ。					【到達目標】 ・スポーツ障害分野での理学療法士の役割を理解し、その基礎を身に付ける ・外傷の病態と理学療法を習得する ・脊髄損傷の特徴を理解し、損傷レベル別の目標・動作が理解できる。					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	運動器の基礎理論		運動科学に基づく運動・動作の原則について理解する		16	脊髄損傷に関する解剖生理学		脊髄の役割と伝導路が説明できる		
17					脊髄損傷のメカニズム		脊髄が損傷した場合に起こる障害について説明できる			
3	脊椎疾患の理学療法		腰椎椎間板ヘルニア 脊柱管狭窄症の病態を理解し 一般的な理学療法について説明ができる		18	脊髄損傷の評価（Frankel分類）		ASIA・Frankel分類などを理解し説明できる		
19					脊髄損傷の評価（デルマトーム、keymuscle）		ASIA・Frankel分類などを理解し説明できる			
20					脊髄損傷の評価（ADL予測）		ADL予測、合併症などを理解し説明できる			
6	創傷・熱傷		創傷の治癒過程が説明でき 熱傷の理学療法を理解する		21	脊髄損傷の訓練（総論・到達可能ADL）		高位頸髄損傷患者のADL訓練について説明、実施できる		
7	関節リウマチ（RA）		リウマチの病態が説明でき 一般的な理学療法を理解する		22	脊髄損傷の訓練（上位脊髄損傷・マット上動作）		頸髄損傷患者のマット上動作訓練について説明、実施できる		
8	関節軟部組織性障害① ACL（前十字靱帯）損傷		ACL損傷の病態について調べ 一般的な理学療法を理解する		23	脊髄損傷の訓練（下位脊髄損傷・マット上動作）		胸・腰髄損傷患者のマット上動作について説明、実施できる		
9					脊髄損傷の訓練（上位脊髄損傷・ベッド上動作）		脊髄損傷患者のベッド上動作訓練について説明、実施できる			
10	関節軟部組織性障害② 半月板損傷		半月板損傷の病態について調べ 一般的な理学療法を理解する		25	脊髄損傷の訓練（下位脊髄損傷・ベッド上動作）		脊髄損傷患者のベッド上動作訓練について説明、実施できる		
11					脊髄損傷の訓練（移乗・車椅子）		脊髄損傷患者の移動・移乗訓練について説明、実施できる			
12	関節軟部組織性障害③ 足関節外側側副靱帯損傷		足関節外側側副靱帯損傷の病態について調べ 一般的な理学療法を理解する テーピングの巻き方について理解し模倣できる		27	脊髄損傷の訓練（日常生活）		脊髄損傷患者のADLをFIMに沿って説明できる		
28					脊髄損傷の治療・管理法（ポジショニング）		脊髄損傷患者のポジショニング方法について説明、実施できる			
14					脊髄損傷の治療・管理法（排尿排便管理・体温調整）		排尿排便管理・体温調整について説明できる			
15	まとめ		運動器障害・スポーツ障害の理学療法を理解する		30	脊髄損傷と車いす・機器・自助具		移動補助具について説明でき、前輪上げを実施できる		
教科書	書籍名				著者		出版社			
	運動器障害理学療法テキスト				細田 多穂 他		南江堂			
	標準整形外科学 第15版				監修 井樋 栄二 津村 弘		医学書院			
参考図書等	脊髄損傷リハビリテーションマニュアル				神奈川県リハビリテーション病院脊髄損傷委員会 編		医学書院			
	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学適宜紹介				監修 奈良 勲		医学書院			
成績評価方法	1. 演習への取り組み（20％） 2. 筆記試験（80％） 運動器・スポーツ障害分野と脊髄損傷の分野を合算し成績とする				履修上の注意	・2つの分野に分かれ進行する ・脊髄の解剖、筋肉の髄節レベルは麻痺・動作を理解するのに重要となる。授業毎に小テストを行う				
					実務経験紹介	医療機関にて理学療法士として勤務 学外活動においてスポーツ分野にも携わる（前田）				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療演習Ⅱ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	3年	理学	学期	前後期	授業形態	演習
担当	溝口 桂／川端 悠士／楫野 允也						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 本講義は呼吸器疾患、切断後、がんに対する理学療法について、それぞれの基本的理学療法を理解するとともに、評価、治療のプログラム作成に結びつけることができるように学習します。 また、理学療法効果を解釈するために必要な理学療法研究について、講義・演習を通して、その基礎となる内容を理解することを目的とします。					【到達目標】 ・呼吸器疾患の基本的理学療法を理解し、実施することができる。 ・気道吸引の理論を理解し、シュミレーターを用いて実施することができる。 ・切断後に対する基本的理学療法を理解し、実施することができる。 ・がん患者に対する基本的理学療法を理解し、実施することができる。					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	オリエンテーション		本講義の進め方、評価方法等を理解できる。		16	検査・測定の重要性、測定値の解釈		信頼性・妥当性、感度・特異度、基準値・標準値等を理解する。		
2	呼吸器疾患の理学療法 ①コンディショニング		コンディショニングについて理解し、実施することができる。		17	文献検索と診療ガイドライン		文献検索の基本的な方法、診療ガイドラインに関して理解する。		
3	呼吸器疾患の理学療法 ②運動療法		呼吸器疾患の運動療法について理解し、実施することができる。		18	論文抄読の方法		PECO、FIRMNESSに基づく論文抄読、研究デザイン等を理解する。		
4	呼吸器疾患の理学療法 ③日常生活指導等		呼吸器疾患に対する日常生活指導を理解し、実施することができる。		19	論文抄読の方法(演習) ①		原著論文を抄読しグループで討議することによって、PECOに基づく論文抄読の方法、研究デザイン、バイアスに関して理解する。		
5	呼吸器疾患の理学療法 ④呼吸介助・呼吸練習		呼吸介助を理解し、学生に実施することができる。		20	論文抄読の方法(演習) ②		がんのリハビリテーションの基本的な病態について理解する。		
6	呼吸器疾患の理学療法 ⑤排痰法・気道吸引		排痰法について理解し、吸引も含め実施することができる。		21	がんのリハビリテーション 総論		がんリハビリテーションの対象について理解する。		
7	外科術後の呼吸理学療法		外科術後理学療法の目的について理解できる。		22	がんのリハビリテーション の対象		目的について理解し、理学療法の役割を考えることができる。		
8	外科術後の呼吸理学療法 の実際		外科術後の理学療法をシュミレートし、実施することができる。		23	がんのリハビリテーション の目的と特徴		がんの部位ごとの治療過程に合わせた理学療法が理解できる。		
9	切断に対する理学療法 総論		切断に対する理学療法の概略を理解する。		24	がんのリハビリテーション の疾患別の役割		がんの部位ごとにグループワークにて症例を作成するとともに、評価・プログラムを考案することができる。		
10	切断に対する理学療法 総論		切断に対する理学療法の概略を理解し、説明できる。		25	がんのリハビリテーション の症例・プログラム作成		グループワークで作成した内容を発表することができる。		
11	切断に対する理学療法 各論		切断に至る疾患等について理解する。		26	がんのリハビリテーション の症例・プログラム作成		発表後、リフレクションを通して理解を深めることができる。		
12	切断に対する理学療法 各論		各部位の切断に対する対処を理解する。		27	がんのリハビリテーション プログラム発表①		演習を通じて学習した内容に関して振り返り、症例をまとめる。		
13	下肢切断例に対する理学療法 評価		大腿・下腿切断例に対する基本的理学療法評価について理解する。		28	がんのリハビリテーション プログラム発表②・まとめ		グループワーク毎に発表し、理解を深める。		
14	下肢切断例の異常歩行と 理学療法実践		切断例の異常歩行と基本的な理学療法について理解する。		29	演習まとめ①				
15	臨床研究の意義・臨床研究 の流れ		臨床研究の意義を学び、一般的な臨床研究の流れを理解する。		30	演習まとめ②				
教科書	書籍名				著者		出版社			
	最新理学療法講座 内部障害理学療法学				高橋 哲也 他		医歯薬出版			
	【参考図書】 適宜紹介									
参考 図書等										
成績評価 方法	・小テスト(20%) ・確認テスト(80%) 呼吸器疾患、下肢切断、がん、研究法と分野ごとにそれぞれ小テスト及び科目終了時の試験を行う。 最終評定は、各科目の成績を総合して、基準のものに算出する。				履修上の 注意	・各講師の日程により、開講日が不規則となる可能性がある。随時スケジュールを把握して、出席すること。また、必要な教科書、参考資料等事前に確認しておくこと。 ・実技科目は実習着で参加すること。				
					実務経験 紹介	理学療法士として医療機関において、急性期・回復期などの実務経験22年あり。(楫野)				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法治療演習Ⅲ					
単位数	2	時間数	60	学年/学科	3年	理学	学期	後期	授業形態	演習
担当	特別講師						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床実習Ⅰ終了後(1・2月)に各分野の症例検討をしながら評価の復習と総合実習に向けての治療プログラム立案を行う。					【到達目標】 ・各疾患の評価(統合・解釈含む)ができるようになる ・理学療法プログラムの立案及び実践ができるようになる					
回数	授業内容				学習目標					
【授業計画】 1. 整形外科疾患のケーススタディ 2. 脳血管疾患のケーススタディ 3. 心疾患のケーススタディ 4. 経験した症例のまとめ										
教科書	書籍名				著者			出版社		
	適宜紹介・購入									
参考 図書等	適宜紹介・購入									
成績評価 方法	1. 演習への取り組み(20%) 2. 演習課題(40%) 3. 筆記試験(40%)				履修上の 注意	・各回の授業で提示される課題を必ず完了すること ・授業は、実技も含むので必ず実習着着用で出席すること				
					実務経験 紹介	総合病院にて理学療法士として勤務				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	義肢装具学各論					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学・作業	学期	前期	授業形態	講義
担当	大坪 誠、他						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 リハビリテーション医学における義肢装具(療法)は、機能代償を目的で処方されることもあるが、治療の過程で用いられる頻度も高い。本講義では、臨床に則した内容で講義する。					【到達目標】 ・義肢装具の種類と疾患・障害を結びつけられるようになる ・義肢装具の分類(種類)と評価方法を理解する					
回数	授業内容					学習目標				
1	上肢装具					上肢におけるスプリントの適応、作製手順、注意点について理解する				
2	スプリント作製実習①					熱可塑性プラスチックを使用し、手関節の安静位保持を目的とするスプリントの作製を経験する				
3	スプリント作製実習②					熱可塑性プラスチックを使用し、手関節の安静位保持を目的とするスプリントの作製を経験する				
4	スプリント作製実習③					熱可塑性プラスチックを使用し、手関節の安静位保持を目的とするスプリントの作製を経験する				
5	義手①					義手の種類、構造、部品について理解する				
6	義手②					肩義手、上腕義手、前腕義手、手部義手の適応について理解する				
7	筋電義手					筋電義手の構造、制御システム、手先具の種類について理解する				
8	大腿義足① (大腿切断原因と断端管理)					大腿義足について、大腿切断原因と断端管理について理解する				
9	大腿義足② (ソケットデザインとアライメント)					大腿義足について、ソケットデザインとアライメントについて理解する				
10	大腿義足③ (異常歩行とその調整)					大腿義足について、異常歩行時の調整について理解する				
11	下腿義足① (下腿切断原因と断端管理)					下腿義足について、大腿切断原因と断端管理について理解する				
12	下腿義足② (ソケットデザインとアライメント)					下腿義足について、ソケットデザインとアライメントについて理解する				
13	下腿義足③ (異常歩行とその調整)					下腿義足について、異常歩行時の調整について理解する				
14	まとめ①:義足の理解とリハビリテーションの考え方					義足リハビリテーションにおける基本的な考え方を理解する				
15	まとめ②:下肢装具のバイオメカニクス					AFOの役割と歩行中のAFOによる歩行の変化について理解する				
教科書	書籍名					著者				
	義肢装具のチェックポイント					日本整形外科学会				
	装具学					編 加倉井 周一				
	義肢学					編 沢村 誠志				
参考図書等										
成績評価方法	1. 定期試験(80%) ※定期試験の合格点は60点以上とする 2. 実習への取り組み(20%)					履修上の注意	・整形外科疾患、中枢神経疾患の病態、障害を理解して授業に臨むこと ・実習ではフットワークよく動くこと			
						実務経験紹介	義肢装具士として長年に渡り義肢、装具の作製に携わっている。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法特論Ⅰ					
単位数	2	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	後期	授業形態	演習
担当	特別講師						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床現場で担当する疾患や障害の理学療法についての知識・技術を深めるとともに、5月から展開される臨床実習Ⅱにおける理学療法の実践(評価・治療)の一助とする。					【到達目標】 ・臨床現場で遭遇する運動器障害や脳血管障害の評価治療の流れを、講師の豊富な臨床経験を聞く中から、自らのものにする ・1年後の入職時、1人前の理学療法士として基本的な理学療法が実施できる技術を身に付ける					
回数	授業内容				学習目標					
【授業計画】 1. 中枢神経疾患の動作分析 2. 心臓リハビリテーションの実践 3. 手の外科 4. 画像評価 5. トピックス										
教科書	書籍名				著者			出版社		
	適宜紹介									
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1. 演習への取り組み(20%) 2. 演習課題(80%)				履修上の 注意	3年次の臨床実習Ⅰを終了していること 次の実習に役立つよう自己努力を惜しまぬように 講義・実技に取り組むこと				
					実務経験 紹介	総合病院や施設にて理学療法士として勤務				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	地域理学療法学					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	前期	授業形態	講義
担当	尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 2年次に履修した地域リハビリテーション学をふまえ、地域における理学療法に必要な知識。技術を身に着ける。また、治療技術の習得だけにとられず、生活全般における障害を理解し、理学療法士としての視点を 得ることを目指す。 また、高齢者、障害者に対する社会制度を知ること で、現在、理学療法士に何を求められているかを再認識する。					【到達目標】 ・地域における理学療法士の役割を説明できる ・介護保険の概要とサービスについて説明できる ・自分の住む地域の社会資源について調べることが できる					
回数	授業内容					学習目標				
1	オリエンテーション 地域で暮らすということ①					訪問理学療法の事例から、地域で暮らすために理学療法士 が関わる意義を感じることができる				
2	地域で暮らすということ②					訪問理学療法の事例から、地域で暮らすために理学療法士 が関わる意義を感じることができる				
3	介護保険制度①					介護保険の理念と基本的な仕組みについて説明できる				
4	介護保険制度②					介護保険の理念と基本的な仕組みについて説明できる				
5	介護保険サービス					介護保険サービスを列挙し、それぞれの概要を説明できる				
6	社会資源調査①グループワーク(演習)					自分の住む地域の社会資源を調査できる				
7	社会資源調査②グループワーク(演習)					自分の住む地域の社会資源を調査できる				
8	社会資源調査③発表・まとめ					互いの地域の特徴を比べ、地域の特徴と問題を列挙できる				
9	在宅支援における医療処置					在宅支援における医療処置について説明できる				
10	ケアプランを考える①情報収集と整理(演習)					模擬症例について、情報を収集し内容を整理できる				
11	ケアプランを考える②ニーズ抽出と目標設定(演習)					模擬症例について、在宅生活を継続するためのニーズを抽 出し、目標を設定できる				
12	ケアプランを考える③サービスの選考(演習)					模擬症例について、目標を達成するために必要なサービス を選考することができる				
13	ケアプランを考える④理学療法の関わり方とプログラ ム立案(演習)					模擬症例について、ケアプラン内での理学療法士の関わり 方とプログラムを立案することができる				
14	介護予防と理学療法士の関わり					介護予防の概要を説明でき、行われている体操を実施する ことができる				
15	まとめ					地域での理学療法士の役割について説明できる				
教科書	書籍名					著者		出版社		
	適宜紹介・購入									
参考 図書等	山口市 介護保険のしおり									
成績評価 方法	1.筆記試験(80%) 2.演習課題(20%)					履修上の 注意	・グループ演習を実施するため、他のメンバーと 協力し主体的に取り組むこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	地域理学療法学演習					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	3年	理学	学期	前後期	授業形態	演習
担当	尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有
【授業の概要】 これまでに学んだ様々な知識と技術を統合し、地域において理学療法士に何ができるかを考える					【到達目標】 ・地域リハビリテーション・総合支援事業などの仕組みを理解する ・運動機能向上プログラムの基本を学ぶ ・在宅支援について学ぶ					
回数	授業内容					学習目標				
1	維持期・生活期の理学療法①					維持期・生活期の理学療法の概要を説明できる				
2	維持期・生活期の理学療法②					維持期・生活期の理学療法の進めかたを説明できる				
3	介護予防のための基礎技術①マシントレーニング					介護予防現場で使用するマシントレーニングを実施できる				
4	介護予防のための基礎技術②エアロピクス					介護予防現場で行われるエアロピクスを実施できる				
5	住宅改修関連機器について①(特別講義)					住宅改修における機器を見学し、使用方法を説明できる				
6	住宅改修関連機器について②(特別講義)					住宅改修における機器を見学し、使用方法を説明できる				
7	転倒予防					転倒予防プログラムを実施できる				
8	産業理学療法①腰痛対策					産業理学療法における腰痛対策指導を実施できる				
9	産業理学療法②小・中学生への支援					産業理学療法における小・中学生への健康指導を実施できる				
10	症例検討：在宅退院にむけて①					在宅退院に向けた模擬患者の症例検討にて、問題点の抽出とゴールを設定できる				
11	症例検討：在宅退院にむけて②					在宅退院に向けた模擬患者の症例検討にて、理学療法の関わり方と方法を説明できる				
12	症例検討：在宅退院に向けて③					在宅退院に向けた模擬患者の症例検討にて、環境評価と住宅改修、福祉用具の提案ができる				
13	症例検討：地域課題を考える①					地域で暮らす症例の問題点をもとに、地域課題を列挙することができる				
14	症例検討：地域課題を考える②					地域課題を解決するための方法を考え、発表することができる				
15	まとめ					地域における理学療法の内容について説明できる				
教科書 参考 図書等	書籍名					著者		出版社		
	適宜紹介・購入									
成績評価 方法	1.演習課題(50%) 2.グループ課題(50%)					履修上の 注意	・特別講義、学外実習等様々な開講形態になるので、その都度予定を確認すること。 ・学外実習については、頭髪、服装などの身なりについては正すこと。			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	地域理学療法学実習(福祉施設)						
単位数	1	時間数	45	学年/学科	3年	理学	学期	前後期	授業形態	実習	
担当	尾畑 敏江						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有	
【授業の概要】 これまでに学んだ様々な知識と技術を統合し、地域において理学療法士に何ができるかを考える					【到達目標】 ・運動機能向上プログラムの立案と実施ができる ・地域リハビリテーション、地域包括ケアの中で理学療法士の役割を理解する						
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標			
1	総合支援事業について① (特別講義)		特別支援事業について説明できる		13	介護予防プログラムの作成①		20分の介護予防プログラムを作成できる			
2	総合支援事業について② (特別講義)		特別支援事業について説明できる		14	介護予防プログラムの作成②		20分の介護予防プログラムを作成できる			
3	総合支援事業について③ (特別講義)		特別支援事業について説明できる		15	介護予防プログラムの作成③		20分の介護予防プログラムを作成できる			
4	総合支援事業について④ (特別講義)		特別支援事業について説明できる		16	介護予防プログラムの作成④		20分の介護予防プログラムを作成できる			
5	地域包括ケアについて① (特別講義)		地域包括ケアでの理学療法士の役割を説明できる		17	介護予防プログラムの実施①		立案したプログラムを実施し、検討できる			
6	地域包括ケアについて② (特別講義)		地域包括ケアでの理学療法士の役割を説明できる		18	介護予防プログラムの実施②		立案したプログラムを実施し、検討できる			
7	訪問リハビリテーションと理学療法①(特別講義)		訪問理学療法について説明できる		19	介護予防プログラムの実施③		立案したプログラムを実施し、検討できる			
8	訪問リハビリテーションと理学療法②(特別講義)		訪問理学療法について説明できる		20	介護予防プログラムの実施④		立案したプログラムを実施し、検討できる			
9	介護老人保健施設における理学療法士の役割①(特別講義)		介護老人保健施設における理学療法士の役割を説明できる		21	地域包括ケアセンター見学実習①		地域包括ケアセンターを見学し、役割を説明できる			
10	介護老人保健施設における理学療法士の役割②(特別講義)		介護老人保健施設における理学療法士の役割を説明できる		22	地域包括ケアセンター見学実習②		地域包括ケアセンターを見学し、役割を説明できる			
11	通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割①(特別講義)		通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる		23	まとめ		各施設における理学療法士の役割を説明できる			
12	通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割②(特別講義)		通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる								
教科書	書籍名				著者				出版社		
	適宜紹介・購入										
参考図書等	適宜紹介										
成績評価方法	1.特別講義課題(50%) 2.演習課題(30%) 3.見学実習課題(20%)				履修上の注意	・特別講義、学外実習等様々な開講形態になるので、その都度予定を確認すること ・学外実習については、頭髪、服装などの身なりについて正すこと					
					実務経験紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり。					

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅰ						
単位数	5	時間数	200	学年/学科	3年	理学	学期	後期	授業形態	実習	
担当	理学療法学科教官						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有	
【授業の概要】 医療機関において、理学療法士による直接指導の下、 理学療法業務を学ぶ。					【到達目標】 様々な情報を統合解釈し、問題点の抽出、ゴール設定、 理学療法プログラムの立案までの「理学療法の流れ」を学ぶ。						
回数	授業内容					学習目標					
【授業計画】 実習期間 2024年(令和6年)10月28日～12月6日までの25日間 実習場所 県内・県外の医療機関(1施設)で実施											
教科書 参考 図書等	書籍名				著者				出版社		
	臨床実習の手引き 第27期生版				山口コ・メディカル学院 理学療法学科						
	適宜紹介										
成績評価 方法	1. 経験報告会(50%) 2. 実技口頭試験(50%)				履修上の 注意	・社会人としてマナーを厳守すること ・実習終了後、実習経験報告会、到達度確認試験を行う					
					実務経験 紹介	医療機関にて理学療法士として勤務経験あり					

4 年 次

専 門 科 目

- | | |
|-------------|---------|
| ◇ 理学療法研究法 | ◇ 臨床実習Ⅱ |
| ◇ 理学療法セミナーⅤ | ◇ 臨床実習Ⅲ |
| ◇ 理学療法セミナーⅥ | ◇ 臨床実習Ⅳ |
| ◇ 理学療法管理学 | |
| ◇ 理学療法特論Ⅱ | |

理学療法学科

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法研究法					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	4年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	川端 悠士						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】					【到達目標】					
・理学療法学研究の基礎(研究デザイン、研究倫理、事例研究)に関して講義を行う。 ・基本的な統計学的解析について講義・演習を行い、統計学的検定の選択方法について学修する。 ・総合演習ではグループで研究計画を立案し、データ収集、データ解析、プレゼンテーションといった研究の一連の流れを経験する。 ・理学療法士国家試験過去問題を講義資料として、傾向と対策、出題の意図について解説する。					・研究デザイン、研究倫理、事例研究といった理学療法学研究の基礎について理解する。 ・2群間の差の検定、相関分析、分散分析といった基本的な統計学的検定の選択方法を理解し、フリーソフトを使用して基本的な解析ができる。 ・研究計画立案、データ収集、データ解析、プレゼンテーションといった研究の一連の流れを理解できる。 ・理学療法士国家試験過去問題を理解し解答できる。					
回数	授業内容				学習目標					
1	研究デザインの基礎知識				研究デザインの分類について学び、観察研究・介入研究の基本的な手法について理解する。					
2	研究倫理				理学療法研究を実施するうえで遵守すべきルールや倫理的手続きについて理解する。					
3	事例研究に関する基礎知識				事例研究の手法であるシングルケースデザインについてその意義や方法について理解する。					
4	記述統計と2群の差の検定				記述統計と2群間の差の検定の方法について学び、代表値や2群の差の検定の選択方法について理解できる。					
5	記述統計と2群の差の検定(演習)				代表値の算出や2群の差の検定について、操作手順書を確認しながらEZRを用いた解析が実践できる。					
6	記述統計と2群の差の検定(演習)				代表値の算出や2群の差の検定について、操作手順書を確認しながらEZRを用いて解析が実践できる。					
7	相関分析と分散分析				相関分析と分散分析の方法について学び、相関分析や分散分析の検定の選択方法について理解できる。					
8	相関分析と分散分析(演習)				相関分析と分散分析について、操作手順書を確認しながらEZRを用いた解析が実践できる。					
9	相関分析と分散分析(演習)				相関分析と分散分析について、操作手順書を確認しながらEZRを用いた解析が実践できる。					
10	グループ総合演習 研究計画立案(演習)				演習を通じて、研究計画立案の流れを理解できる。					
11	グループ総合演習 データ測定(演習)				演習を通じて、データ測定時の留意点や測定したデータのまとめ方について理解できる。					
12	グループ総合演習 データ解析(演習)				演習を通じて、適切な検定方法の選択や正しい解析結果の解釈の方法について理解できる。					
13	グループ総合演習 プレゼンテーション(演習)				演習を通じて、プレゼンテーション資料の作成やプレゼンテーションの方法について理解できる。					
14	国家試験対策				過去10年に出题された研究法に関する理学療法士国家試験の過去問題の設問・回答について理解できる。					
15	国家試験対策				過去10年に出题された研究法に関する理学療法士国家試験の過去問題の設問・回答について理解できる。					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	適宜紹介									
参考図書等	初心者でもすぐに行えるフリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析				神田善伸		南江堂			
	サラッとできるフリー統計ソフトEZR(Easy R)でカンタン統計解析				神田善伸		オーム社			
成績評価方法	1.演習課題(40%) 2.グループ課題(20%) 3.確認テスト(40%)				履修上の注意		グループ総合演習では、学生同士の意見交換の場が学びの主体となるため、積極的な態度で授業に臨むこと。可能な限りフリーソフトがインストールできるPCを準備すること。			
					実務経験紹介		理学療法士として医療機関で20年間の実務経験あり。			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法セミナーⅤ					
単位数	1	時間数	30	学年/学科	4年	理学	学期	前期	授業形態	演習
担当	理学療法学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床実習Ⅰを終え、学内教育の必要性和応用の難しさを実感している状況において、理学療法の基礎の復習と再獲得を目指す。					【到達目標】 ・臨床実習Ⅰでの自己学習と体験・経験に基づき、障害像と理学療法の関係性について復習する。 ・臨床実習Ⅰで経験した理学療法技術を復習するとともに、臨床への応用方法を学習する。 ・様々なケーススタディを通して、理学療法の思考過程を学習する。					
回数	授業内容					学習目標				
1. 理学療法の基本技術の復習と臨床応用について 1) 検査・測定 2) 治療技術・動作介助技術 2. 理学療法ケーススタディ 1) 脳血管疾患 2) 整形外科疾患 3) 神経筋疾患 4) 内部疾患 3. 理学療法基礎知識のまとめ 1) 解剖学・生理学・運動学の復習 2) 各種疾患の復習 3) 自己学習の内容の復習										
教科書	書籍名				著者			出版社		
	臨床実習の手引き ー26期生用ー				山口コ・メディカル学院 理学療法学科					
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	1. 筆記試験(基礎知識)(50%) 2. 実技試験(50%)				履修上の 注意	理学療法士を目指す学生として自覚を持ち、「講義を受ける」のではなく、「自ら学びとる」姿勢で、積極的に自己学習に努めること。				
					実務経験 紹介	医療機関での実務経験あり				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法セミナーⅥ					
単位数	2	時間数	90	学年/学科	4年	理学	学期	後期	授業形態	演習
担当	理学療法学科教員						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 理学療法士に必要な知識・技術のまとめを行うとともに、理学療法士としての考えや取り組む姿勢の向上を目指す。					【到達目標】 ・理学療法士に求められる社会的スキル・認知スキル・精神運動スキルの向上。 ・国家資格取得に求められる知識の定着を図る。					
回数	授業内容					学習目標				
【授業計画】 1. 症例まとめ 経験した症例のまとめを通して、理学療法の理解を深める。 2. 国家試験に向けて 1) 受験対策(グループ学習等の実施) 2) 集中セミナー 「心臓リハビリテーションの急性期リスク管理」 2コマ 「脳血管障害の急性期リスク管理」 2コマ 3) 模擬試験実施 3. 理学療法士資質向上に向けて 1) 特別講義 ①これからの理学療法士に求められるもの ②卒後教育・生涯学習について 4. その他 状況に応じて、適宜、特別講義やセミナーを開講予定。 <u>計画的に行われる模試結果を単位認定の判定資料とする。</u>										
教科書 参考 図書等	書籍名				著者			出版社		
	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎医学							医歯薬出版		
	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 臨床医学							医歯薬出版		
	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎編							医歯薬出版		
	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 疾患別編							医歯薬出版		
	クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士 共通問題							メディックメディア		
成績評価 方法	クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士 専門問題							メディックメディア		
	1. 課題 2. 症例試験 3. 模擬試験				履修上の 注意		国家試験受験対策ではグループ学習が中止となるため、協調性を持って取り組むこと。			
					実務経験 紹介		医療機関での実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法管理学					
単位数	2	時間数	30	学年/学科	4年	理学	学期	後期	授業形態	講義
担当	石松元太郎、高橋博愛、通山賢一、吉富智江 他						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 理学療法は、リハビリテーション医療の中核的立場を担う部門として、重要なポジションを占める。その活動範囲は、保険福祉領域まで拡大している。それに伴って、関係職種との協働作業也多岐にわたり、益々、理学療法士としての適正を問われる時代に突入したとも言える。「医療はサービス業である」という原点に立ち返り、理学療法部門における有形無形のサービスについて考え、医療人・社会人としての心構えを養う。					【到達目標】 ・理学療法士を取り巻く関係法規について理解する。 ・理学療法士としての管理運営関連事項について理解する。 ・入職後の専門職としての意識を高める。					
回数	授業内容				学習目標					
1	職業倫理①				医療提供者に求められる倫理を理解する。医療倫理と患者の堅持を理解する。					
2	管理運営①				組織論、管理・管理的活動を理解する。情報管理の重要性を理解する。					
3	管理運営②				組織論、管理・管理的活動を理解する。情報管理の重要性を理解する。					
4	人間関係				組織における人間関係を理解する					
5	医療経済学				診療報酬と理学療法の関係性を理解する					
6	医療安全対策と理学療法①				病院施設における医療安全対策を理解する					
7	医療安全対策と理学療法②				病院施設における医療安全対策を理解する					
8	理学療法士の組織と活動				日本理学療法士協会・各都道府県理学療法士会を理解する					
9	生涯教育				生涯学習の必要性、日本理学療法士協会の新人教育プログラムを理解する					
10	理学療法の教育方法論①				教授活動と行動目標、臨床実習教育を理解する					
11	理学療法の教育方法論②				教授活動と行動目標、臨床実習教育を理解する					
12	関連法規①				理学療法士法作業療法士法、医療法、介護保険法を理解する					
13	関連法規②				障害者総合支援法の成立経緯をを理解する					
14	関連法規③				障害者総合支援法の現状の課題を理解する					
15	まとめ				理学療法士に必要な職業倫理、管理、関係法規の復習					
教科書	書籍名				著者		出版社			
	理学療法概論 第7版				奈良 勲		医学書院			
参考図書等	新人教育プログラム 第6版				社団法人日本理学療法士協会編					
成績評価方法	1. 確認試験(60%) 2. 課題(40%)				履修上の注意	・理学療法士国家試験対策の1講座としての位置づけである。 ・臨床家としての心構えについて再確認する授業として臨むこと。				
					実務経験紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	理学療法特論Ⅱ					
単位数	2	時間数	30	学年/学科	4年	理学	学期	後期	授業形態	演習
担当	小栗・鹿子木・吉野／前原／溝口 他						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	無
【授業の概要】 臨床現場で担当する疾患や障害の理学療法についての知識・技術を深めるとともに、理学療法士の支援を必要とされているパラスポーツ分野を理解し、実践力を学ぶ。					【到達目標】 ・臨床現場で遭遇するスポーツ障害や内部障害について、評価から治療の流れを講師の豊富な臨床経験を聞く中から、自らのものとする。 ・1年後の入職時、一人前の理学療法士として基本的な理学療法が実施できる技術を身につける。					
回数	授業内容					学習目標				
【授業計画】 特別講義(集中講義)として開講する。 1. 脳血管障害の理学療法～リスク管理と運動療法～ 6コマ 2. 心臓リハビリテーションの実際(ケーススタディ) 3. 代謝障害の理学療法(ケーススタディ) 4. パラスポーツ(障がい者スポーツ) 講義・実技 ①「障がいのある人々のスポーツについて～車いすを使用する種目を中心に～」 講義:スポーツの役割、工夫等 実技:車いすバスケット、陸上競技(走・投 視覚障害含む)、ボッチャ他 2.5コマ ②「スポーツレクリエーションプログラムの作成と実施」 講義 実技:レクリエーションプログラムの実践 球技を中心としたパラスポーツの体験 2.5コマ 講師 ①②とも山口県内の公認パラスポーツコーチ、 公認上級パラスポーツ指導員、選手										
教科書	書籍名					著者			出版社	
	適宜紹介									
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	演習課題(100%)					履修上の 注意	フットワークの良い理学療法士として、自覚をもって臨むこと。			
						実務経験 紹介	医療機関での実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	地域理学療法実習(福祉施設)					
単位数	1	時間数	45	学年/学科	4年	理学	学期	前期	授業形態	実習
担当	非常勤講師 他						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有
【授業の概要】 これまでに学んだ様々な知識と技術を統合し、地域において理学療法士に何ができるかを考える					【到達目標】 ・運動機能向上プログラムの立案と実施ができる ・地域リハビリテーション、地域包括ケアの中で理学療法士の役割を理解する					
回数	授業内容		学習目標		回数	授業内容		学習目標		
1	総合支援事業について① (特別講義)		特別支援事業について説明できる		13	介護予防プログラムの作成①		20分の介護予防プログラムを作成できる		
2	総合支援事業について② (特別講義)		特別支援事業について説明できる		14	介護予防プログラムの作成②		20分の介護予防プログラムを作成できる		
3	総合支援事業について③ (特別講義)		特別支援事業について説明できる		15	介護予防プログラムの作成③		20分の介護予防プログラムを作成できる		
4	総合支援事業について④ (特別講義)		特別支援事業について説明できる		16	介護予防プログラムの作成④		20分の介護予防プログラムを作成できる		
5	地域包括ケアについて① (特別講義)		地域包括ケアでの理学療法士の役割を説明できる		17	介護予防プログラムの実施①		立案したプログラムを実施し、検討できる		
6	地域包括ケアについて② (特別講義)		地域包括ケアでの理学療法士の役割を説明できる		18	介護予防プログラムの実施②		立案したプログラムを実施し、検討できる		
7	訪問リハビリテーションと理学療法①(特別講義)		訪問理学療法について説明できる		19	介護予防プログラムの実施③		立案したプログラムを実施し、検討できる		
8	訪問リハビリテーションと理学療法②(特別講義)		訪問理学療法について説明できる		20	介護予防プログラムの実施④		立案したプログラムを実施し、検討できる		
9	介護老人保健施設における理学療法士の役割①(特別講義)		介護老人保健施設における理学療法士の役割を説明できる		21	地域包括ケアセンター見学実習①		地域包括ケアセンターを見学し、役割を説明できる		
10	介護老人保健施設における理学療法士の役割②(特別講義)		介護老人保健施設における理学療法士の役割を説明できる		22	地域包括ケアセンター見学実習②		地域包括ケアセンターを見学し、役割を説明できる		
11	通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割①(特別講義)		通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる		23	まとめ		各施設における理学療法士の役割を説明できる		
12	通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割②(特別講義)		通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる							
教科書	書籍名				著者			出版社		
	適宜紹介・購入									
参考図書等	適宜紹介									
成績評価方法	1.特別講義課題(50%) 2.演習課題(30%) 3.見学実習課題(20%)				履修上の注意	・特別講義、学外実習等様々な開講形態になるので、その都度予定を確認すること ・学外実習については、頭髪、服装などの身なりについて正すこと				
					実務経験紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり。				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅱ					
単位数	7	時間数	280	学年/学科	4年	理学	学期	前期	授業形態	実習
担当	理学療法学科教官						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有
【授業の概要】 臨床現場である病院・施設において、理学療法士による直接指導の下、対象者の状態把握・理学療法を学ぶ。様々な情報を統合解釈し、問題点の抽出、ゴール設定、理学療法プログラムの立案・実施のそれぞれの過程を経験・会得する。知識・技術・態度・マナーの会得を目指し、専門職としての自覚を高める。					【到達目標】 実習指導者の助言・指導の下、①対象者の情報収集、検査測定が行える、②総合的な評価を通じて、基礎知識を統合できる、③理学療法の計画を立てる、④基本的な理学療法を実施する、⑤対象者について、基礎知識を統合できる、⑥対象者の記録と報告ができる、⑦医療機関の組織、リハビリテーション部および理学療法部門の運営管理の基本事項を学ぶ。					
回数	授業内容					学習目標				
【授業計画】 実習期間 2024年5月13日(月)～6月28日(金) 35日間 実習終了後、学内において理解度・到達度等を確認・判定のための実技・口頭試問を実施。 また、経験報告会の状況を含めて単位認定を行う。										
教科書	書籍名				著者			出版社		
	臨床実習の手引きー26期生用ー				山口コ・メディカル学院 理学療法学科					
参考 図書等	適宜紹介									
成績評価 方法	実習の前後で数種類の試験等を実施し、到達度の確認を行う。 実習の状況・態度・取り組み方等も含め、総合的に判定する。				履修上の 注意	臨床実習Ⅱ終了後、単位認定の確認試験を実施する。				
					実務経験 紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり				

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅲ					
単位数	7	時間数	280	学年/学科	4年	理学	学期	前期	授業形態	実習
担当	理学療法学科教官						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有
【授業の概要】 臨床現場である病院・施設において、理学療法士による直接指導の下、対象者の状態把握・理学療法を学ぶ。様々な情報を統合解釈し、問題点の抽出、ゴール設定、理学療法プログラムの立案・実施のそれぞれの過程を経験・会得する。知識・技術・態度・マナーの会得を目指し、専門職としての自覚を高める。					【到達目標】 実習指導者の助言・指導の下、①対象者の情報収集、検査測定が行える、②総合的な評価を通じて、基礎知識を統合できる、③理学療法の計画を立てる、④基本的な理学療法を実施する、⑤対象者について、基礎知識を統合できる、⑥対象者の記録と報告ができる、⑦医療機関の組織、リハビリテーション部および理学療法部門の運営管理の基本事項を学ぶ。					
回数	授業内容					学習目標				
【授業計画】 実習期間 2024年7月22日(月)～9月13日(金) 35日間 実習終了後、学内において理解度・到達度等を確認・判定のための実技・口頭試問を実施。 また、経験報告会の状況を含めて単位認定を行う。										
教科書	書籍名				著者			出版社		
	臨床実習の手引きー26期生用ー				山口コ・メディカル学院 理学療法学科					
参考 図書等	適宜障害									
成績評価 方法	実習の前後で数種類の試験等を実施し、到達度の確認を行う。 実習の状況・態度・取り組み方等も含め、総合的に判定する。					履修上の 注意	臨床実習Ⅱ終了後、単位認定の確認試験を実施する			
						実務経験 紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり			

科目区分	専門	履修形態	必修	科目名	臨床実習Ⅳ					
単位数	1	時間数	40	学年/学科	4年	理学	学期	前期	授業形態	実習
担当	理学療法学科教官						教員の 実務経験	有	企業等 との連携	有
【授業の概要】 4年次実施の臨床実習ⅡまたはⅢ終了後に医療・保健機関の訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション部門において、地域ケア、地域リハにおける理学療法士の責任と役割について学ぶ。					【到達目標】 ・保健・医療・福祉の違いを知る。 ・治療としての理学療法と生活支援のための理学療法の違いを理解する。 ・対象者を一個人として捉え、個々の抱える問題を知り、理学療法プログラムを立案できるようになる。（生活の視点を養う）					
回数	授業内容				学習目標					
【授業計画】 実習期間 臨床実習Ⅲの施設の関連施設の場合は、そのまま連続して実施。 改めて、別施設で実施する場合は、2週間の期間を空けて実施。 予定 2024年9月第2週から4週の間の5日間（40時間） ※7月初旬 実習オリエンテーションとして特別講義開講予定										
教科書	書籍名				著者			出版社		
	臨床実習の手引きー26期生用ー				山口コ・メディカル学院 理学療法学科					
参考 図書等	適宜障害									
成績評価 方法	実習終了後に筆記試験を実施し、総合判定を行う。実習中の状況・態度、取り組み方等も含める。				履修上の 注意	対象者の生活の場に伺うこともあり、言葉遣いやマナーについては、より丁寧に注意すること。実施期間は、個々で異なるためスケジュール管理を確実にすること				
					実務経験 紹介	理学療法士として医療機関での実務経験あり				